

首都圏中央連絡自動車道
戸田高架橋耐震補強工事

設 計 図

【丹尾高架橋】

令和8年9月

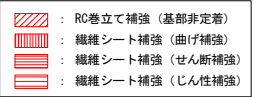
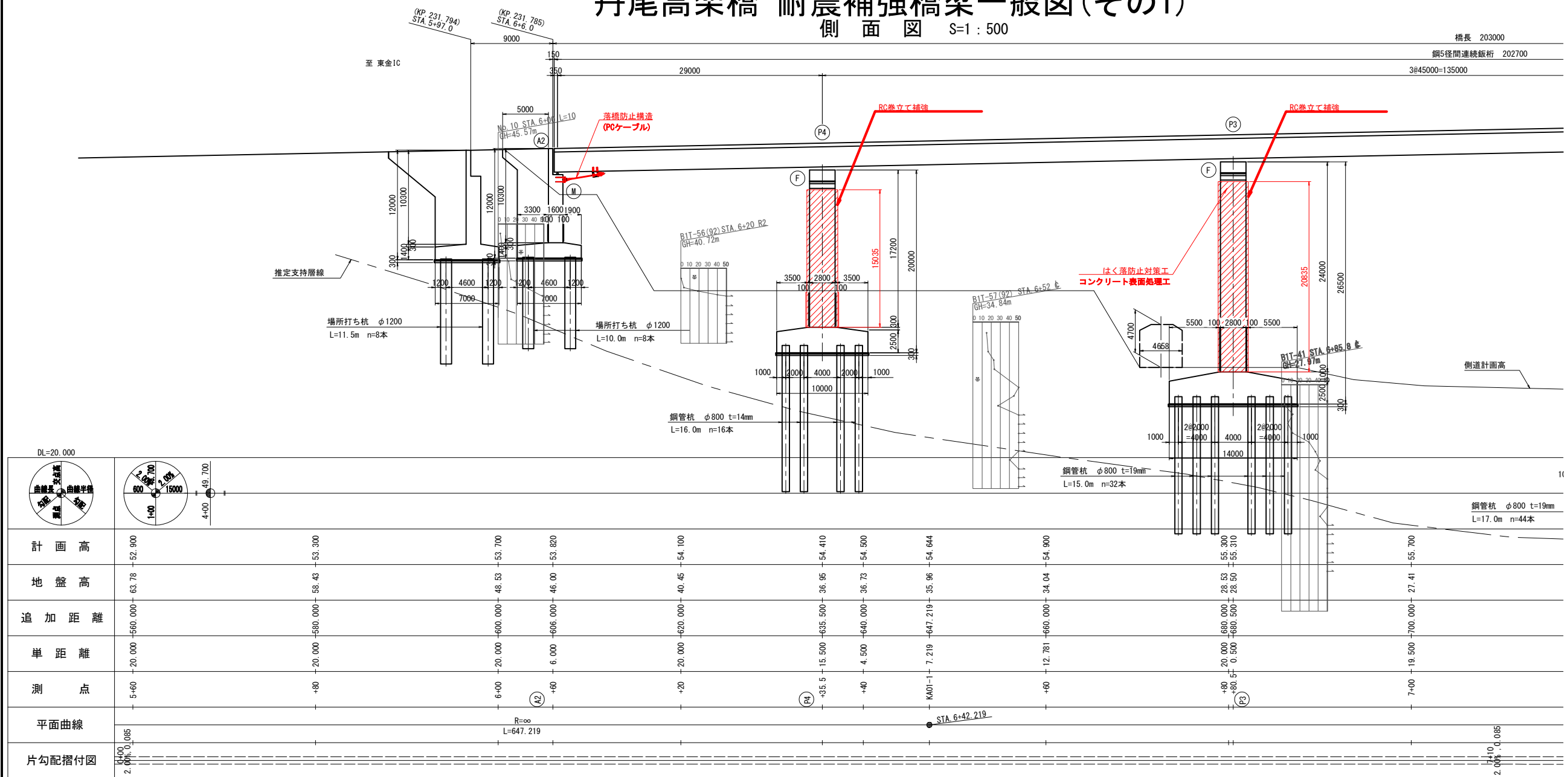
東日本高速道路株式会社
関東支社市原管理事務所

図 面 目 次

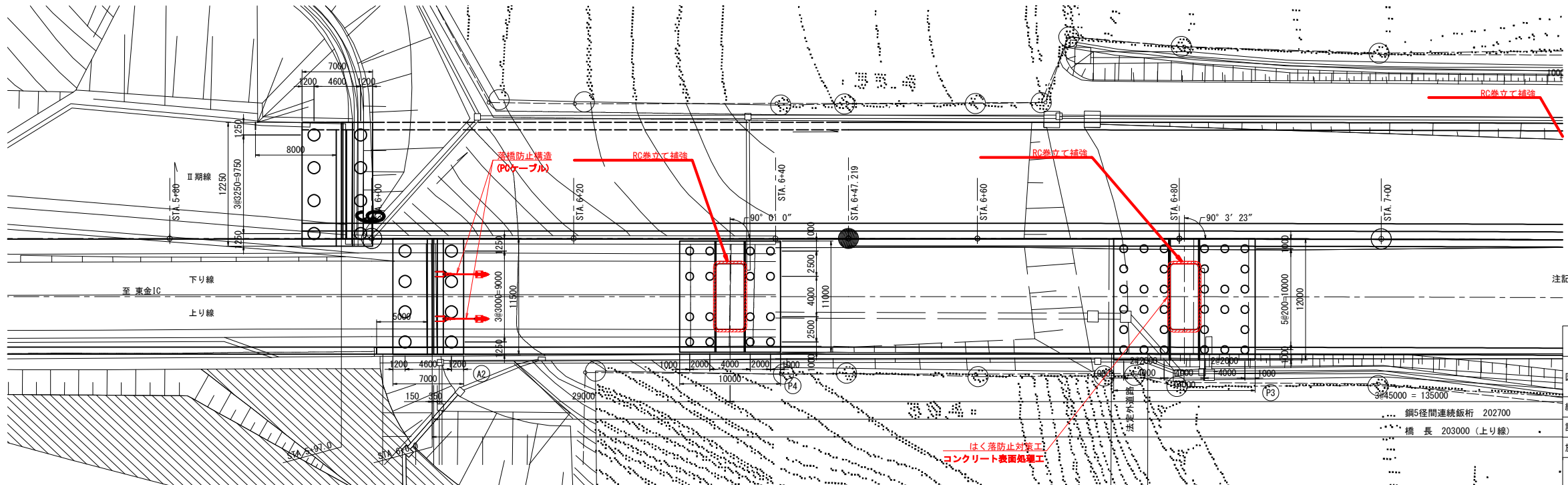
図 面 名	図 番	図 面 名	図 番
1 . 丹尾高架橋 耐震補強橋梁一般図(その1～3)	・ ・ ・ ・ 1 ～ 3	31 . 丹尾高架橋 交通保安要員配置図(参考図)	・ ・ ・ ・ 45
2 . 丹尾高架橋 P1橋脚 RC巻立て補強一般図	・ ・ ・ ・ 4	32 . 丹尾高架橋 A1橋台 補修図	・ ・ ・ ・ 46
3 . 丹尾高架橋 P1橋脚 RC巻立て補強配筋図(その1～3)	・ ・ ・ ・ 5 ～ 7	33 . 丹尾高架橋 A2橋台 補修図	・ ・ ・ ・ 47
4 . 丹尾高架橋 P2橋脚 RC巻立て補強一般図	・ ・ ・ ・ 8		
5 . 丹尾高架橋 P2橋脚 RC巻立て補強配筋図(その1～3)	・ ・ ・ ・ 9 ～ 11		
6 . 丹尾高架橋 P3橋脚 RC巻立て補強一般図	・ ・ ・ ・ 12		
7 . 丹尾高架橋 P3橋脚 RC巻立て補強配筋図(その1～3)	・ ・ ・ ・ 13 ～ 15		
8 . 丹尾高架橋 P4橋脚 RC巻立て補強一般図	・ ・ ・ ・ 16		
9 . 丹尾高架橋 P4橋脚 RC巻立て補強 中間貫通鋼材工詳細図	・ ・ ・ ・ 17		
10 . 丹尾高架橋 P4橋脚 RC巻立て補強配筋図(その1～3)	・ ・ ・ ・ 18 ～ 20		
11 . 丹尾高架橋 A1橋台 落橋防止構造P3配置図	・ ・ ・ ・ 21		
12 . 丹尾高架橋 A1橋台 落橋防止構造P3構造図(その1)(参考図)	・ ・ ・ ・ 22		
13 . 丹尾高架橋 A1橋台 落橋防止構造P3構造図(その2～3)	・ ・ ・ ・ 23 ～ 24		
14 . 丹尾高架橋 A2橋台 落橋防止構造P3配置図	・ ・ ・ ・ 25		
15 . 丹尾高架橋 A2橋台 落橋防止構造P3構造図(その1)(参考図)	・ ・ ・ ・ 26		
16 . 丹尾高架橋 A2橋台 落橋防止構造P3構造図(その2～3)	・ ・ ・ ・ 27 ～ 28		
17 . 丹尾高架橋 下部工施工要領図(参考図)	・ ・ ・ ・ 29		
18 . 丹尾高架橋 上部工施工要領図(参考図)	・ ・ ・ ・ 30		
19 . 丹尾高架橋 コンクリート打設要領図(参考図)	・ ・ ・ ・ 31		
20 . 丹尾高架橋 P1橋脚 構造物掘削図	・ ・ ・ ・ 32		
21 . 丹尾高架橋 P2橋脚 構造物掘削図	・ ・ ・ ・ 33		
22 . 丹尾高架橋 P3橋脚 構造物掘削図	・ ・ ・ ・ 34		
23 . 丹尾高架橋 P4橋脚 構造物掘削図	・ ・ ・ ・ 35		
24 . 丹尾高架橋 P1橋脚 足場工図(参考図)	・ ・ ・ ・ 36		
25 . 丹尾高架橋 P2橋脚 足場工図(参考図)	・ ・ ・ ・ 37		
26 . 丹尾高架橋 P3橋脚 足場工図(参考図)	・ ・ ・ ・ 38		
27 . 丹尾高架橋 P4橋脚 足場工図(参考図)	・ ・ ・ ・ 39		
28 . 丹尾高架橋 A1橋台 上部工施工用足場工図(参考図)	・ ・ ・ ・ 40		
29 . 丹尾高架橋 A2橋台 上部工施工用足場工図(参考図)	・ ・ ・ ・ 41		
30 . 丹尾高架橋 塗装区分図(その1～3)	・ ・ ・ ・ 42 ～ 44		

丹尾高架橋 耐震補強橋梁一般図(その1)

側 面 図 S=1 : 500



平面图 S=1 : 500



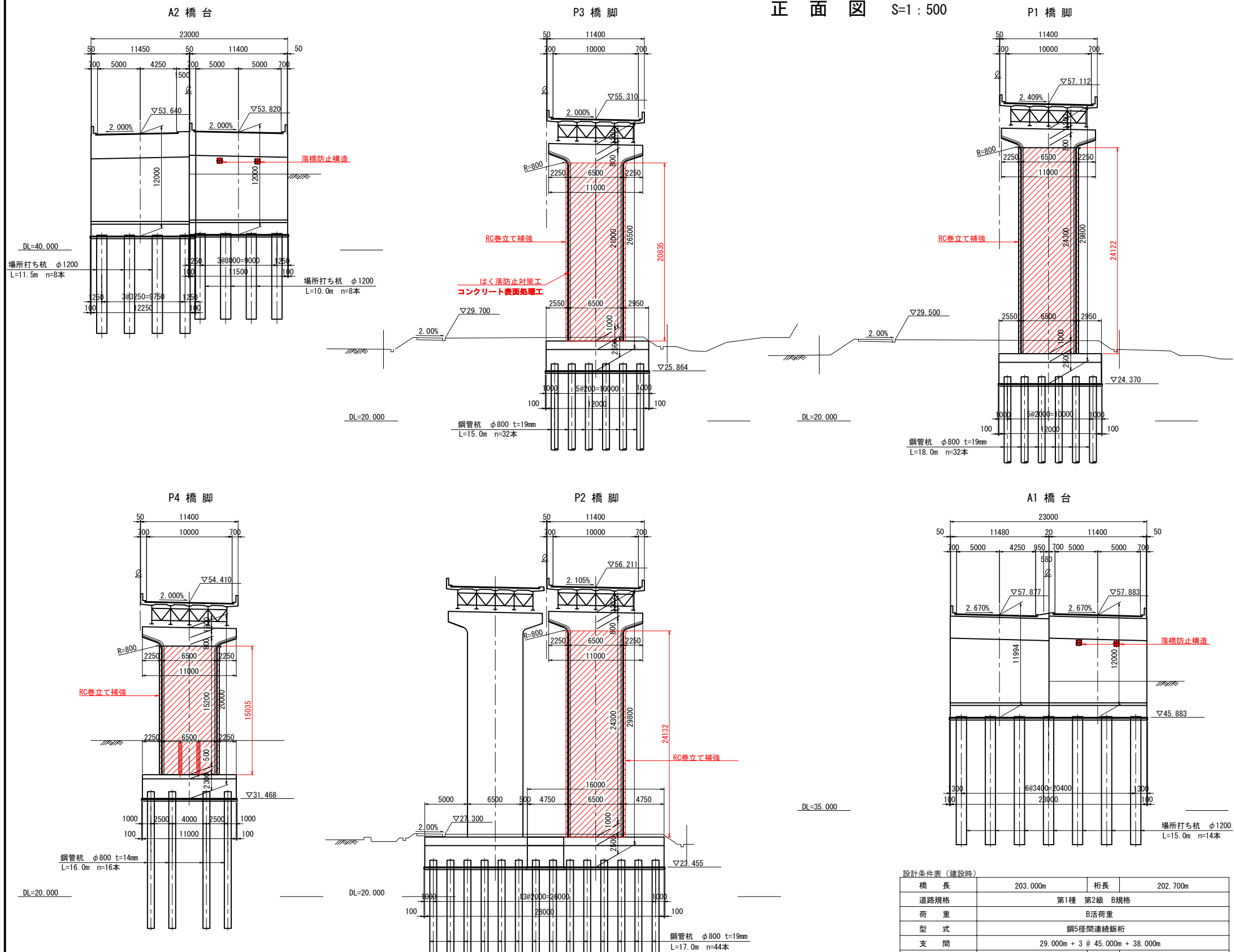
注記) 1. 工事に際しては橋脚前面等の施工範囲に埋設物等
— がある可能性があるため、事前に調査を行った上
で施工を行うこと。

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	丹尾高架橋 耐震補強橋梁一般図(その1)		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事				
図面の種類	丹尾高架橋 耐震補強橋梁一般図(その2)			
縮 尺	図示	図面番号	／	
設計会社名	日本工営株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所			

丹尾高架橋 耐震補強橋梁一般図(その3)

正面図 S:1:500



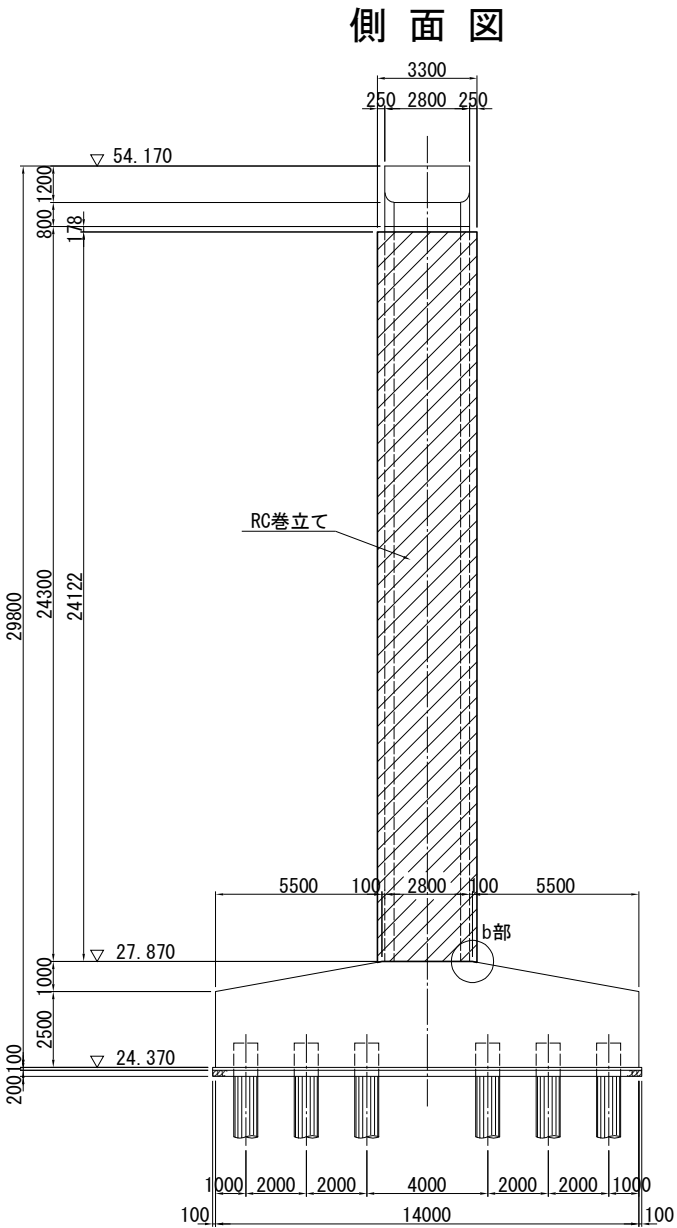
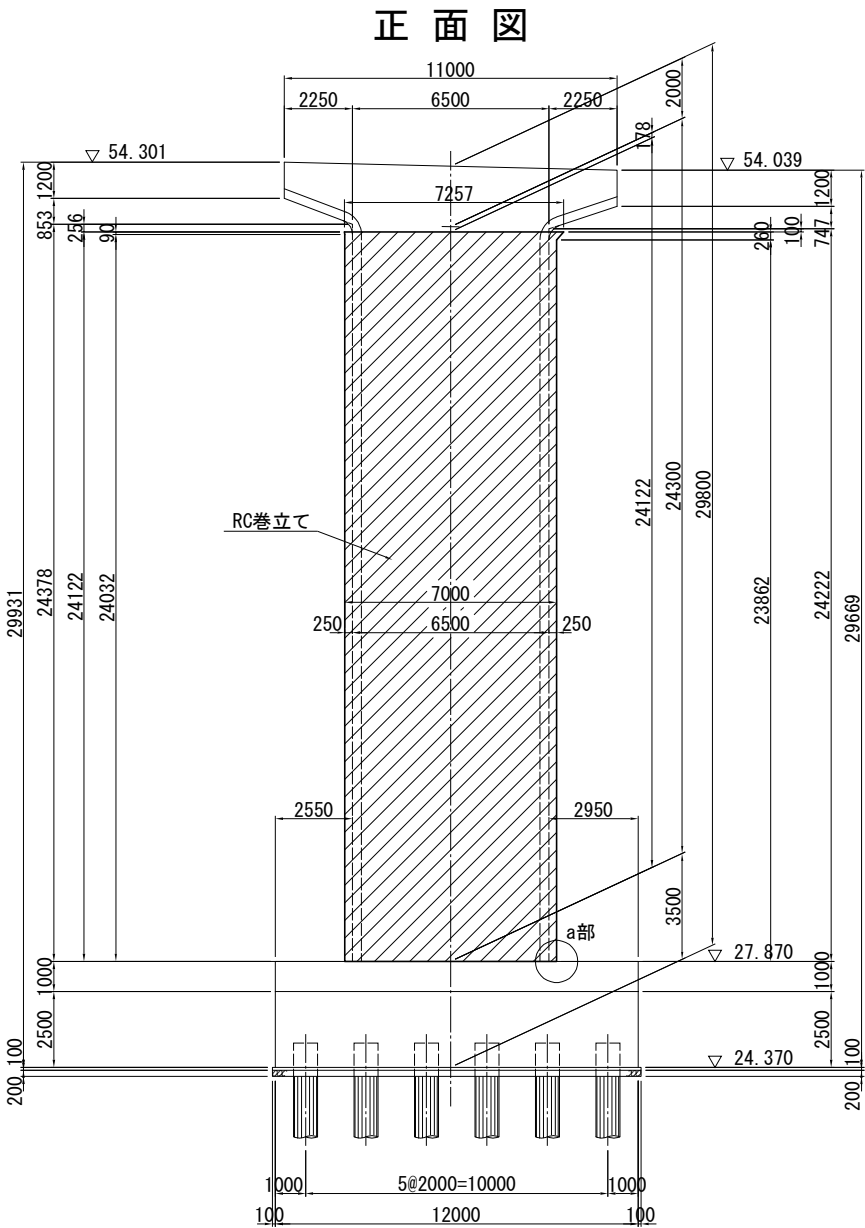
RC巻立て補強 (基部非定着)
繊維シート補強 (曲げ補強)
繊維シート補強 (せん断補強)
繊維シート補強 (じん性補強)

設計条件表（補強設計時）				
設計年次	令和8年4月			
橋 長	203.000m		桁 長	202.700m
道路規格	第1種 第2級 B規格		設計速度	V= 100km/h
荷 重	TL-20, TT-43			
補強形式	上部工	---		
	下部工	RC巻き立て補強		
	基礎工	---		
支 間	29.000m + 3@45.000m + 38.000m			
有効幅員	10.000m			
幅員構成	1.500m + 3.500m + 3.500m + 1.500m			
斜 角	90° 00' 00"			
横断勾配	2.000%		縦断勾配	2.000%～2.670%
架設工法	---			
舗 装	アスファルト舗装 t = 80mm			
床 版	RC床版 t=220mm			
壁高欄	RC壁高欄			
添架物	---			
使用材料	上 部 工	鋼 材	---	
		コンクリート	---	
		鉄 筋	---	
		PC鋼材	---	
	下 部 工	連続繊維シート	---	
		コンクリート	σ _{ck} =30N/mm ²	
		鉄 筋	SD345	
	基 礎 工	鋼 材	---	
		コンクリート	---	
鉄 筋		---		
重要度区分	B種			
地域区分	レベル1		A2地域(C _z =1.0)	
	レベル2	タイプⅠ		A2地域(CⅠ _z =1.00)
		タイプⅡ		A2地域(CⅡ _z =1.00)
地盤種別	Ⅱ種地盤			
支承条件	形 式		A1-A2：BP-A支承	
	橋軸方向		A1、A2：可動、P1～P4：固定	
	直角方向(レベル1)		全支点：固定	
	直角方向(レベル2)		全支点：固定	
橋脚柱補強	RC巻立て補強		P1～P4	
	炭素繊維巻立て補強		---	
落橋防止システム	落橋防止構造	PCケーブル	A1、A2：1.5×R _d	
	横変位拘束構造	---		
	縁端拡幅	---		
固有周期 ※各連毎に記載する	レベル1		---	
	レベル2(タイプⅠ)		A1-A2：0.93s	
	レベル2(タイプⅡ)		A1-A2：0.93s	
耐震性能	レベル1		耐震性能1	
	レベル2		耐震性能2 主たる塑性化を考慮する部位：橋脚柱基部	
設計水平震度	レベル1		動的照査法を適用	
	レベル2(タイプⅠ)		動的照査法を適用	
	レベル2(タイプⅡ)		動的照査法を適用	
適用基準等	道路橋示方書・同解説(平成24年3月)			
	道路橋示方書・同解説(平成14年3月)			
	設計要領第二集 橋梁保全編（東日本高速道路株式会社：令和6年7月）			

注記) 1. 工事に際しては橋脚前面等の施工範囲に埋設物等がある可能性があるため、事前に調査を行った上で施工を行うこと。

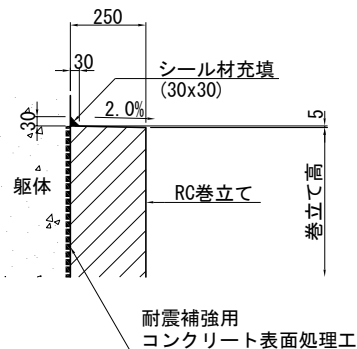
設計条件表 (建設時)			
橋 長	203.000m	桁長	202.700m
道路規格	第1種 第2級 B規格		
荷 重	B活荷重		
型 式	鋼5径間連続鉄桁		
支 間	29.000m + 3 @ 45.000m + 38.000m		
有効幅員	10.000m	斜角	90° 00'
横断勾配	2.00%	縦断勾配	2.00%
設計震度	水平震度 kh=0.25		
床版コンクリート	$\sigma_{ck} = 240\text{kgf/cm}^2$		
鉄筋	主版 $\sigma_{sa} = 1400\text{kgf/cm}^2$	張出し $\sigma_{sa} = 1800\text{kgf/cm}^2$	
適用示方書	平成6年2月 道路橋示方書 同解説		
使用材質	SS400 , SM490		

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	丹尾高架橋 耐震補強橋梁一般図(その3)		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

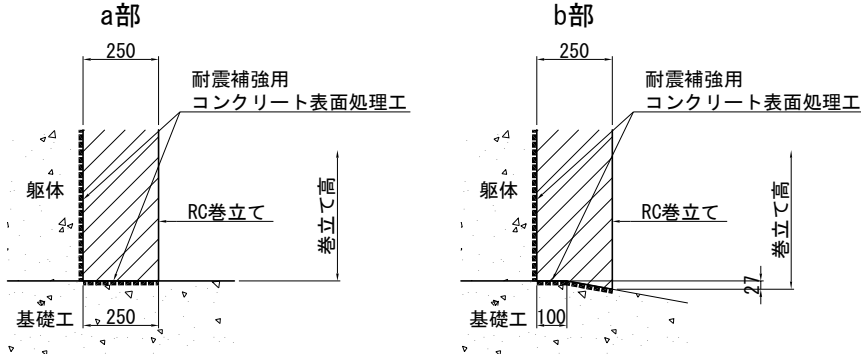


巻立て部詳細図 S=1:25

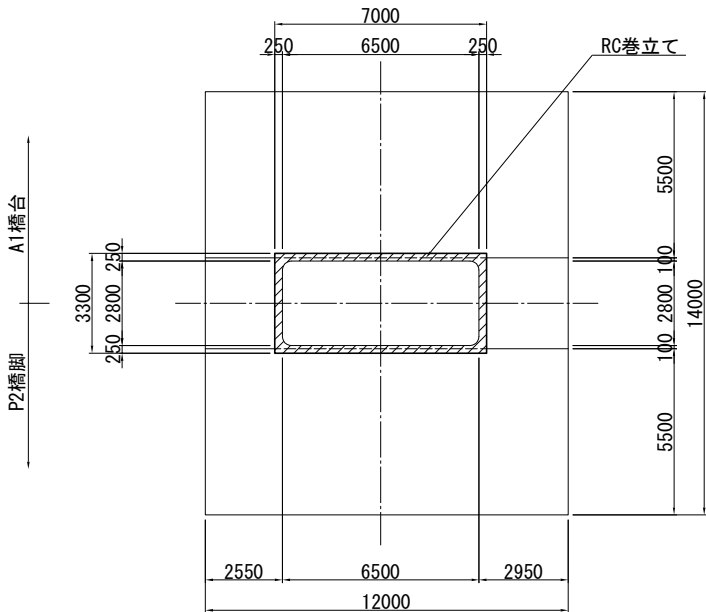
巻立て部(上部)



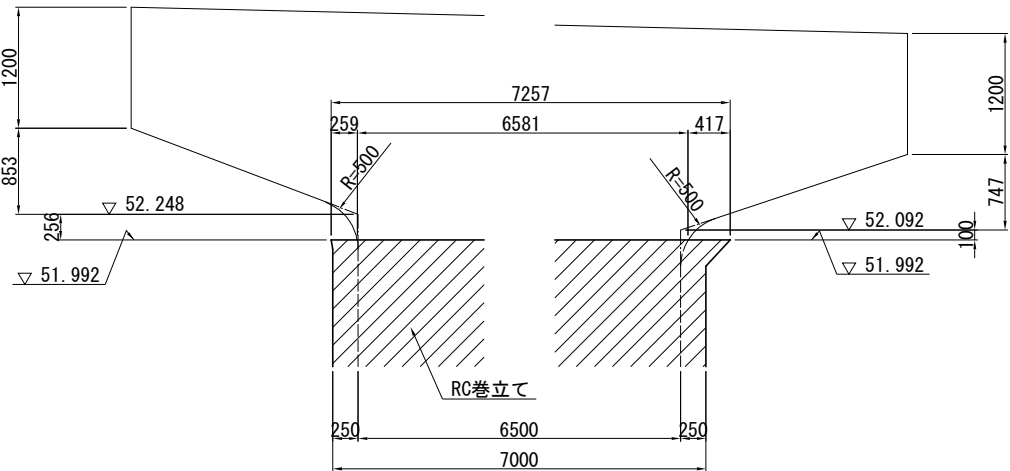
巻立て部(下部)



平面図



巻立て部天端拡大図 S=1:75



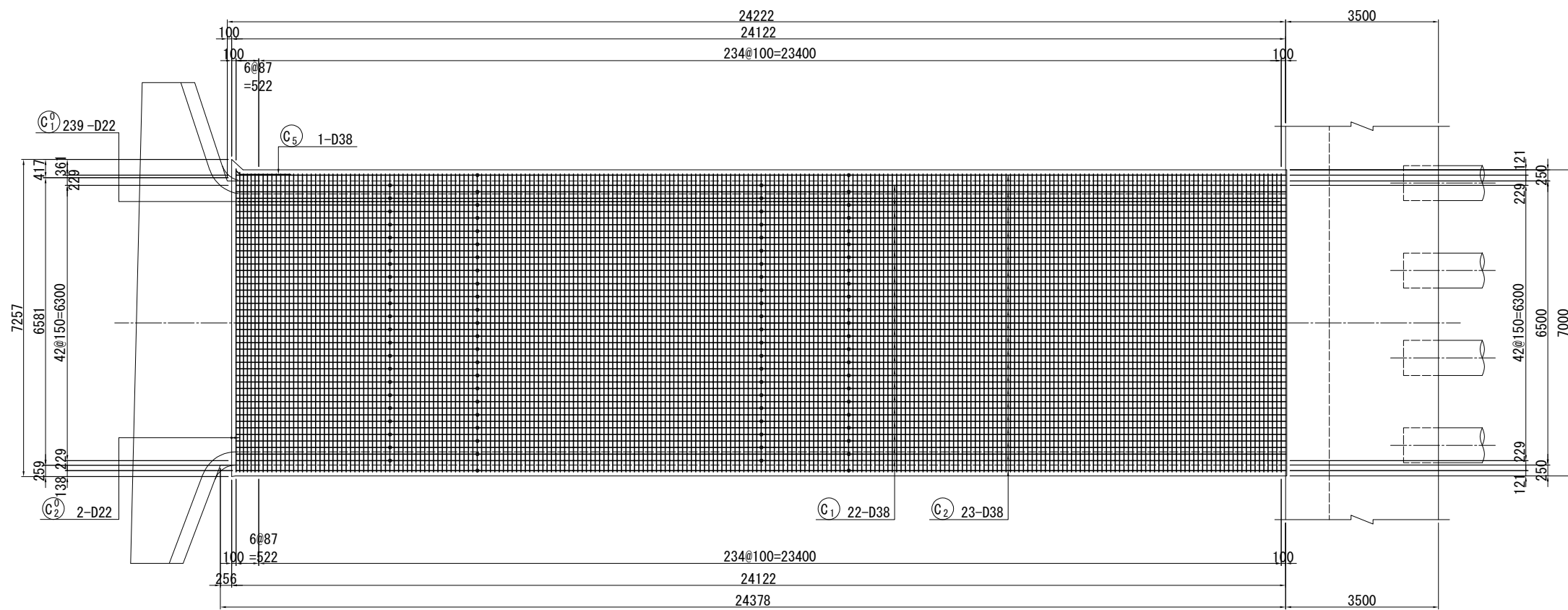
- 注記) 1. 施工にあたっては、現地計測を実施して既設構造寸法を再確認すること。
2. 補強部分(既設面)は、WJ による表面処理を行うこと。
3. 張出梁部のある橋脚においては、施工性を考慮して張出梁から巻立ての下がり位置を設定すること。
4. RC巻立ての天端は排水用の勾配(2.00%)を付すこと。

使用材料

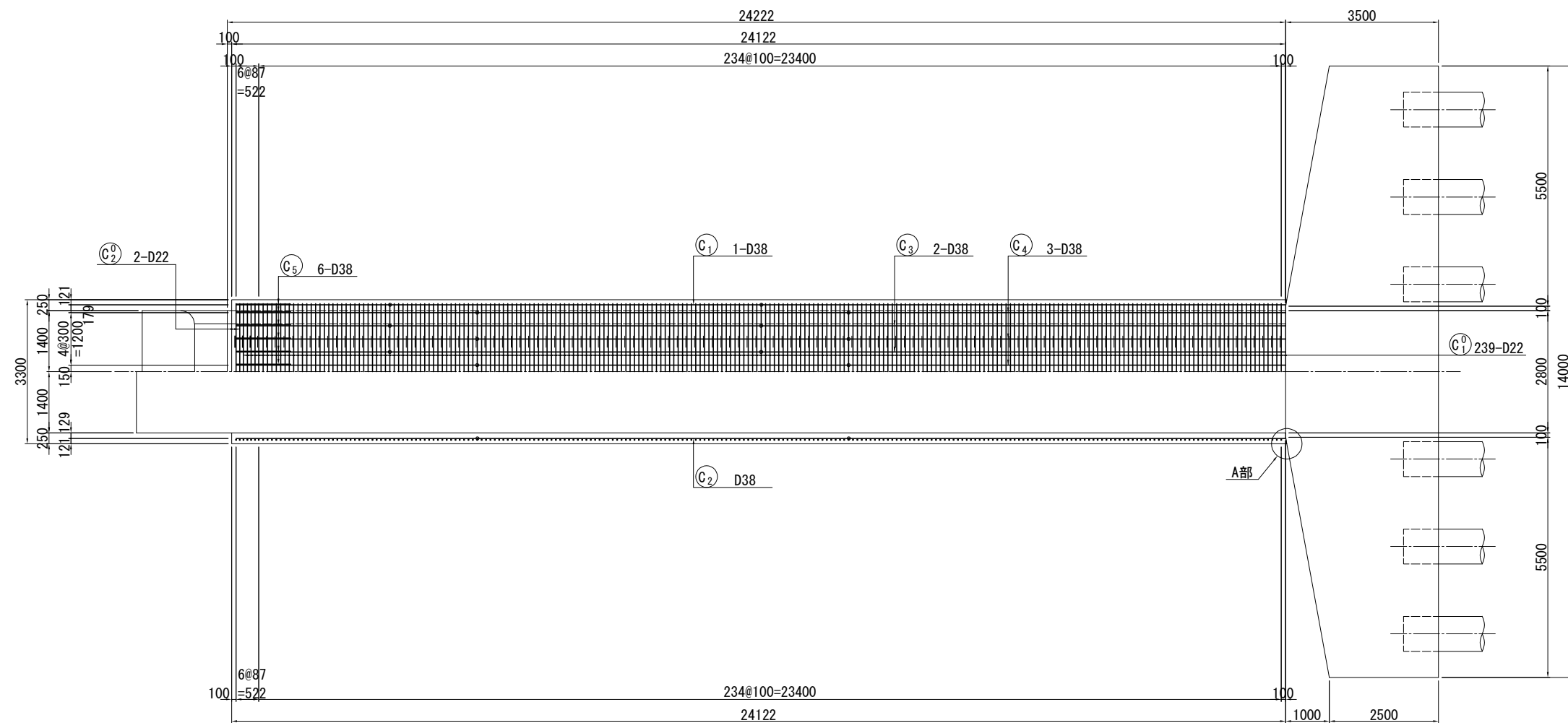
工 種	仕 様	
	コンクリート	24 N/mm ²
既設部	鉄 筋	SD345
	コンクリート	30 N/mm ²
補強部	鉄 筋	SD345

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	丹尾高架橋 P1橋脚 RC巻立て補強一般図		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

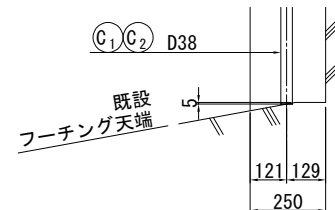
1 - 1



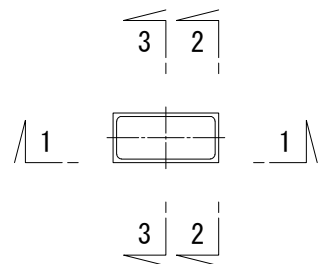
3 - 3 2 - 2



A部詳細図 S=1:25



位置図



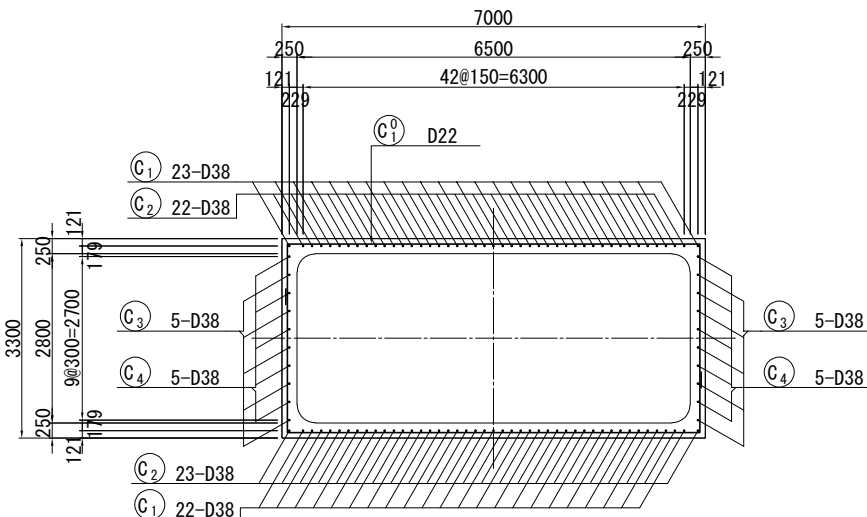
- 注記) 1. 鉄筋の継手位置は1断面に集中させないように交互に配置すること。
2. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJ による表面処理を行うこと。
4. 張出梁部のある橋脚においては、施工性を考慮して張出梁から巻立ての下がり位置を設定すること。

使用材料

工 種	仕 様
補強部	コンクリート 30 N/mm ²
	鉄 筋 SD345

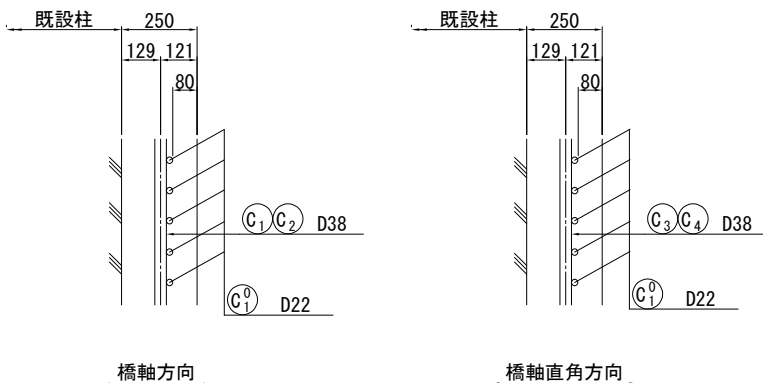
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	丹尾高架橋 P1橋脚 RC巻立て補強配筋図(その1)		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

4 - 4

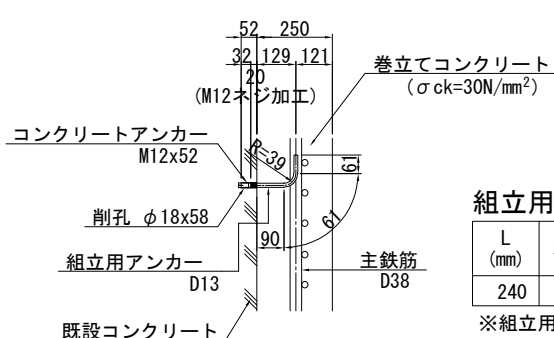


かぶり詳細図 S=1:25

[橋軸方向] [橋軸直角方向]



組立用アンカー詳細図 S=1:25
(参考図)

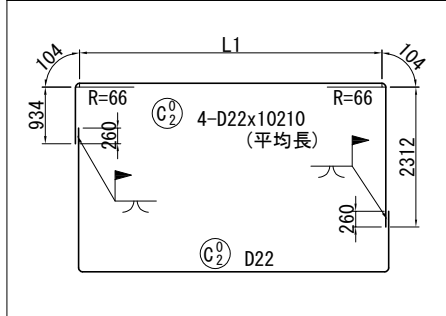
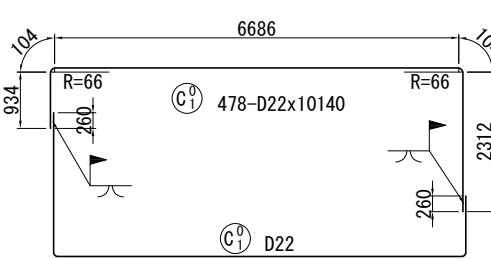
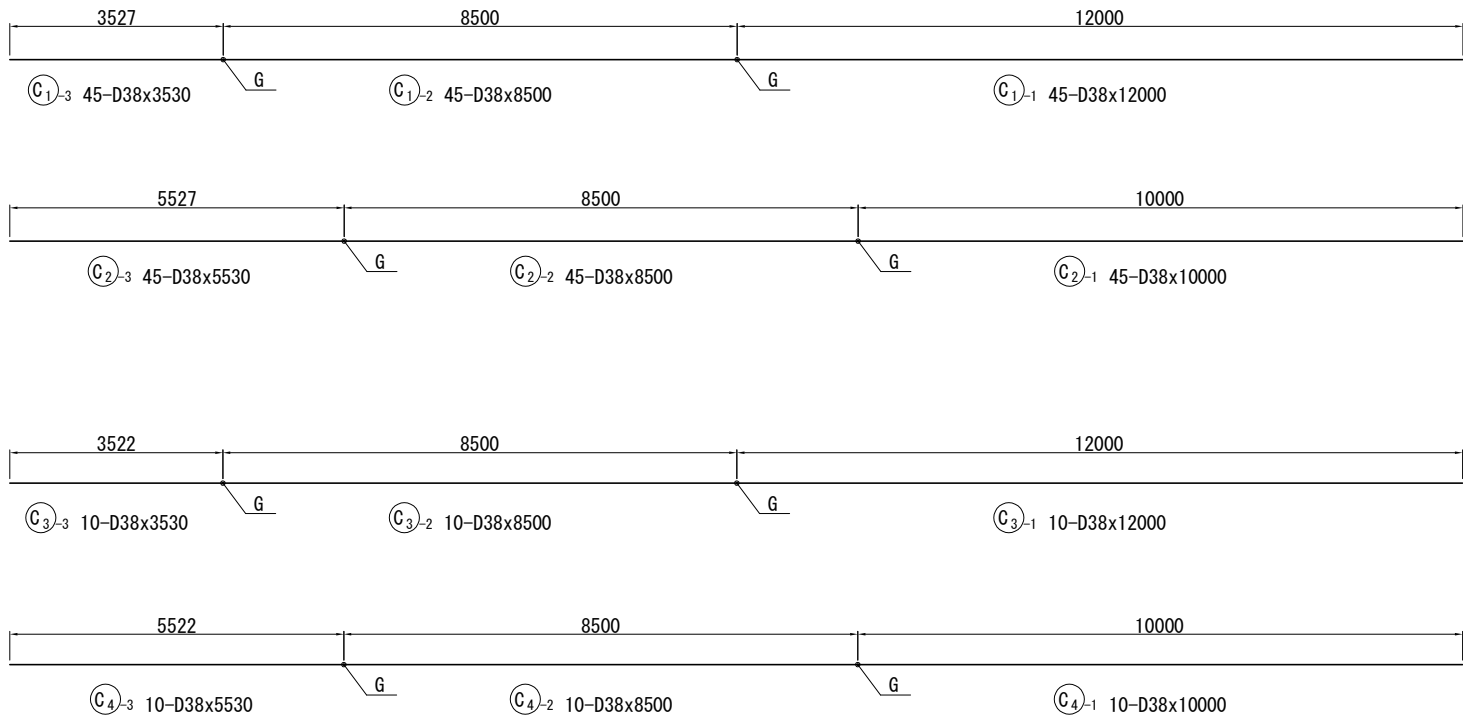


組立用アンカー数量表

L (mm)	本数	質量 (kg)
240	449	107

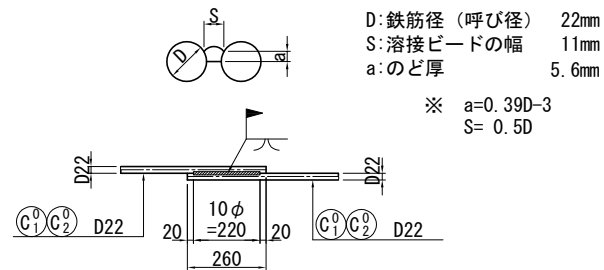
※組立用アンカー本数
N=449. 1m²/1本/m²=449本

※ 組立用アンカーは1本/m²程度配置する。

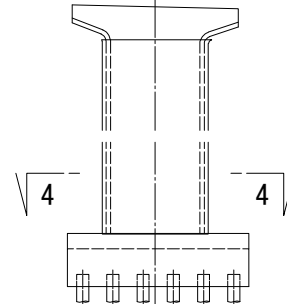


記号	径	本数	L1	L
1	D22	2	6801	10160
2	D22	2	6721	10180
平均		4	6761	10210

フレアー溶接詳細図 S=1:25



位置図



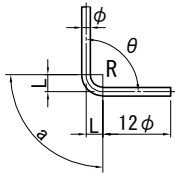
- 注記) 1. 鉄筋の継手位置は1断面に集中させないように交互に配置すること。
2. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJ による表面処理を行うこと。

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	丹尾高架橋 P1橋脚 RC巻立て補強配筋図(その2)		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

鉄筋質量表

種別	径	長さ (mm)	本数 (本)	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
C 1 -1	D38	12000	45	8.95	107.4	4833	← (45)
C 1 -2	D38	8500	45	8.95	76.1	3425	← (45)
C 1 -3	D38	3530	45	8.95	31.6	1422	←
C 2 -1	D38	10000	45	8.95	89.5	4028	← (45)
C 2 -2	D38	8500	45	8.95	76.1	3425	← (45)
C 2 -3	D38	5530	45	8.95	49.5	2228	←
C 3 -1	D38	12000	10	8.95	107.4	1074	← (10)
C 3 -2	D38	8500	10	8.95	76.1	761	← (10)
C 3 -3	D38	3530	10	8.95	31.6	316	←
C 4 -1	D38	10000	10	8.95	89.5	895	← (10)
C 4 -2	D38	8500	10	8.95	76.1	761	← (10)
C 4 -3	D38	5530	10	8.95	49.5	495	←
C 5	D38	1300	12	8.95	11.6	139	←
23802 ^{kg}							
C 1 ⁰	D22	10140	478	3.04	30.8	14722	┐ [478]
C 2 ⁰	D22	10210	4	3.04	31.0	124	┐ 平均長 [4]
14846 ^{kg}							
T ガス圧接箇所数 フレアー溶接箇所数							
D38		23802 ^{kg}	(220)			-	
D22		14846 ^{kg}	-			[482]	
合 計		38648 ^{kg}	(220)			[482]	
コンクリートアンカー					M12x52	449	個
(削孔 φ18x58)							

鉄筋加工寸法表

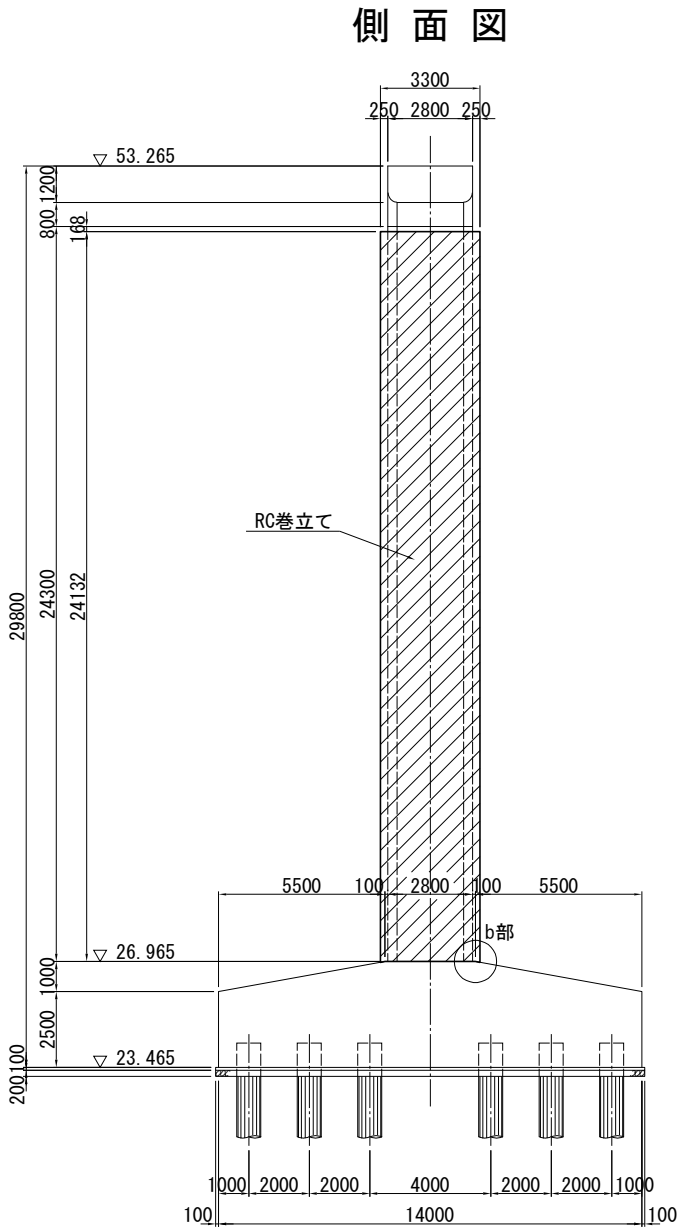
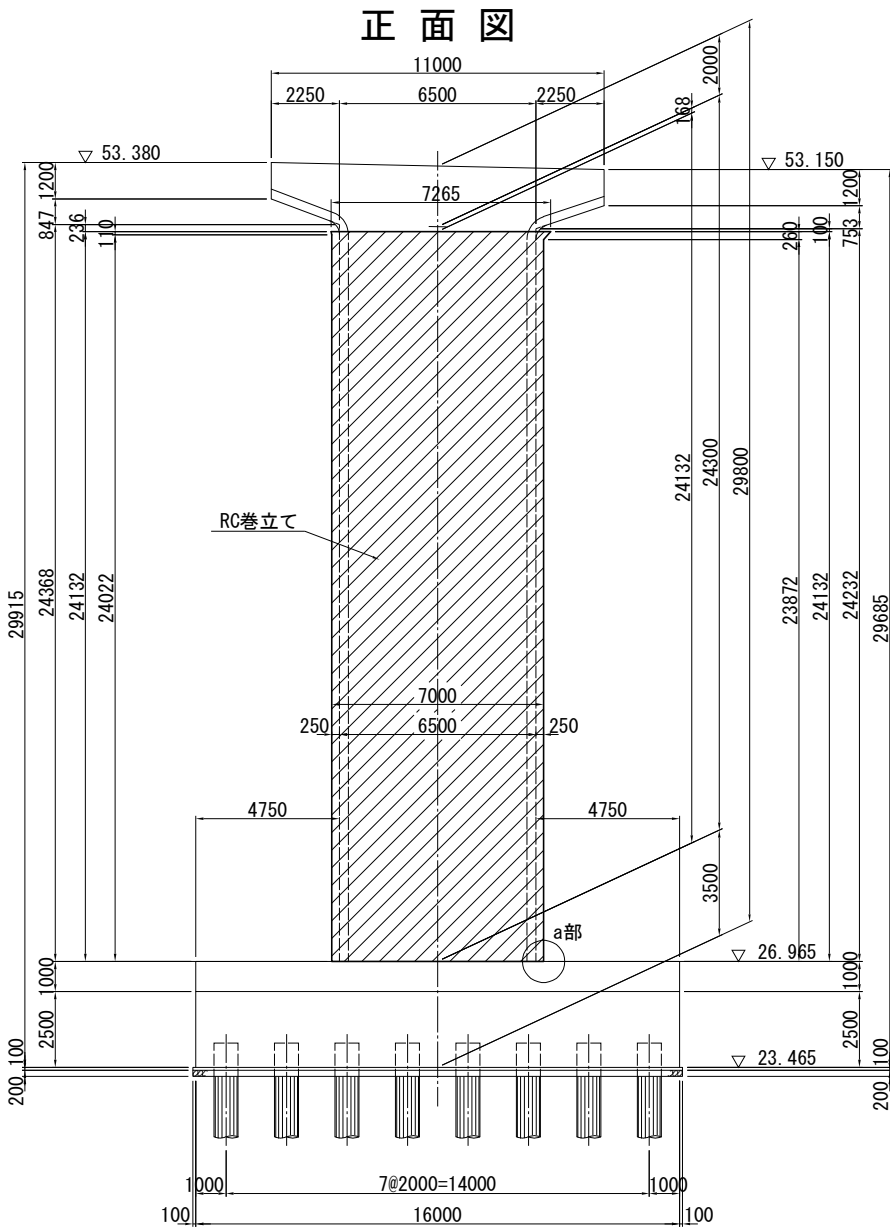
 ΔL=2L-a										
径	θ ≤90° R=3.0φ	θ >90° R=5.5φ	θ =45°		θ =60°		θ =90°		θ =135°	
			a	ΔL	a	ΔL	a	ΔL	a	ΔL
D13	39	71.5	92	96	82	53	61	17	56	3
D16	48	88	113	119	100	66	75	21	69	4
D19	57	104.5	134	141	119	78	89	25	82	5
D22	66	121	155	164	138	91	104	28	95	5
D25	75	137.5	177	185	157	103	118	32	108	6
D29	87	159.5	205	215	182	119	137	37	125	7
D32	96	176	226	237	201	132	151	41	138	8
D35	105	192.5	247	260	220	144	165	45	151	8
D38	114	209	269	281	239	156	179	49	164	9
D41	123	225.5	290	304	258	168	193	53	177	10
D51	153	280.5	360	379	320	210	240	66	220	12

注記) 1. 鉄筋の継手位置は1断面に集中させないように交互に配置すること。
2. 鉄筋質量表内の()はガス圧接、[]はフレアー溶接の箇所数を示す。

使用材料

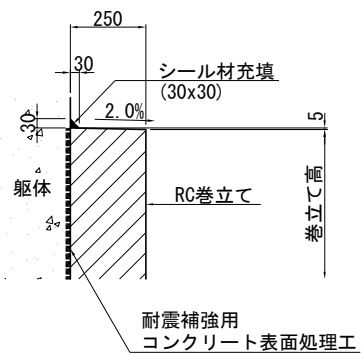
工 種		仕 様
補強部	コンクリート	30 N/mm ²
	鉄 筋	SD345

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	丹尾高架橋 P1橋脚 RC巻立て補強配筋図(その3)		
	縮 尺	図示	図面番号 /
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

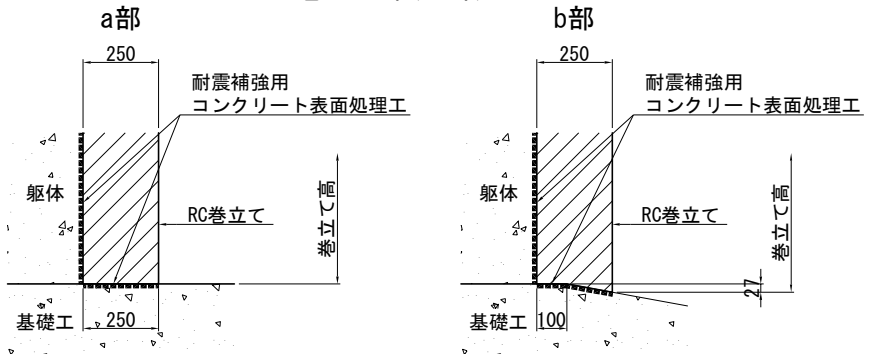


巻立て部詳細図 S=1:25

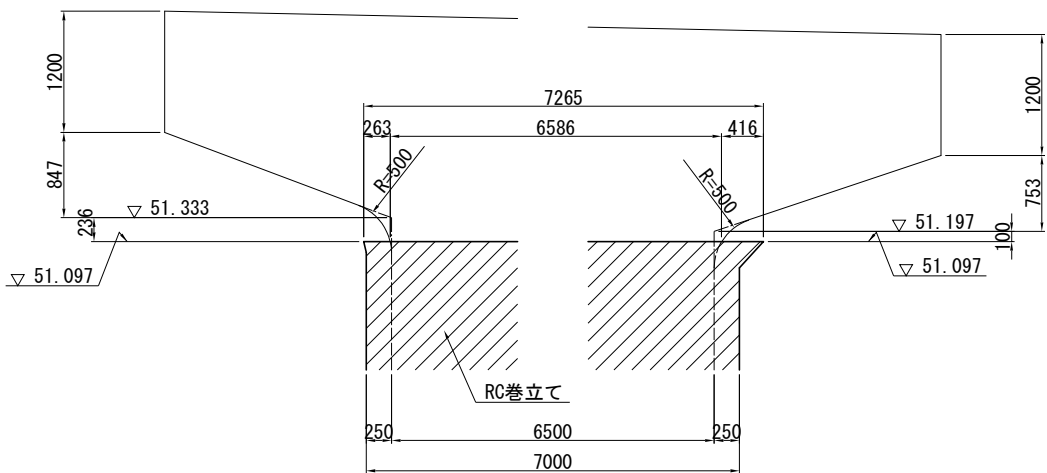
巻立て部(上部)



巻立て部(下部)



巻立て部天端拡大図 S=1:75



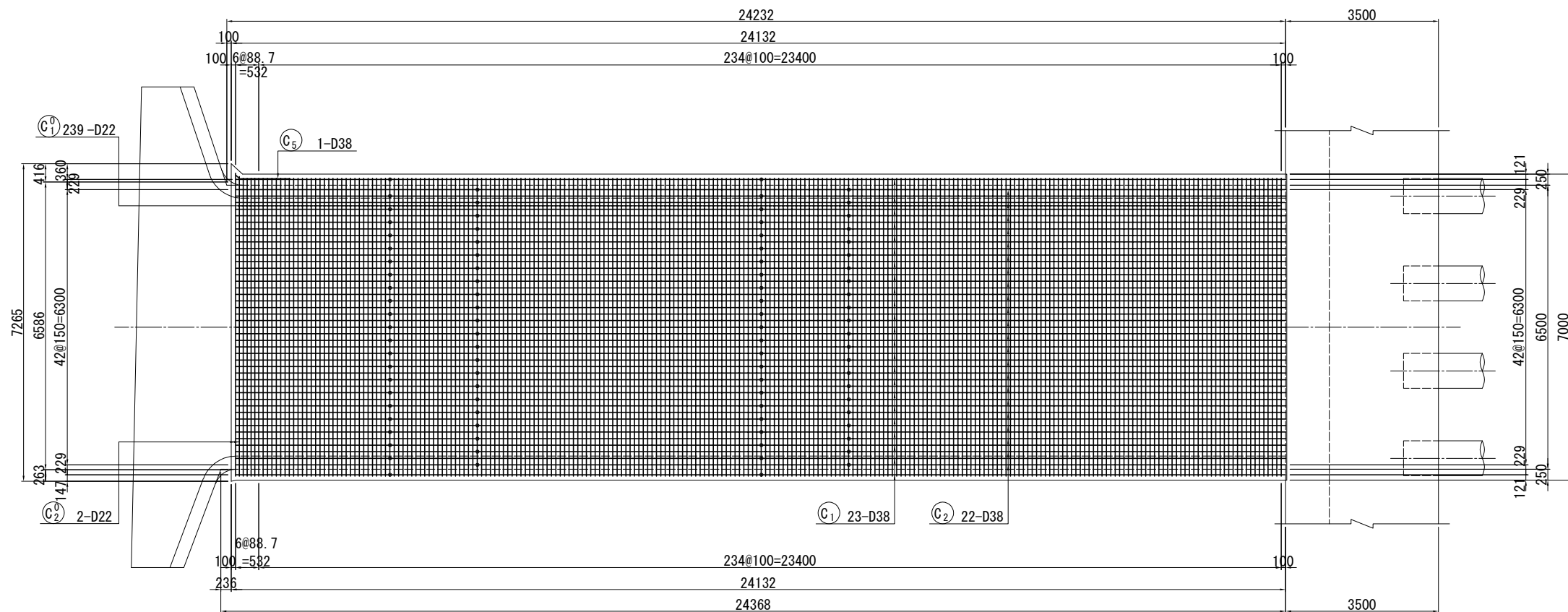
- 注記) 1. 施工にあたっては、現地計測を実施して既設構造寸法を再確認すること。
2. 補強部分(既設面)は、WJ による表面処理を行うこと。
3. 張出梁部のある橋脚においては、施工性を考慮して張出梁から巻立ての下がり位置を設定すること。
4. RC巻立ての天端は排水用の勾配(2.00%)を付すこと。

使用材料

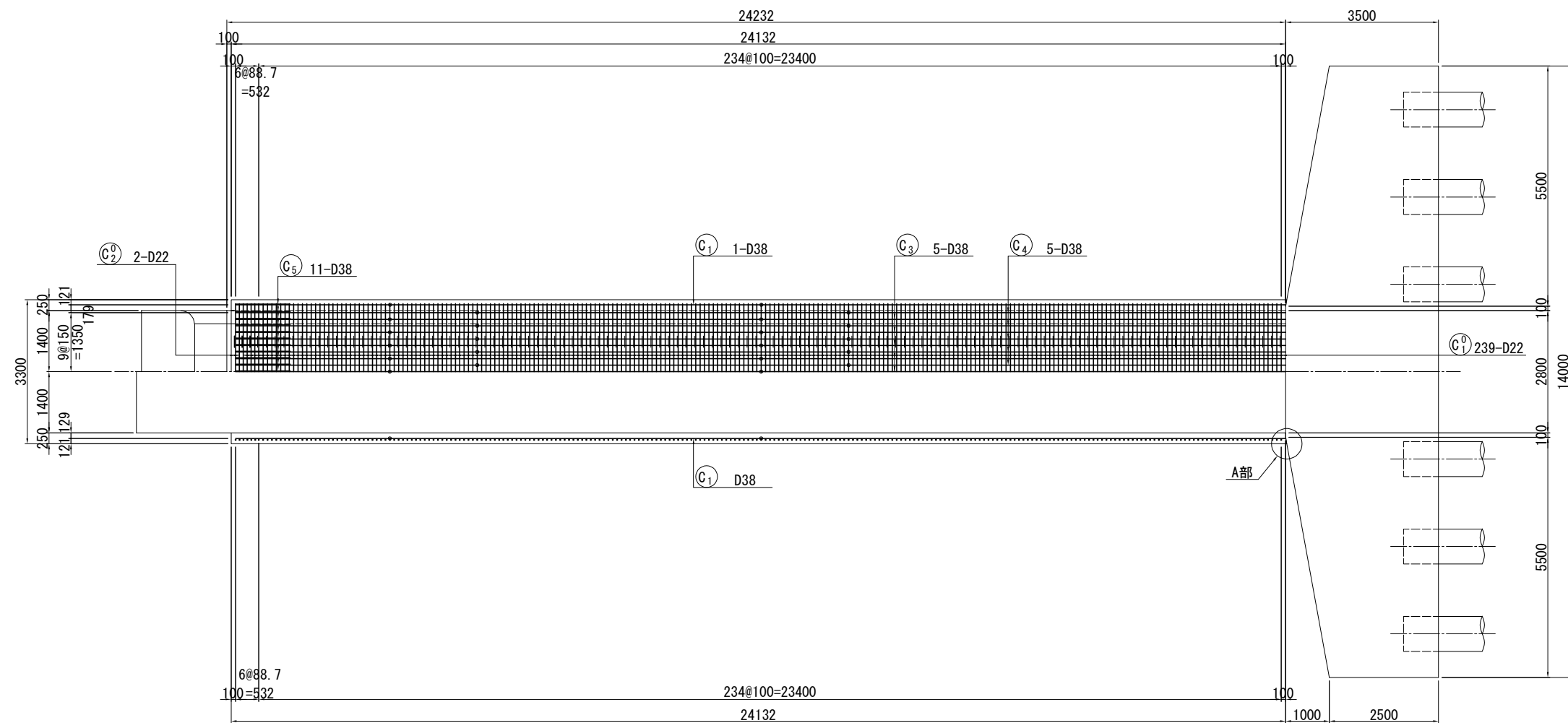
工 種		仕 様
既設部	コンクリート	24 N/mm ²
	鉄 筋	SD345
補強部	コンクリート	30 N/mm ²
	鉄 筋	SD345

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	丹尾高架橋 P2橋脚 RC巻立て補強一般図		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

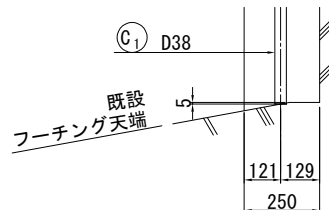
1 - 1



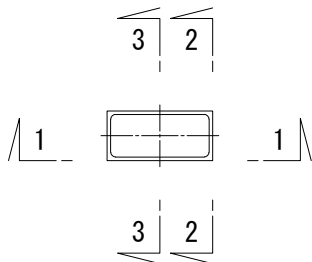
3 - 3 2 - 2



A部詳細図 S=1:25



位置図



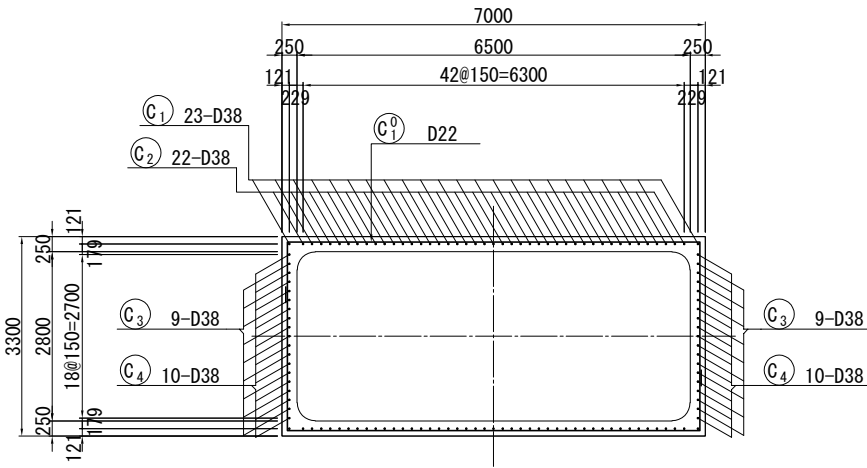
- 注記) 1. 鉄筋の継手位置は1断面に集中させないように交互に配置すること。
2. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJ による表面処理を行うこと。
4. 張出梁部のある橋脚においては、施工性を考慮して張出梁から巻立ての下がり位置を設定すること。

使用材料

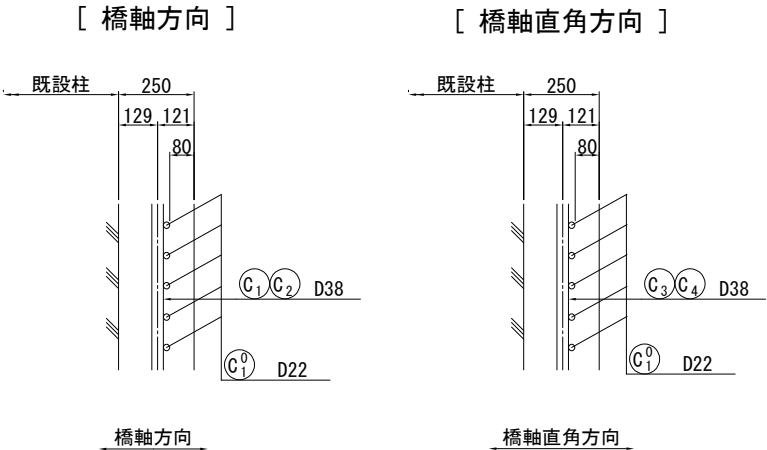
工 種	仕 様
補強部	コンクリート 30 N/mm ²
	鉄 筋 SD345

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	丹尾高架橋 P2橋脚 RC巻立て補強配筋図(その1)		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

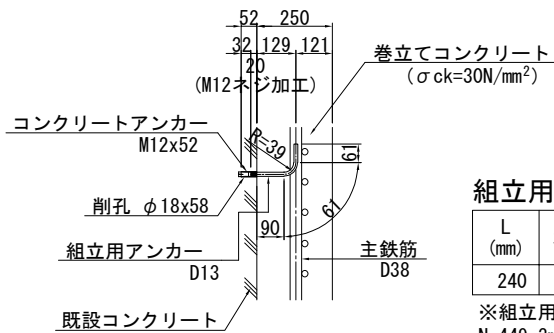
4 - 4



かぶり詳細図 S=1:25



組立用アンカー詳細図 S=1:25
(参考図)

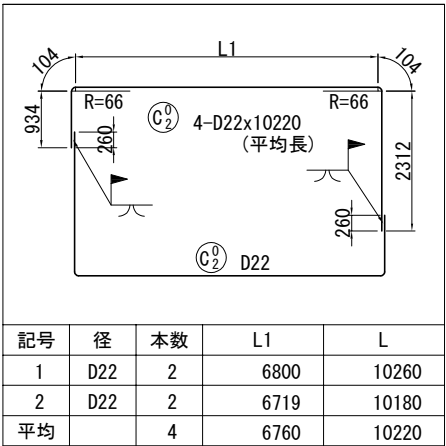
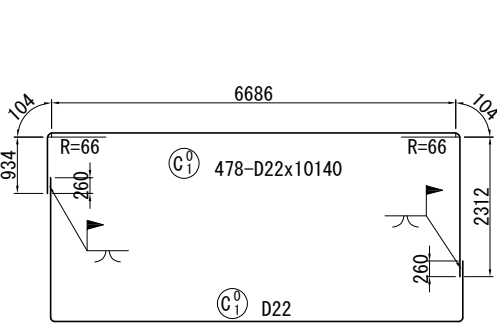
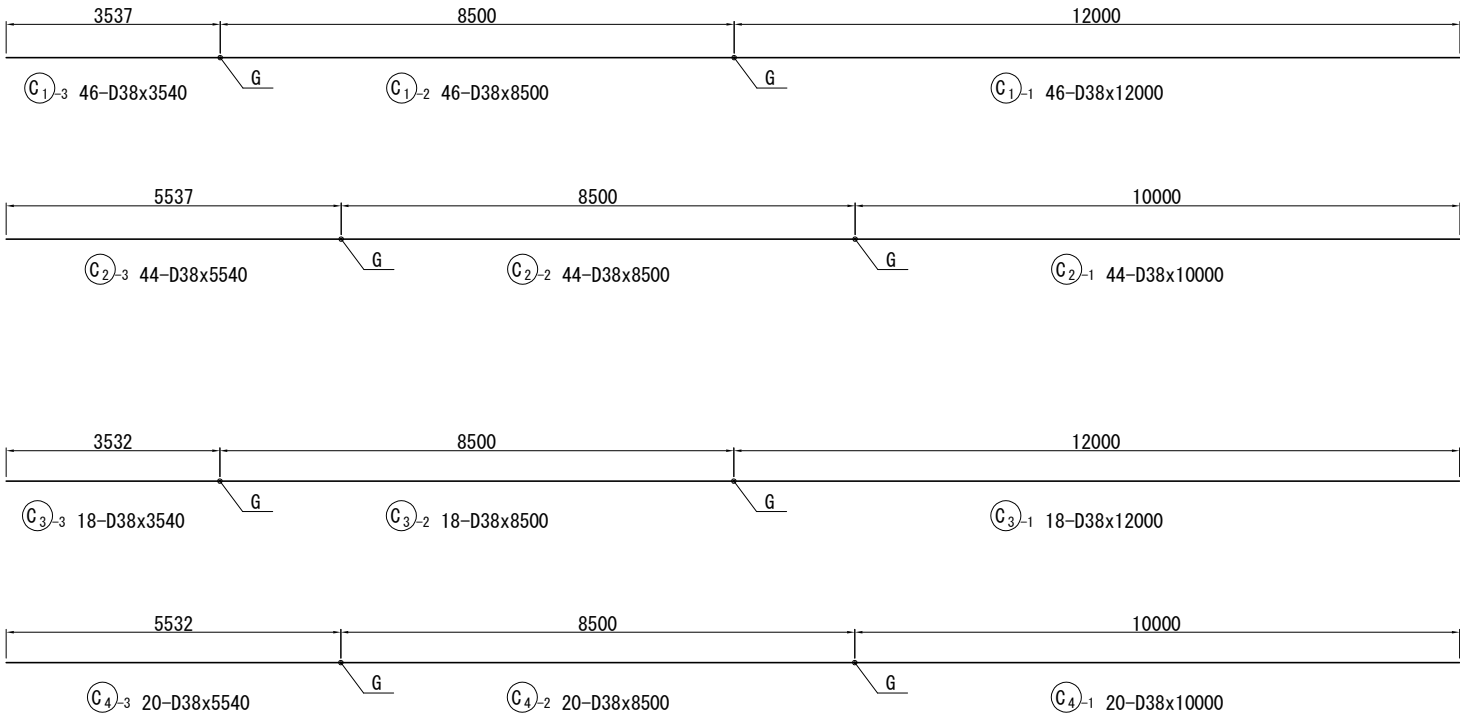


組立用アンカー数量表

L (mm)	本数	質量 (kg)
240	449	107

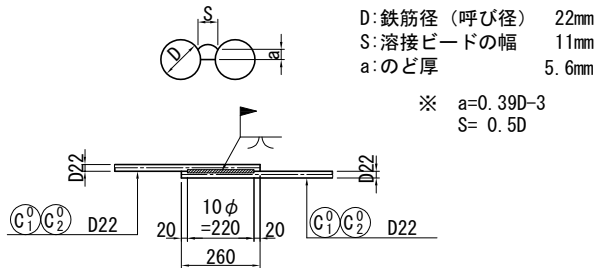
※組立用アンカー本数
N=449. 3m²/1本/m²=449本

※ 組立用アンカーは1本/m²程度配置する。

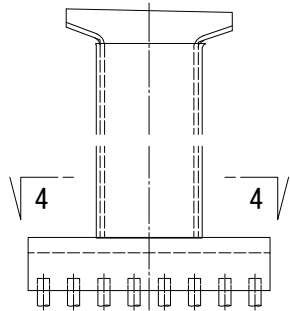


記号	径	本数	L1	L
1	D22	2	6800	10260
2	D22	2	6719	10180
平均		4	6760	10220

フレアー溶接詳細図 S=1:25



位置図



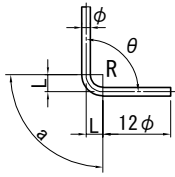
- 注記) 1. 鉄筋の継手位置は1断面に集中させないように交互に配置すること。
2. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJ による表面処理を行うこと。

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	丹尾高架橋 P2橋脚 RC巻立て補強配筋図(その2)		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

鉄筋質量表

種別	径	長さ (mm)	本数 (本)	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
C 1 -1	D38	12000	46	8.95	107.4	4940	← (46)
C 1 -2	D38	8500	46	8.95	76.1	3501	← (46)
C 1 -3	D38	3540	46	8.95	31.7	1458	←
C 2 -1	D38	10000	44	8.95	89.5	3938	← (44)
C 2 -2	D38	8500	44	8.95	76.1	3348	← (44)
C 2 -3	D38	5540	44	8.95	49.6	2182	←
C 3 -1	D38	12000	18	8.95	107.4	1933	← (18)
C 3 -2	D38	8500	18	8.95	76.1	1370	← (18)
C 3 -3	D38	3540	18	8.95	31.7	571	←
C 4 -1	D38	10000	20	8.95	89.5	1790	← (20)
C 4 -2	D38	8500	20	8.95	76.1	1522	← (20)
C 4 -3	D38	5540	20	8.95	49.6	992	←
C 5	D38	1300	21	8.95	11.6	244	←
27789 ^{kg}							
C 1 ⁰	D22	10140	478	3.04	30.8	14722	┐ [478]
C 2 ⁰	D22	10220	4	3.04	31.1	124	┐ 平均長 [4]
14846 ^{kg}							
T ガス圧接箇所数 フレアー溶接箇所数							
D38		27789 ^{kg}	(256)			-	
D22		14846 ^{kg}	-			[482]	
合 計		42635 ^{kg}	(256)			[482]	
コンクリートアンカー					M12x52	449	個
(削孔 φ18x58)							

鉄筋加工寸法表

 ΔL=2L-a										
径	θ ≤90° R=3.0φ	θ >90° R=5.5φ	θ =45°		θ =60°		θ =90°		θ =135°	
			a	ΔL	a	ΔL	a	ΔL	a	ΔL
D13	39	71.5	92	96	82	53	61	17	56	3
D16	48	88	113	119	100	66	75	21	69	4
D19	57	104.5	134	141	119	78	89	25	82	5
D22	66	121	155	164	138	91	104	28	95	5
D25	75	137.5	177	185	157	103	118	32	108	6
D29	87	159.5	205	215	182	119	137	37	125	7
D32	96	176	226	237	201	132	151	41	138	8
D35	105	192.5	247	260	220	144	165	45	151	8
D38	114	209	269	281	239	156	179	49	164	9
D41	123	225.5	290	304	258	168	193	53	177	10
D51	153	280.5	360	379	320	210	240	66	220	12

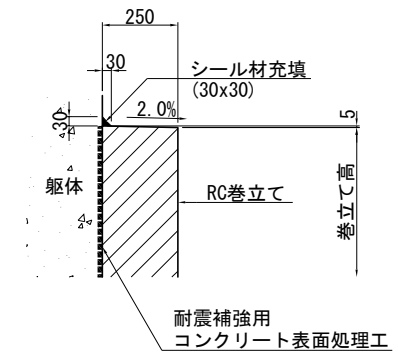
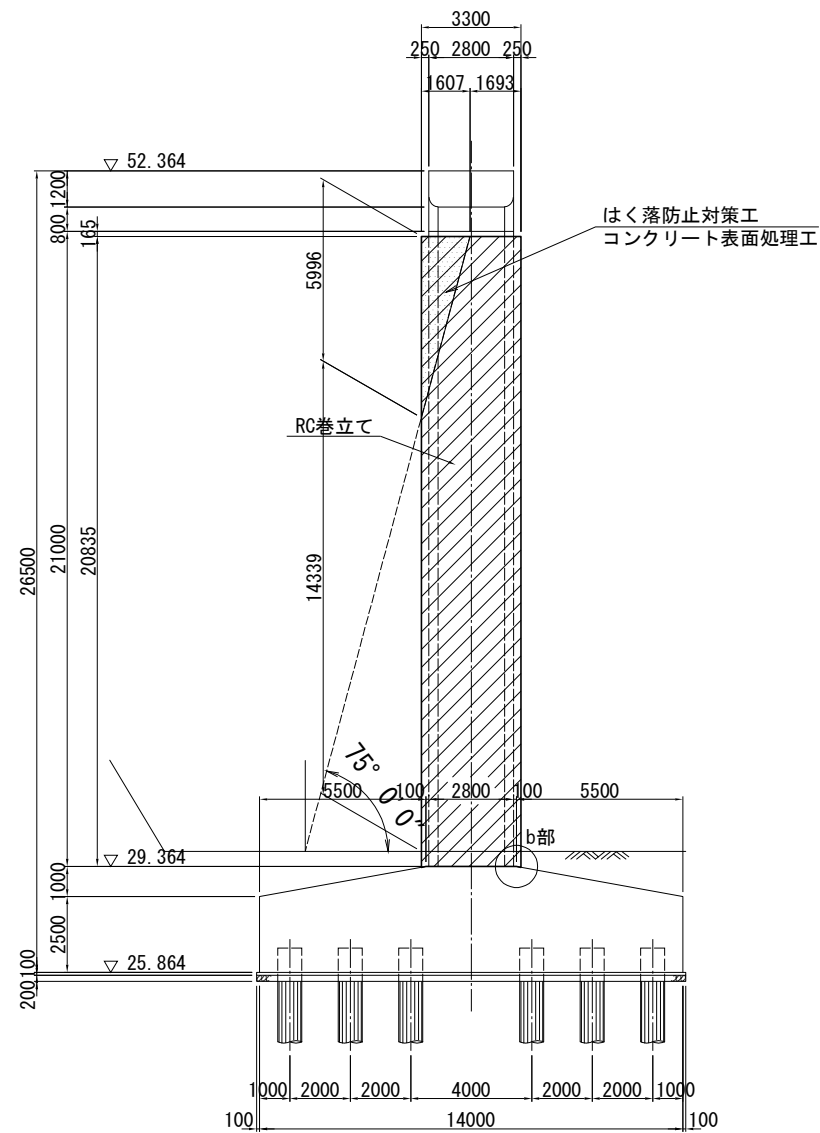
注記) 1. 鉄筋の継手位置は1断面に集中させないように交互に配置すること。
2. 鉄筋質量表内の()はガス圧接、[]はフレアー溶接の箇所数を示す。

使用材料

工 種		仕 様
補強部	コンクリート	30 N/mm ²
	鉄 筋	SD345

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	丹尾高架橋 P2橋脚 RC巻立て補強配筋図(その3)		
	縮 尺	図示	図面番号 /
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

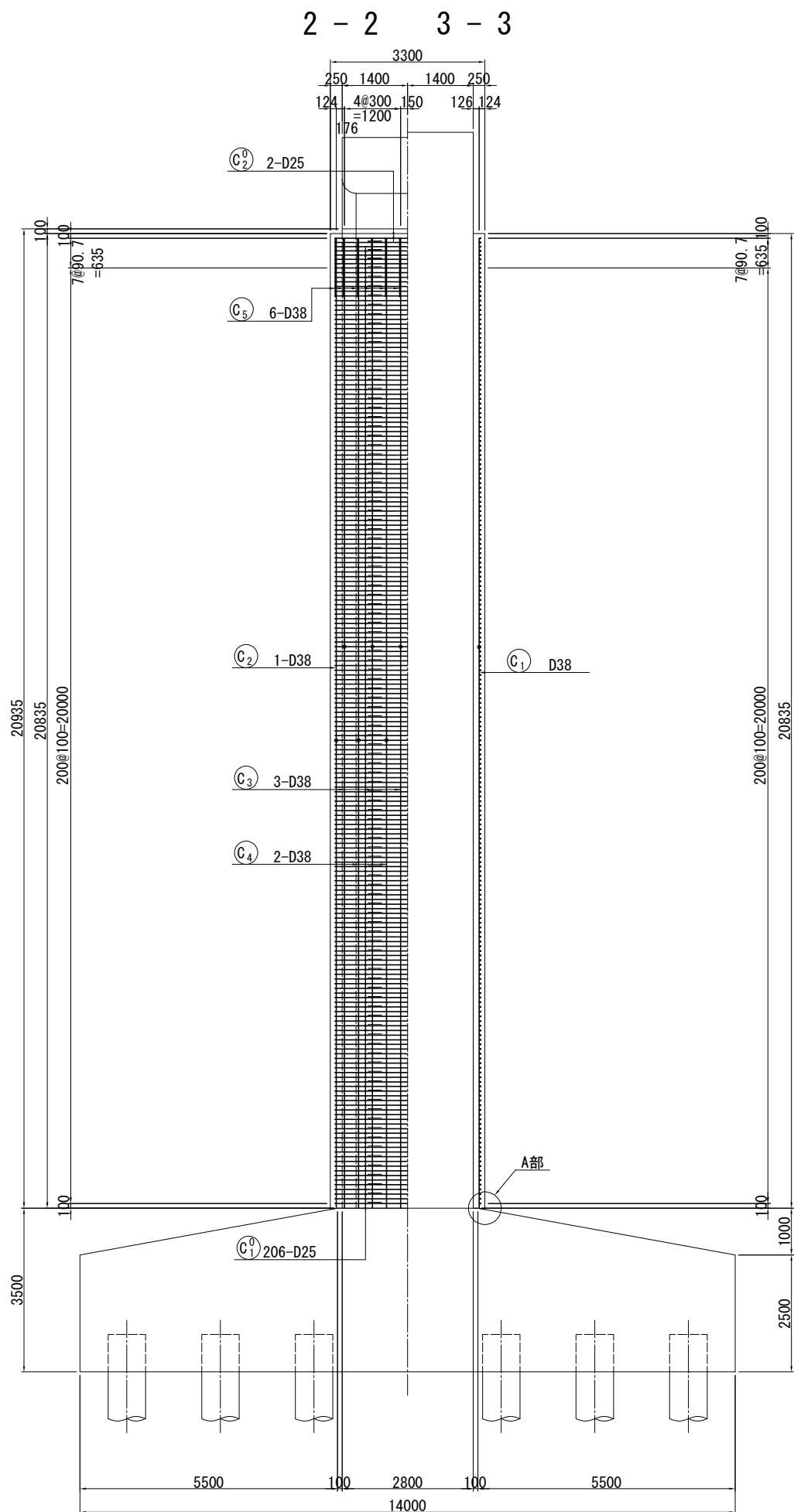
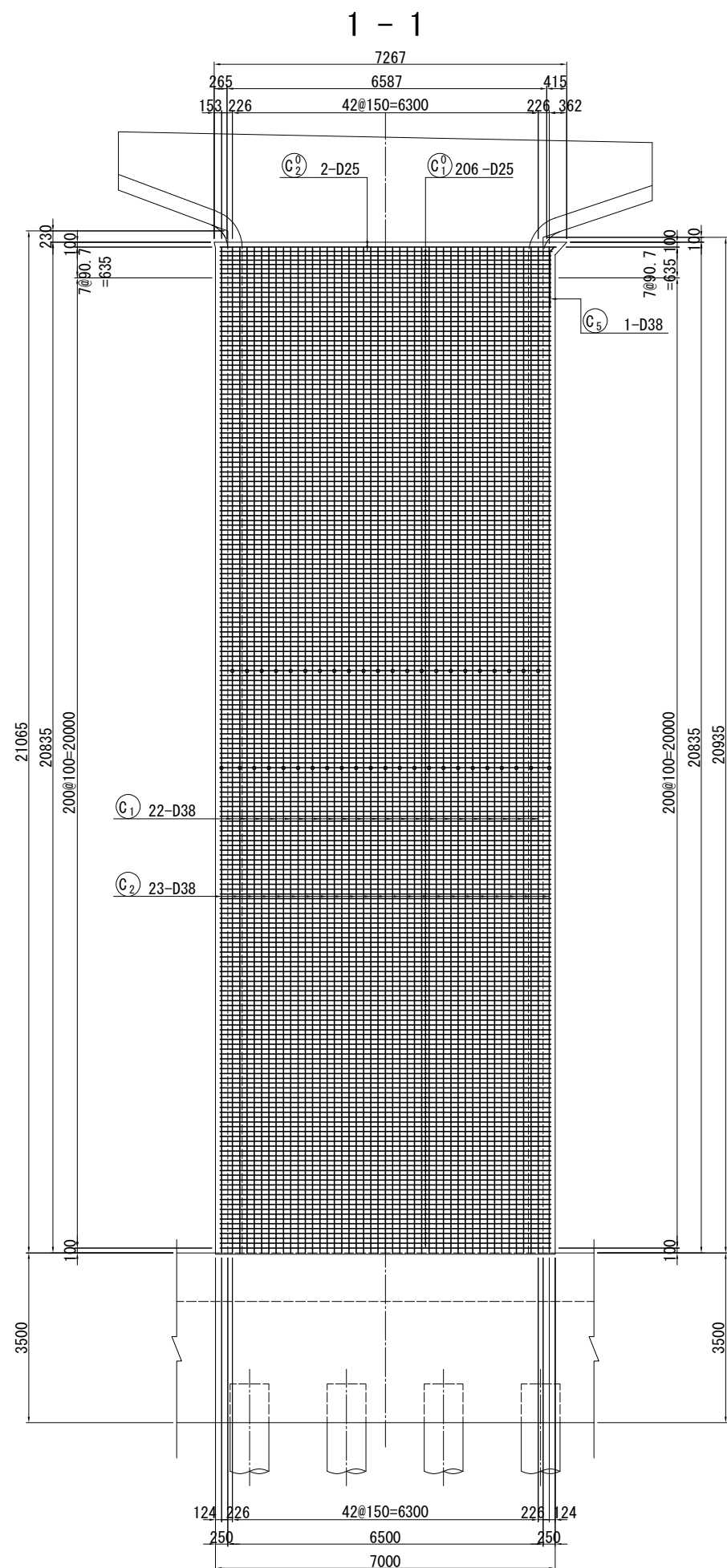
卷立て部(上部)



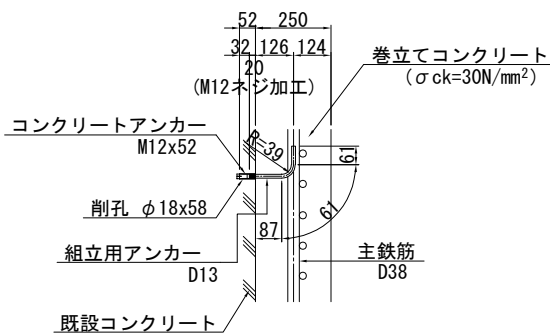
- 注記) 1. 施工にあたっては、現地計測を実施して既設構造寸法を再確認すること。
2. 補強部分(既設面)は、WJ による表面処理を行うこと。
3. 張出梁部のある橋脚においては、施工性を考慮して張出梁から巻立ての下がり位置を設定すること。
4. RC巻立ての天端は排水用の勾配(2.00%)を付すこと。

工 種		仕 様
既設部	コンクリート	24 N/mm ²
	鉄 筋	SD345
補強部	コンクリート	30 N/mm ²
	鉄 筋	SD345

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類		丹尾高架橋 P3橋脚 RC巻立て補強一般図	
縮 尺	図式	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		



組立用アンカー詳細図 S=1:25
(参考図)



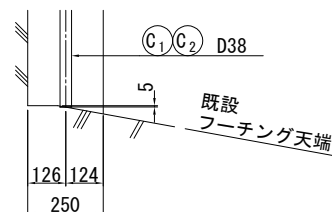
※ 組立用アンカーは1本/m²程度配置する。

組立用アンカー数量表

L (mm)	本数	質量 (kg)
230	388	89

※組立用アンカー本数
N=388.0m²/1本/m²=388本

A部詳細図 S=1:25

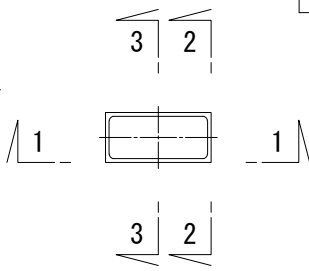


- 注記) 1. 鉄筋の継手位置は1断面に集中させないように交互に配置すること。
2. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJ による表面処理を行うこと。
4. 張出梁部のある橋脚においては、施工性を考慮して張出梁から巻立ての下がり位置を設定すること。

使用材料

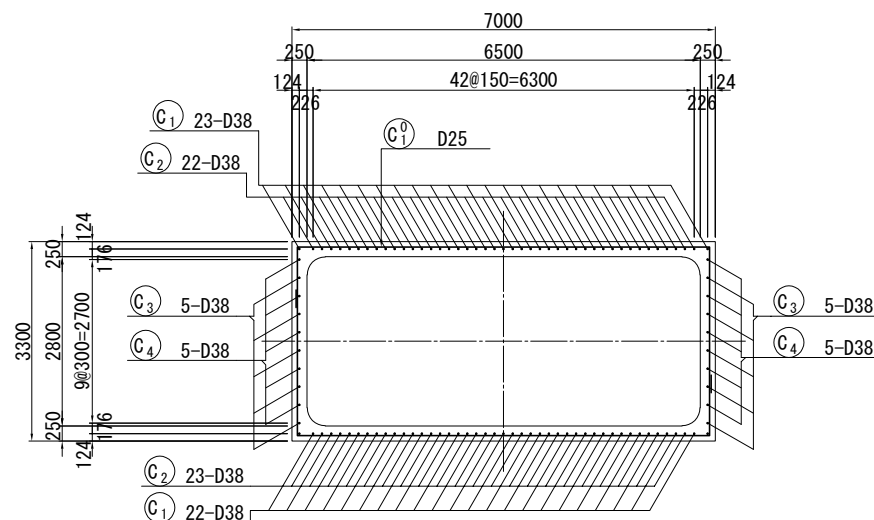
工 種	仕 様
補強部	コンクリート 30 N/mm ² 鉄 筋 SD345

位 置 図



首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	丹尾高架橋 P3橋脚 RC巻立て補強配筋図(その1)		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名	東日本高速道路 株式会社		
事務所名	関東支社 市原管理事務所		

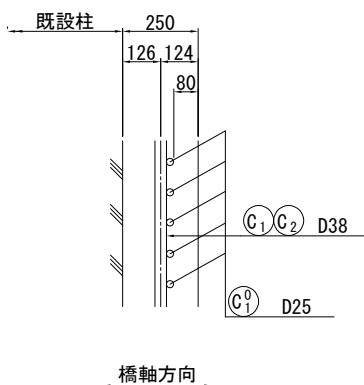
4 - 4



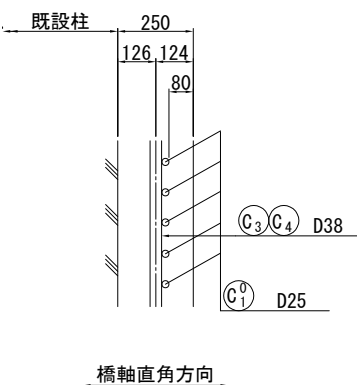
かぶり詳細図 S=1:25

[橋軸方向]

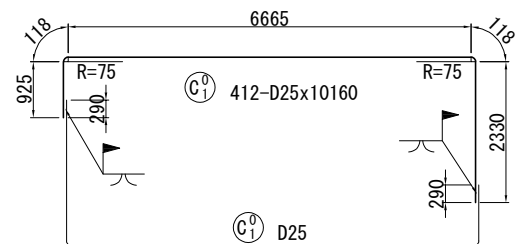
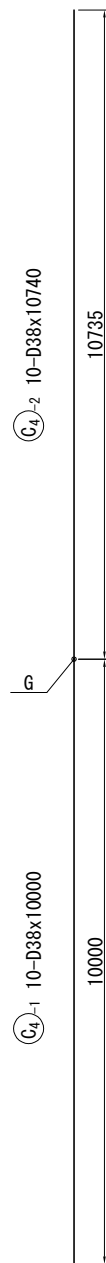
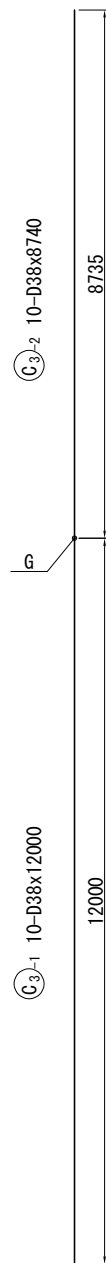
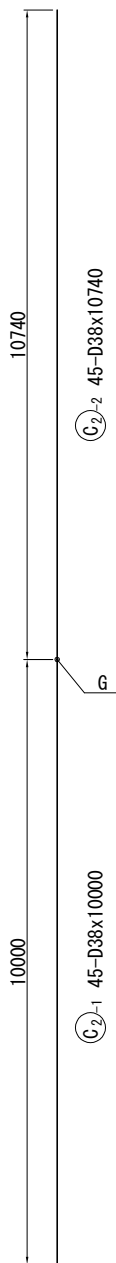
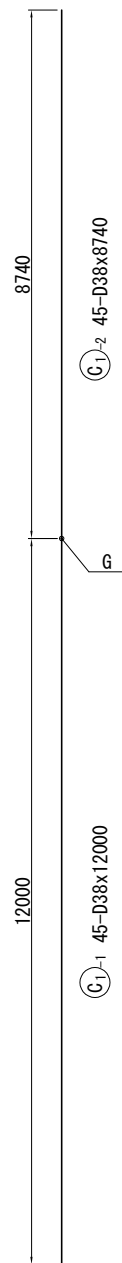
[橋軸直角方向]



橋軸方向

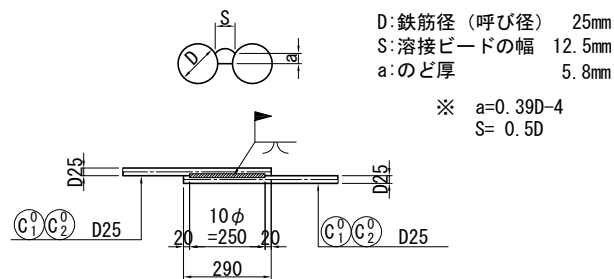


橋軸直角方向



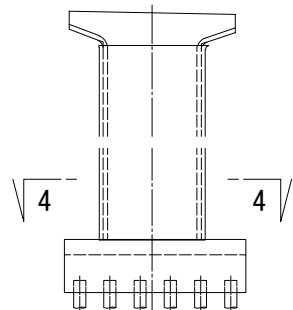
記号	径	本数	L1	L
1	D25	2	6778	10270
2	D25	2	6695	10190
平均		4	6737	10230

フレアー溶接詳細図 S=1:25



位置図

- 注記) 1. 鉄筋の継手位置は1断面に集中させないように交互に配置すること。
2. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJ による表面処理を行うこと。

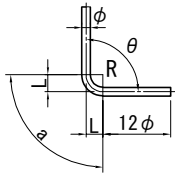


首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	丹尾高架橋 P3橋脚 RC巻立て補強配筋図(その2)		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

鉄筋質量表

種別	径	長さ (mm)	本数 (本)	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
C 1 -1	D38	12000	45	8.95	107.4	4833	↑ (45)
C 1 -2	D38	8740	45	8.95	78.2	3519	
C 2 -1	D38	10000	45	8.95	89.5	4028	↑ (45)
C 2 -2	D38	10740	45	8.95	96.1	4325	
C 3 -1	D38	12000	10	8.95	107.4	1074	↑ (10)
C 3 -2	D38	8740	10	8.95	78.2	782	
C 4 -1	D38	10000	10	8.95	89.5	895	↑ (10)
C 4 -2	D38	10740	10	8.95	96.1	961	
C 5	D38	1300	12	8.95	11.6	139	┘
20556 kg							
C 1 ⁰	D25	10160	412	3.98	40.4	16645	┘ [412]
C 2 ⁰	D25	10230	4	3.98	40.7	163	┘ 平均長 [4]
16808 kg							
T		ガス圧接箇所数			フレアー溶接箇所数		
D38		20556 kg			(110) -		
D25		16808 kg			- [416]		
合 計		37364 kg			(110) [416]		
コンクリートアンカー					M12x52	388	個
(削孔 φ18x58)							

鉄筋加工寸法表

										
径	$\theta \leq 90^\circ$ $R=3.0\phi$	$\theta > 90^\circ$ $R=5.5\phi$	$\theta = 45^\circ$		$\theta = 60^\circ$		$\theta = 90^\circ$		$\theta = 135^\circ$	
			a	ΔL	a	ΔL	a	ΔL	a	ΔL
D13	39	71.5	92	96	82	53	61	17	56	3
D16	48	88	113	119	100	66	75	21	69	4
D19	57	104.5	134	141	119	78	89	25	82	5
D22	66	121	155	164	138	91	104	28	95	5
D25	75	137.5	177	185	157	103	118	32	108	6
D29	87	159.5	205	215	182	119	137	37	125	7
D32	96	176	226	237	201	132	151	41	138	8
D35	105	192.5	247	260	220	144	165	45	151	8
D38	114	209	269	281	239	156	179	49	164	9
D41	123	225.5	290	304	258	168	193	53	177	10
D51	153	280.5	360	379	320	210	240	66	220	12

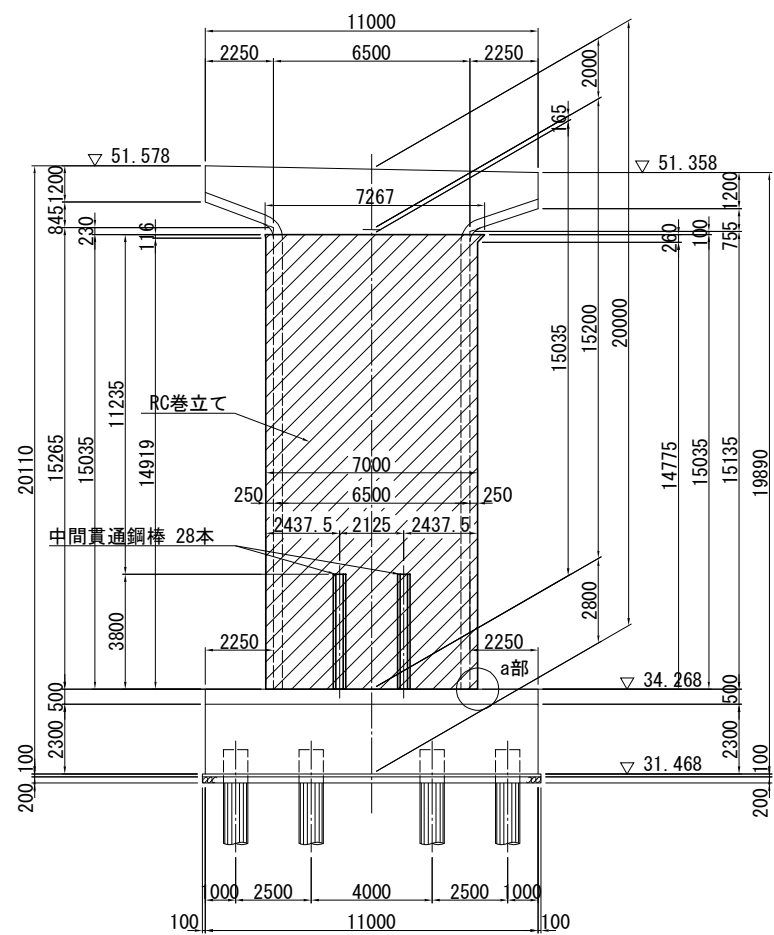
- 注記) 1. 鉄筋の継手位置は1断面に集中させないように交互に配置すること。
2. 鉄筋質量表内の()はガス圧接、[]はフレアー溶接の箇所数を示す。

使用材料

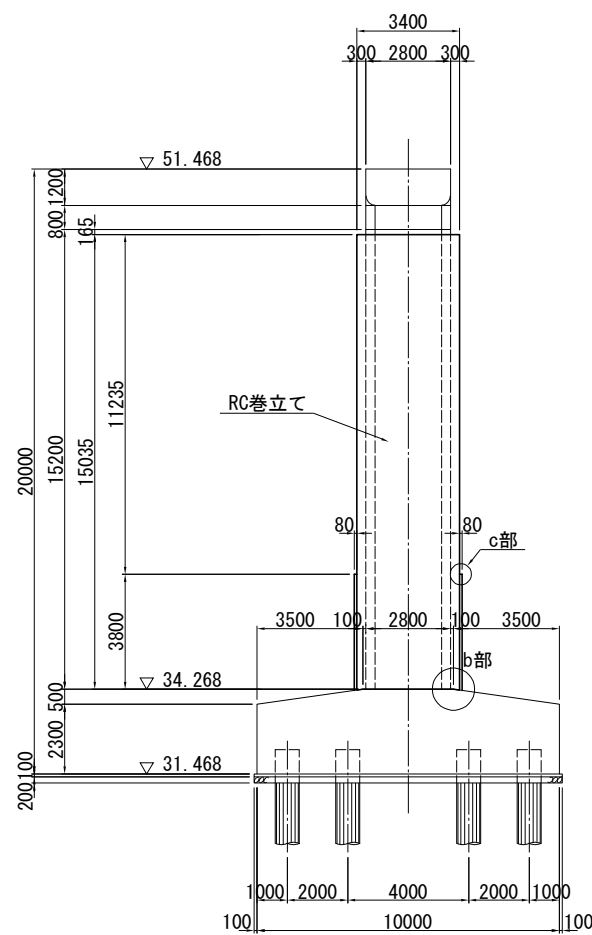
工 種		仕 様
補強部	コンクリート	30 N/mm ²
	鉄 筋	SD345

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	丹尾高架橋 P3橋脚 RC巻立て補強配筋図(その3)		
	縮 尺	図示	図面番号 /
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

正面図

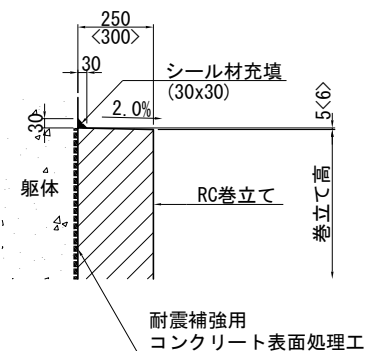


側面図

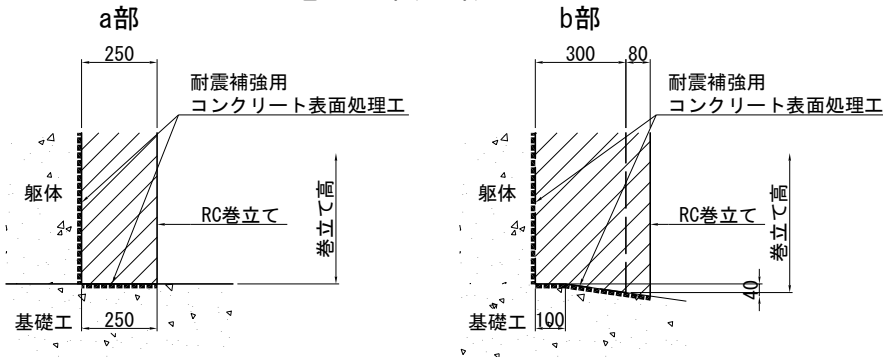


巻立て部詳細図 S=1:25

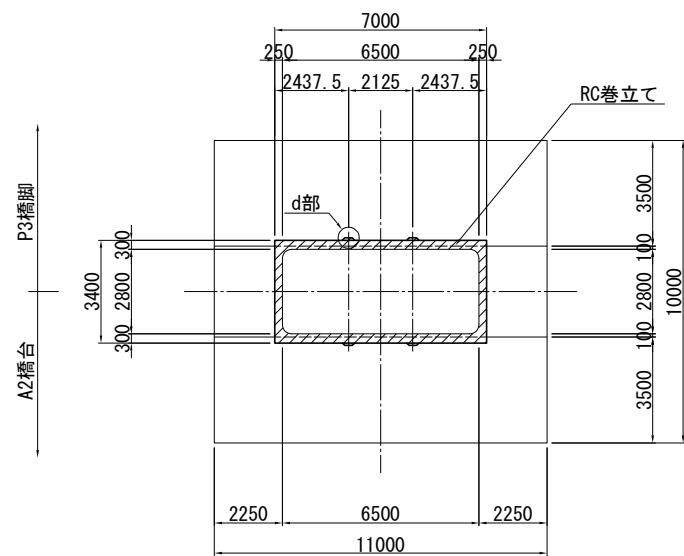
巻立て部(上部)



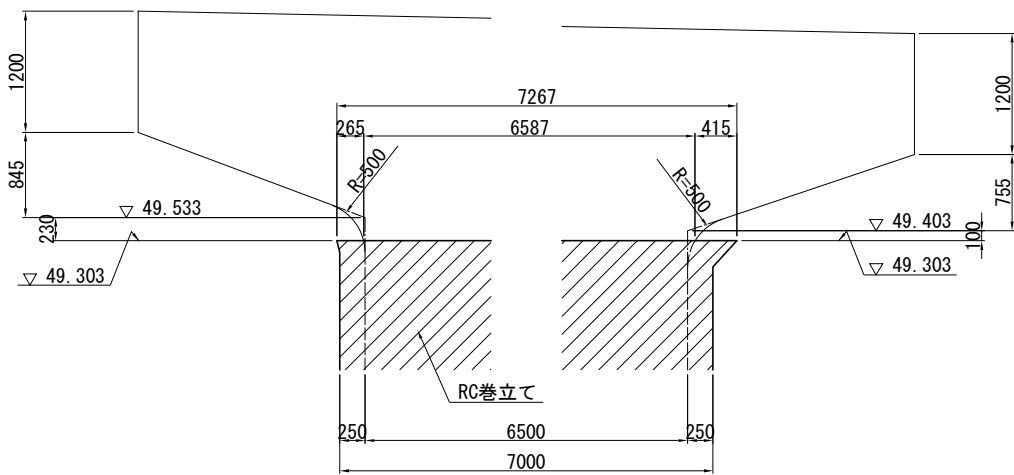
巻立て部(下部)



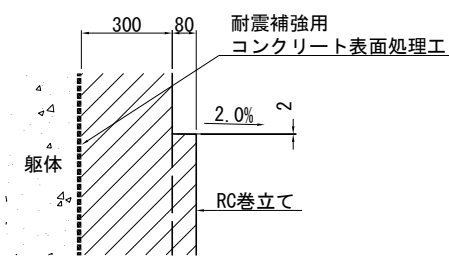
平面図



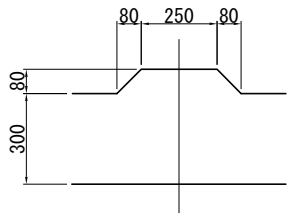
巻立て部天端拡大図 S=1:75



c部詳細図 S=1:25



d部拡大図 S=1:25



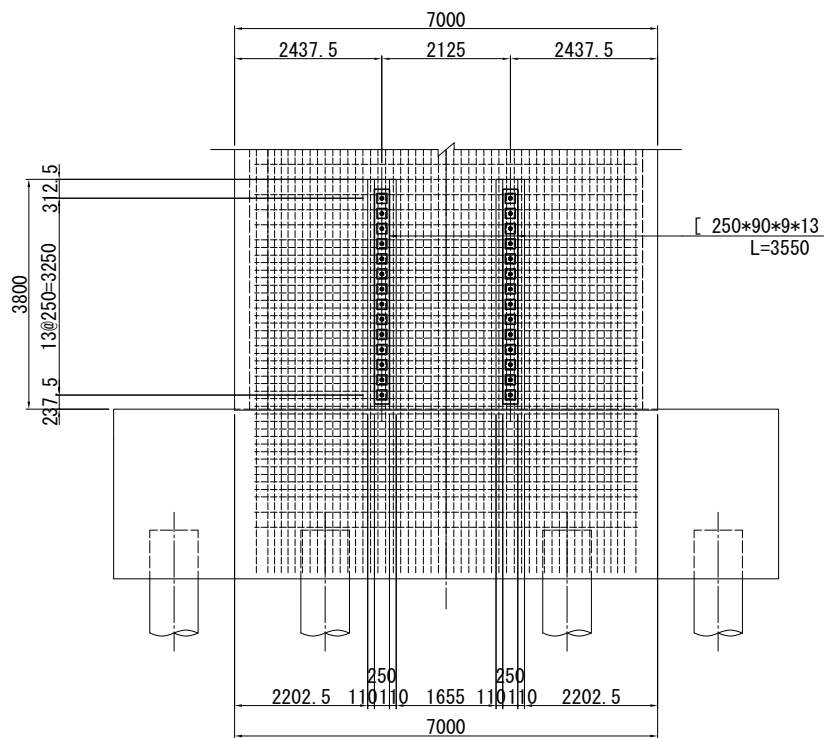
- 注記) 1. 施工にあたっては、現地計測を実施して既設構造寸法を再確認すること。
2. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
3. 張出梁部のある橋脚においては、施工性を考慮して張出梁から巻立ての下がり位置を設定すること。
4. RC巻立ての天端は排水用の勾配(2.00%)を付すこと。

使用材料

工種	仕様	
	コンクリート	鉄筋
既設部	コンクリート	24 N/mm ²
	鉄筋	SD345
補強部	コンクリート	30 N/mm ²
	鉄筋	SD345

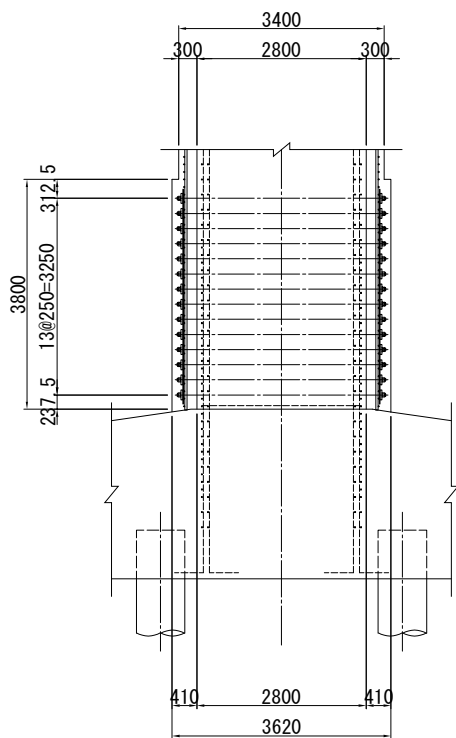
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	丹尾高架橋 P4橋脚 RC巻立て補強一般図		
縮尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名	東日本高速道路 株式会社		
事務所名	関東支社 市原管理事務所		

正面図

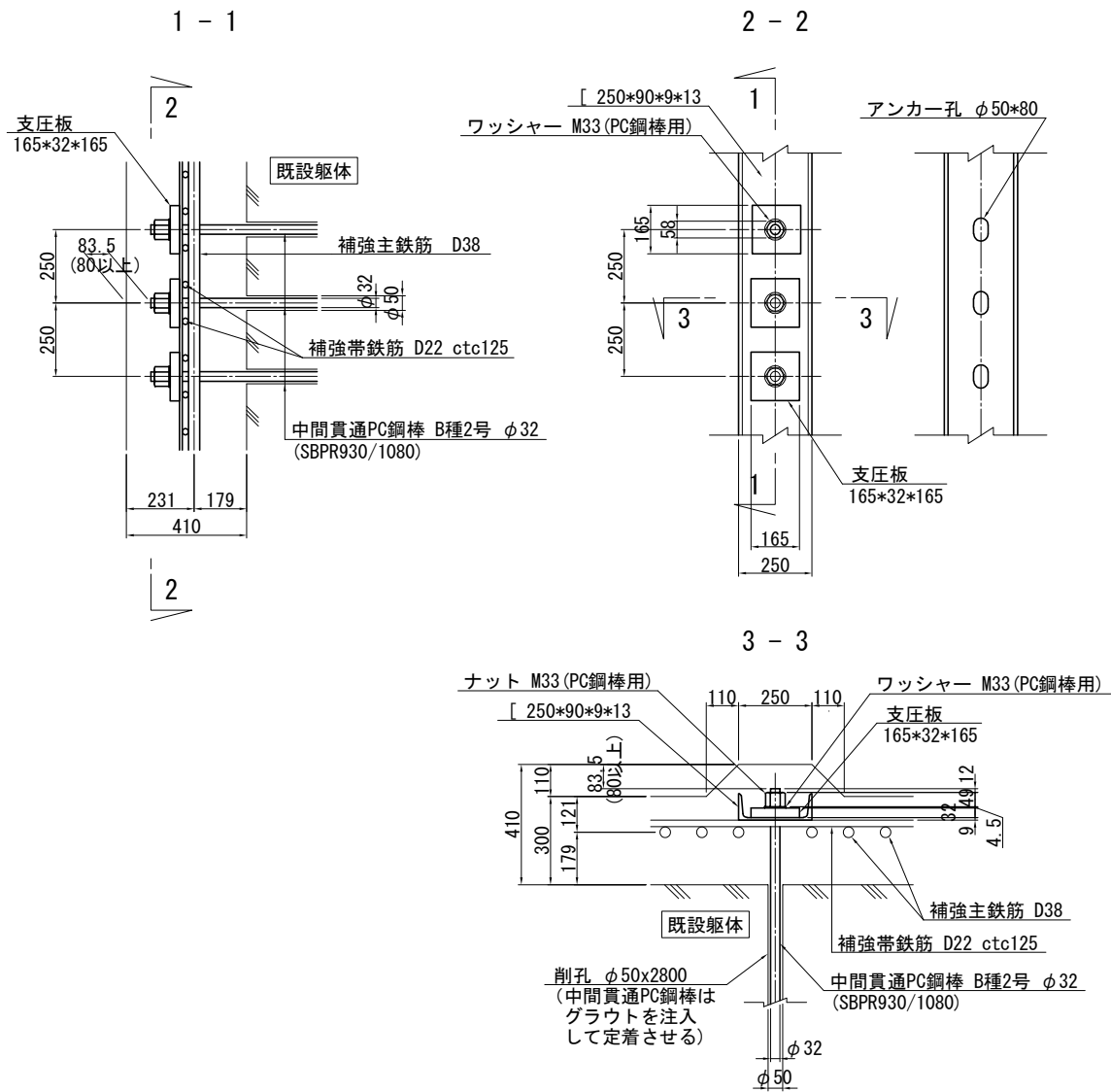


断面図

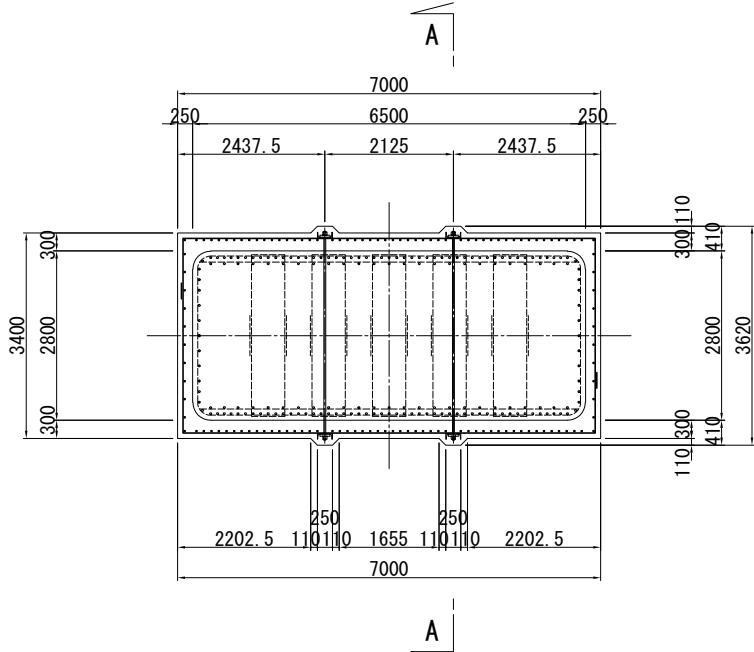
(A - A)



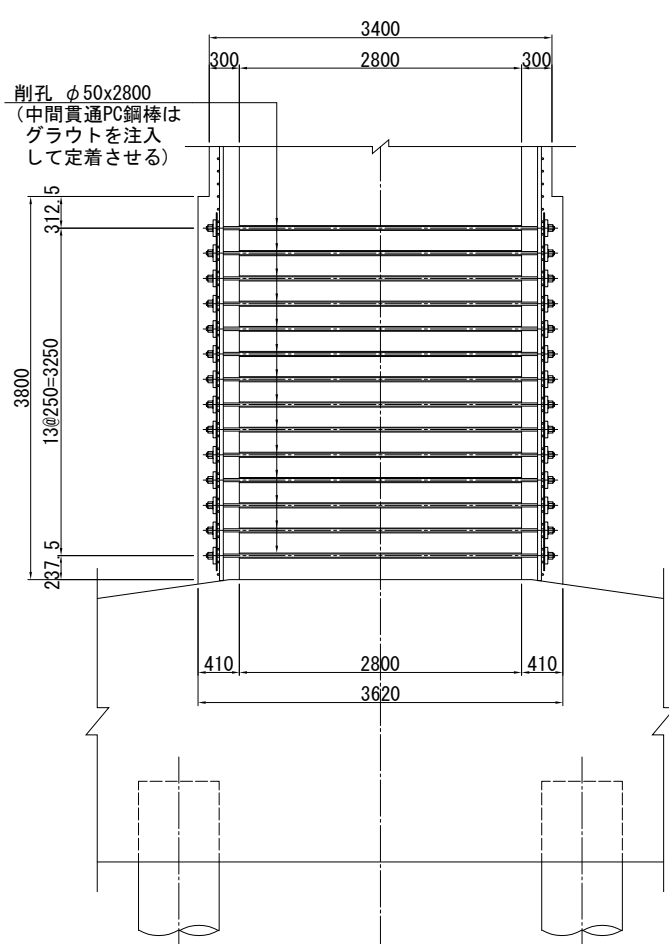
設置詳細図 S=1:25



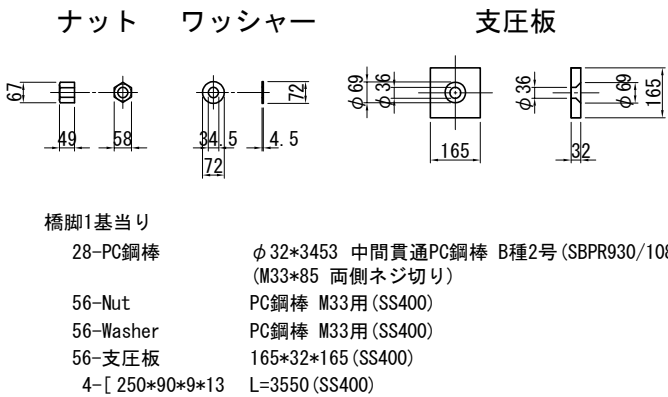
平面図



削孔詳細図 S=1:75



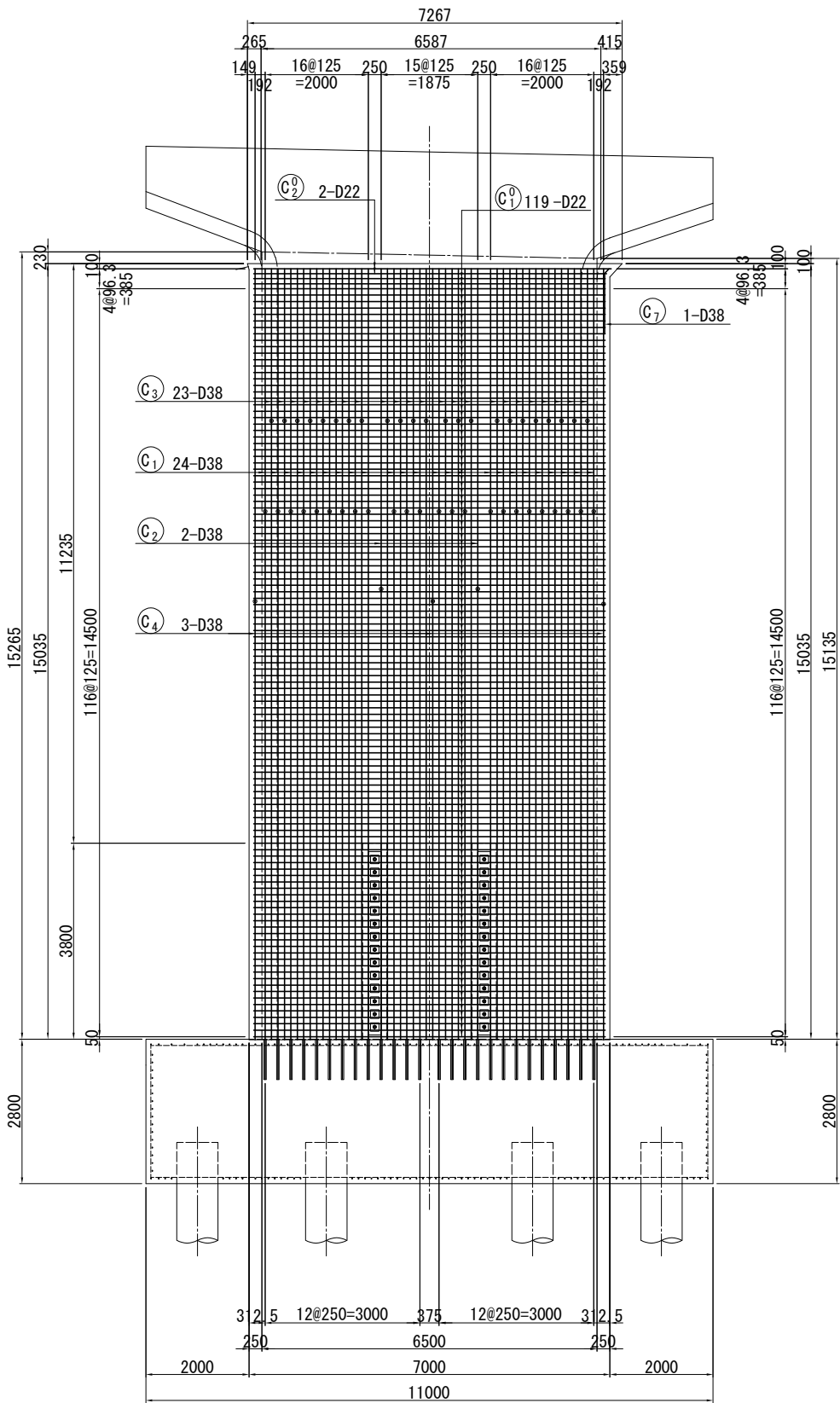
部品詳細図 S=1:25



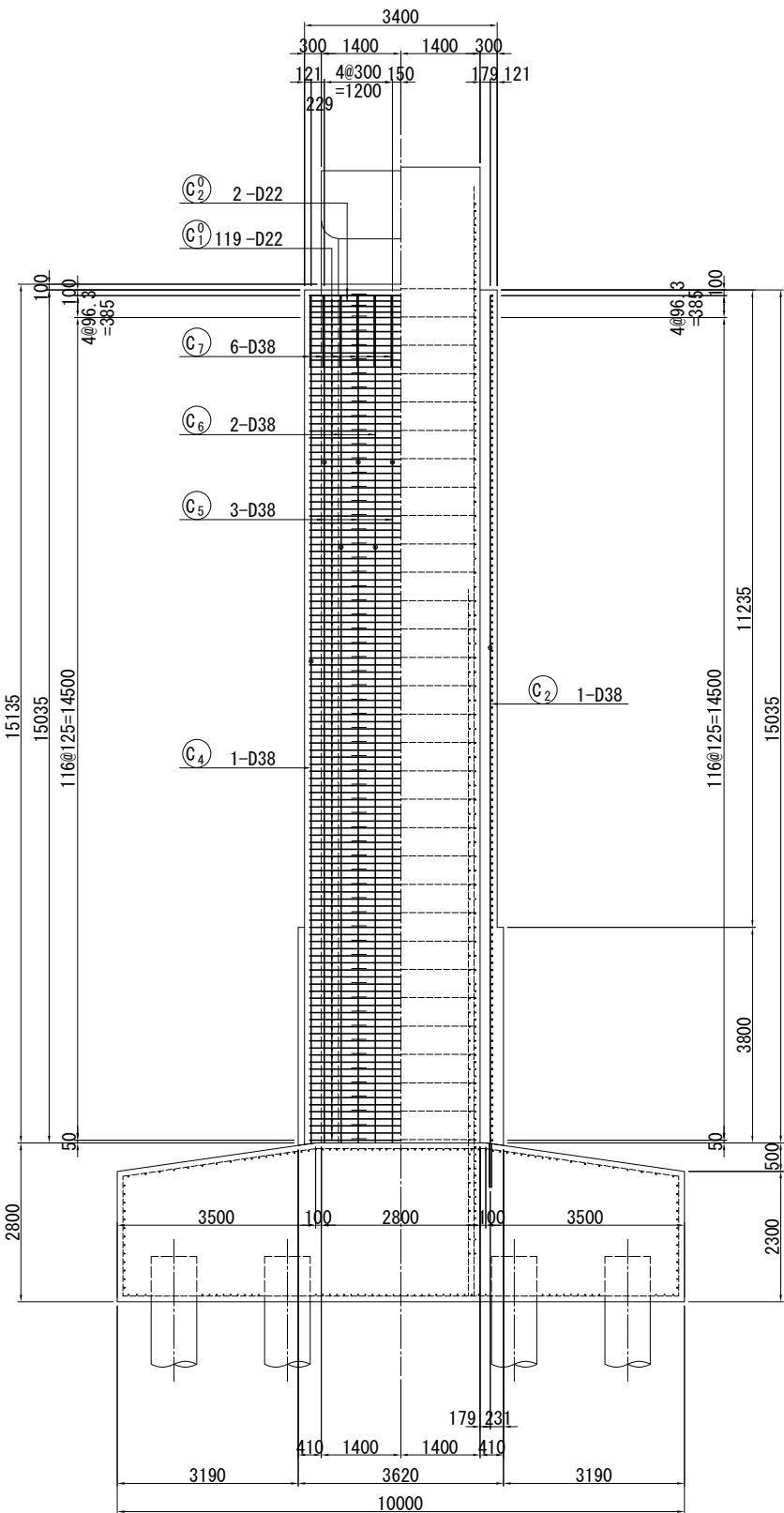
注記) 1. 既設柱に設置する中間貫通削孔は、既設鉄筋と干渉しないよう施工の際は鉄筋探索を行った上、本図面と異なる場合には必要に応じて見直しを行うこと。
なお、既設鉄筋は切断しないこと。
2. 細破線は既設の鉄筋配置を示す。
3. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
4. 補強部分(既設面)は、WJ による表面処理を行うこと。

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	丹尾高架橋 P4橋脚 RC巻立て補強 中間貫通鋼材工詳細図		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

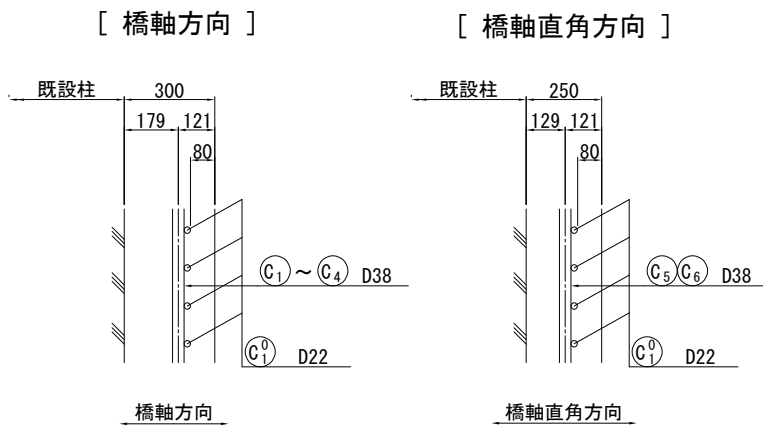
1 - 1



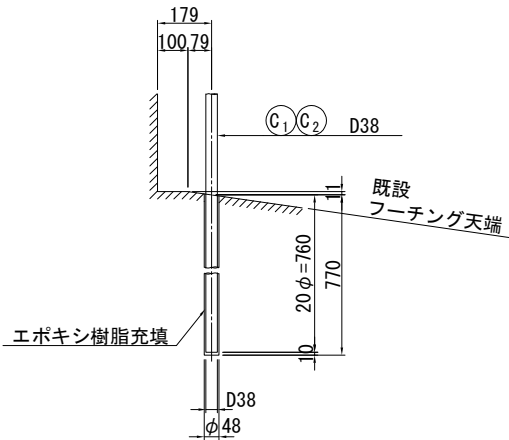
2 - 2 3 - 3



かぶり詳細図 S=1:25



樹脂アンカー詳細図 S=1:25

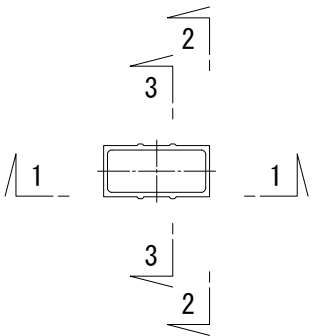


- 注記) 1. 既設フーチングに設置する樹脂アンカーは既設鉄筋と干渉しないよう、施工の際は鉄筋探索を行った上、本図面と異なる場合には、必要に応じて見直しを行うこと。
なお、既設鉄筋は切断しないこと。
2. 細破線は既設の鉄筋配置を示す。
3. 鉄筋の継手位置は1断面に集中させないように交互に配置すること。
4. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
5. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
6. 張出梁部のある橋脚においては、施工性を考慮して張出梁から巻立ての下がり位置を設定すること。

使用材料

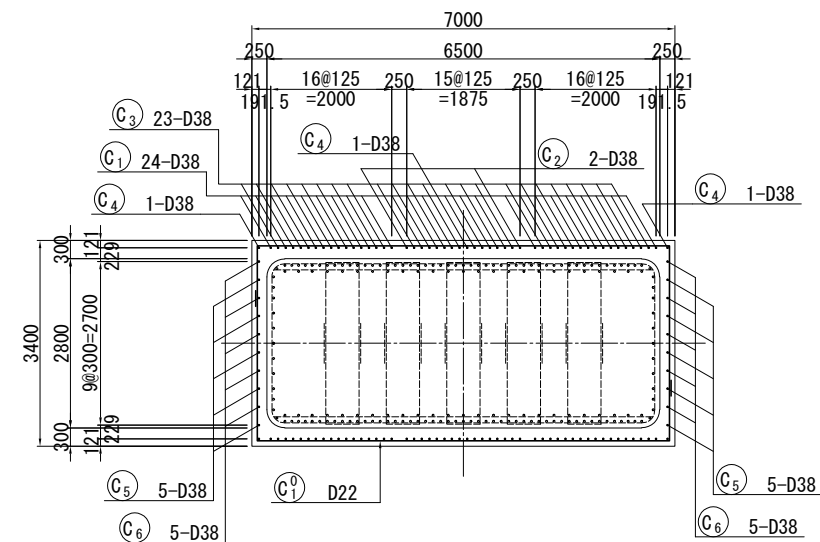
工種	仕様
補強部	コンクリート 30 N/mm ²
	鉄筋 SD345

位置図

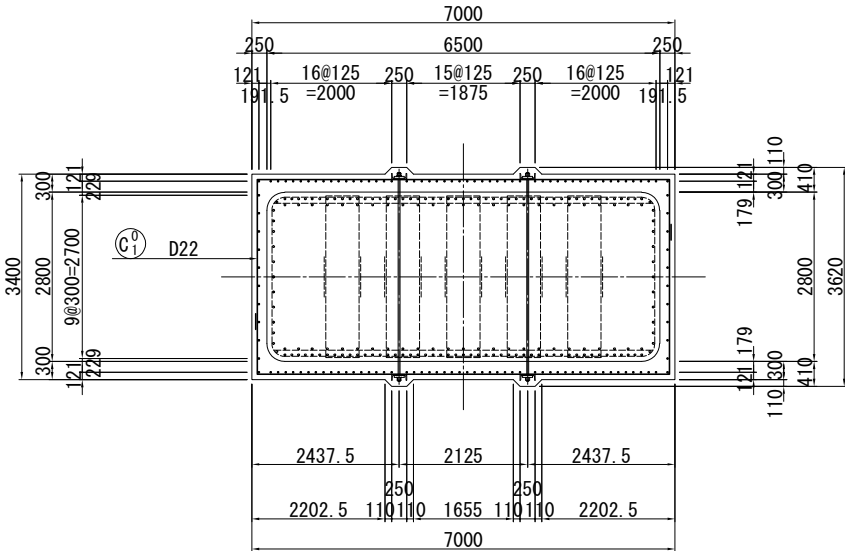


首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	丹尾高架橋 P4橋脚 RC巻立て補強配筋図(その1)		
縮尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

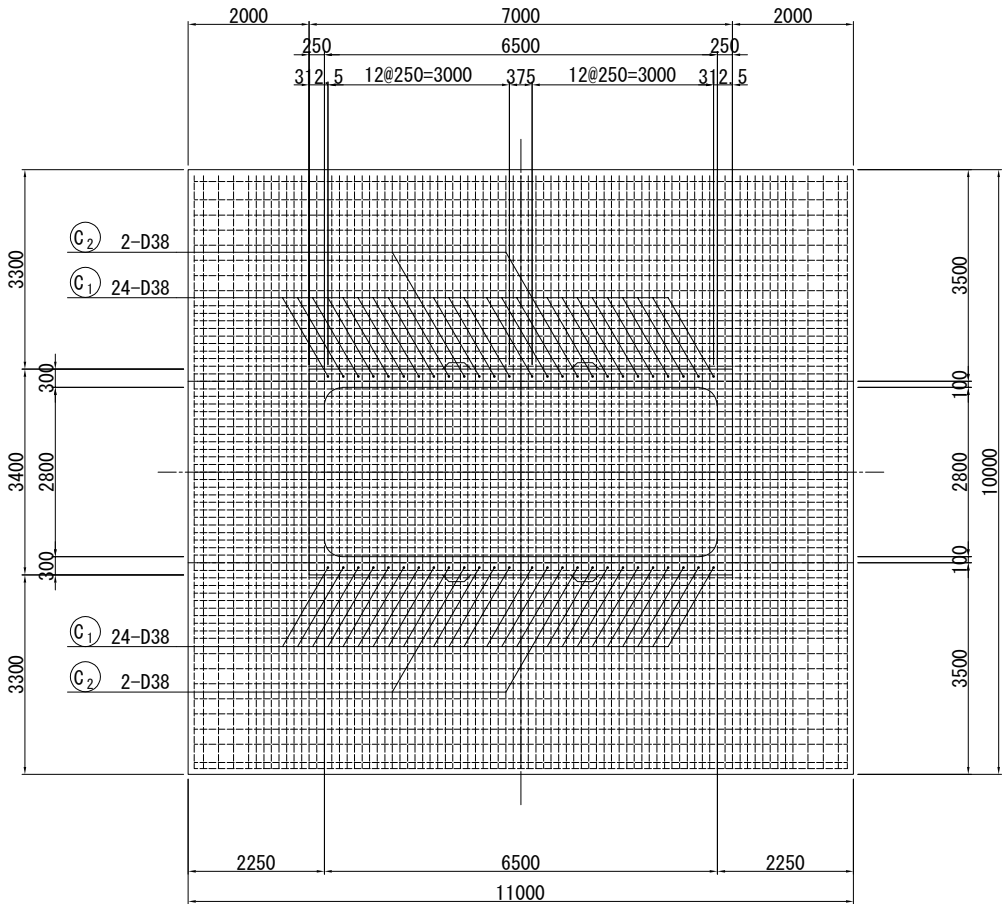
4 - 4



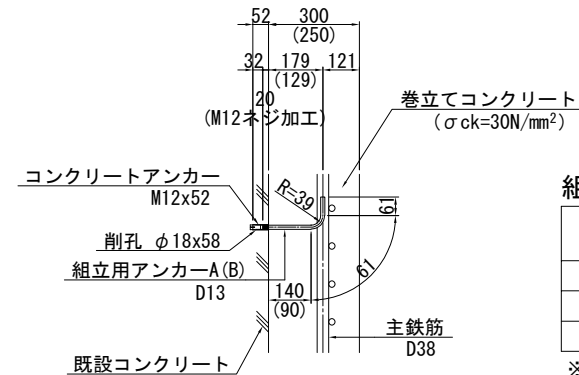
5 - 5



6 - 6



組立用アンカー詳細図 S=1:25
(参考図)



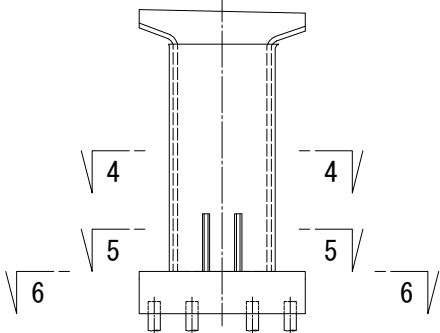
組立用アンカー数量表

	L (mm)	本数	質量 (kg)
A	290	196	57
B	240	85	20
合計		281	77

※組立用アンカー本数
A N=195.5m²/1本/m²=196本
B N= 84.6m²/1本/m²=85本

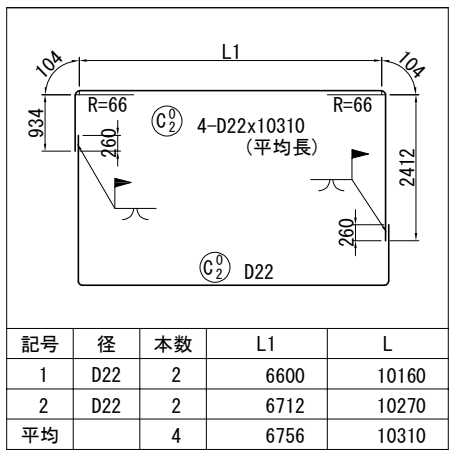
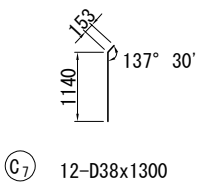
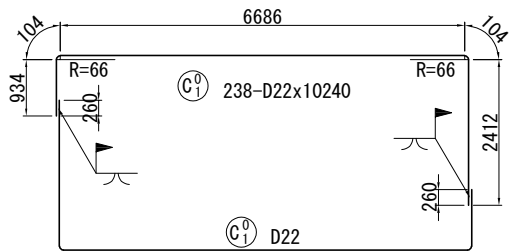
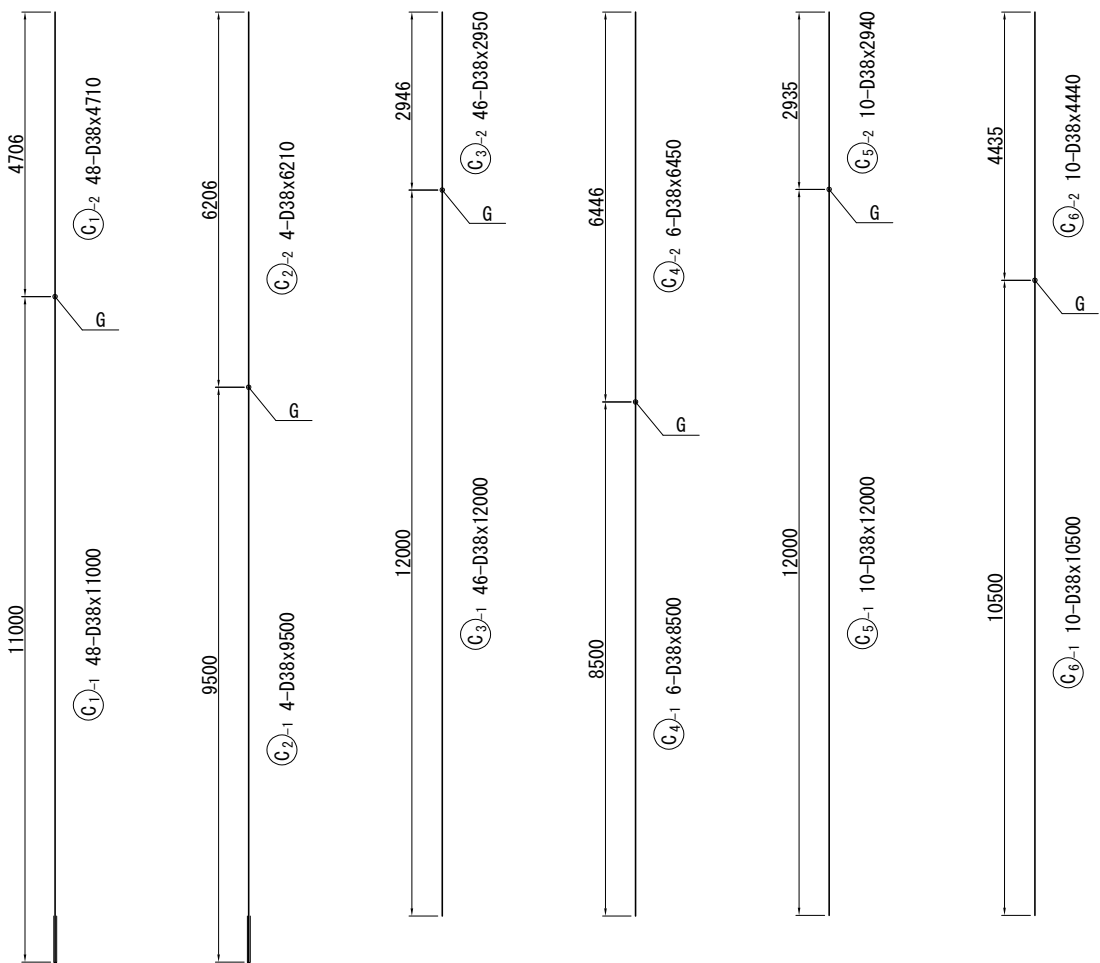
※ 組立用アンカーは1本/m²程度配置する。

位置図



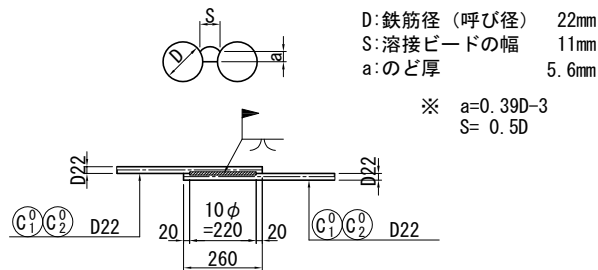
- 注記) 1. 既設フーチングに設置する樹脂アンカーは既設鉄筋と干渉しないよう、施工の際は鉄筋探索を行った上、本図面と異なる場合には、必要に応じて見直しを行うこと。
なお、既設鉄筋は切断しないこと。
2. 細破線は既設の鉄筋配置を示す。
3. 鉄筋の継手位置は1断面に集中させないように交互に配置すること。
4. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
5. 補強部分(既設面)は、WJ による表面処理を行うこと。

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	丹尾高架橋 P4橋脚 RC巻立て補強配筋図(その2)		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		



記号	径	本数	L1	L
1	D22	2	6600	10160
2	D22	2	6712	10270
平均		4	6756	10310

フレアー溶接詳細図 S=1:25

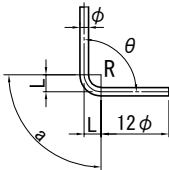


D:鉄筋径(呼び径) 22mm
S:溶接ビードの幅 11mm
a:のど厚 5.6mm
※ a=0.39D-3
S= 0.5D

鉄筋質量表

種別	径	長さ (mm)	本数 (本)	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
C 1 -1	D38	11000	48	8.95	98.5	4728	↓ (48) <48>
C 1 -2	D38	4710	48	8.95	42.2	2026	↓
C 2 -1	D38	9500	4	8.95	85.0	340	↓ (4) <4>
C 2 -2	D38	6210	4	8.95	55.6	222	↓
C 3 -1	D38	12000	46	8.95	107.4	4940	↑ (46)
C 3 -2	D38	2950	46	8.95	26.4	1214	↑
C 4 -1	D38	8500	6	8.95	76.1	457	↑ (6)
C 4 -2	D38	6450	6	8.95	57.7	346	↑
C 5 -1	D38	12000	10	8.95	107.4	1074	↑ (10)
C 5 -2	D38	2940	10	8.95	26.3	263	↑
C 6 -1	D38	10500	10	8.95	94.0	940	↑ (10)
C 6 -2	D38	4440	10	8.95	39.7	397	↑
C 7	D38	1300	12	8.95	11.6	139	↑
17086 kg							
C 1 0	D22	10240	238	3.04	31.1	7402	↑ [238]
C 2 0	D22	10310	4	3.04	31.3	125	↑ [4]
7527 kg							
T ガス圧接箇所数 樹脂アンカー箇所数 フレアー溶接箇所数							
D38	12018 kg	(72)	-	-	-	-	
D22	7527 kg	-	-	-	-	[242]	
合 計	19545 kg	(72)	-	-	-	[242]	
T1							
D38	5068 kg	(52)	<52>	-	-	-	
合 計	5068 kg	(52)	<52>	-	-	-	
コンクリートアンカー M12x52 281 個							
(削孔 φ18x58)							

鉄筋加工寸法表

 $\Delta L=2L-a$										
径	$\theta \leq 90^\circ$ R=3.0 ϕ	$\theta > 90^\circ$ R=5.5 ϕ	$\theta = 45^\circ$		$\theta = 60^\circ$		$\theta = 90^\circ$		$\theta = 135^\circ$	
			a	ΔL	a	ΔL	a	ΔL	a	ΔL
D13	39	71.5	92	96	82	53	61	17	56	3
D16	48	88	113	119	100	66	75	21	69	4
D19	57	104.5	134	141	119	78	89	25	82	5
D22	66	121	155	164	138	91	104	28	95	5
D25	75	137.5	177	185	157	103	118	32	108	6
D29	87	159.5	205	215	182	119	137	37	125	7
D32	96	176	226	237	201	132	151	41	138	8
D35	105	192.5	247	260	220	144	165	45	151	8
D38	114	209	269	281	239	156	179	49	164	9
D41	123	225.5	290	304	258	168	193	53	177	10
D51	153	280.5	360	379	320	210	240	66	220	12

- 注記) 1. 既設フーチングに設置する樹脂アンカーは既設鉄筋と干渉しないよう、施工の際は鉄筋探索を行った上、本図面と異なる場合には、必要に応じて見直しを行うこと。
なお、既設鉄筋は切断しないこと。
2. 鉄筋の継手位置は1断面に集中させないように交互に配置すること。
3. 鉄筋質量表内の()はガス圧接、< >は樹脂アンカー、[]はフレアー溶接の箇所数を示す。

使用材料

工 種		仕 様
補強部	コンクリート	30 N/mm ²
	鉄 筋	SD345

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	丹尾高架橋 P4橋脚 RC巻立て補強配筋図(その3)		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

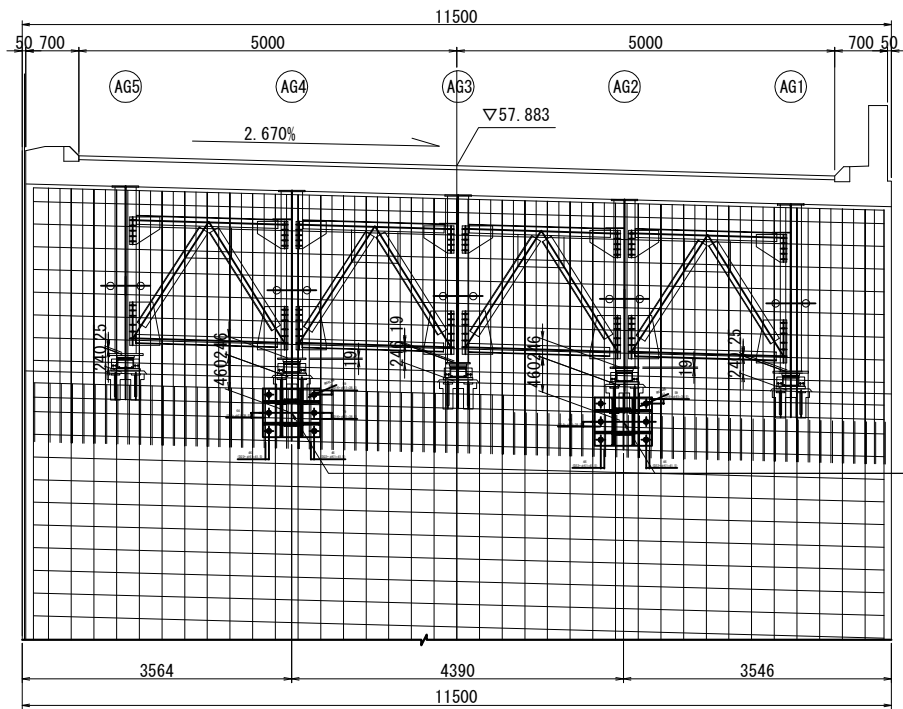
丹尾高架橋 A1橋台 落橋防止構造P3配置図
P3-1591 (300)

S=1:100

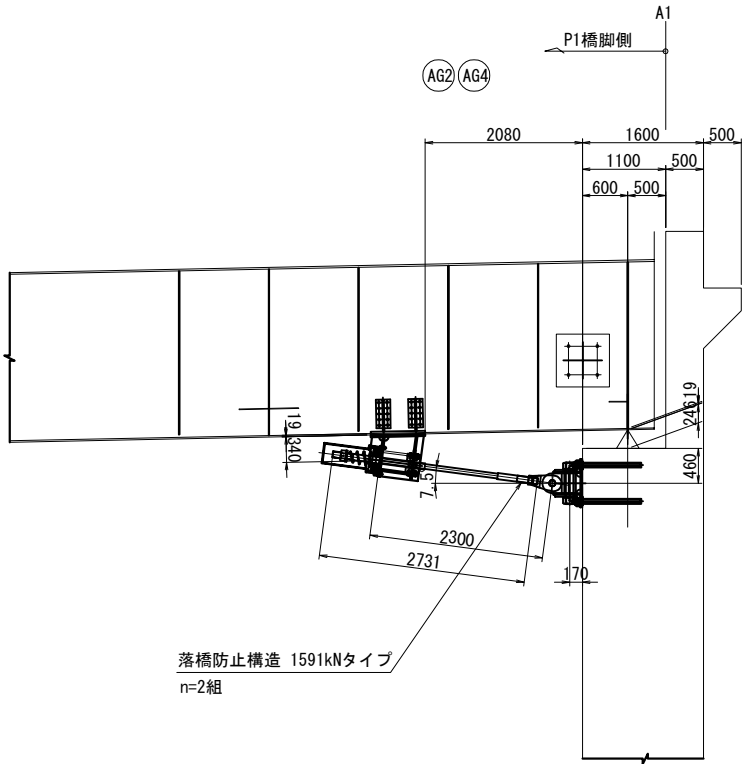
設計条件

死荷重反力 (R _d)	2100kN
設計反力 (H _f)	3150kN
1本あたりの設計反力 (P)	1591kN
設計遊間量	300mm

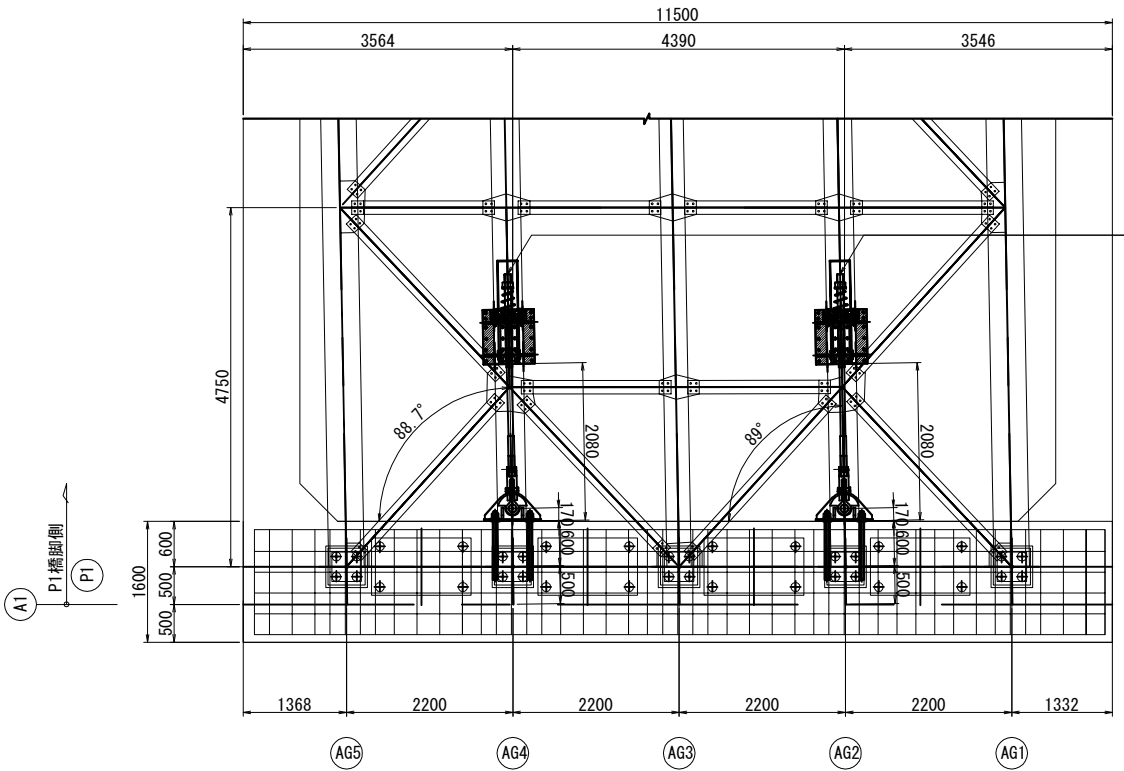
正面図



側面図



平面図



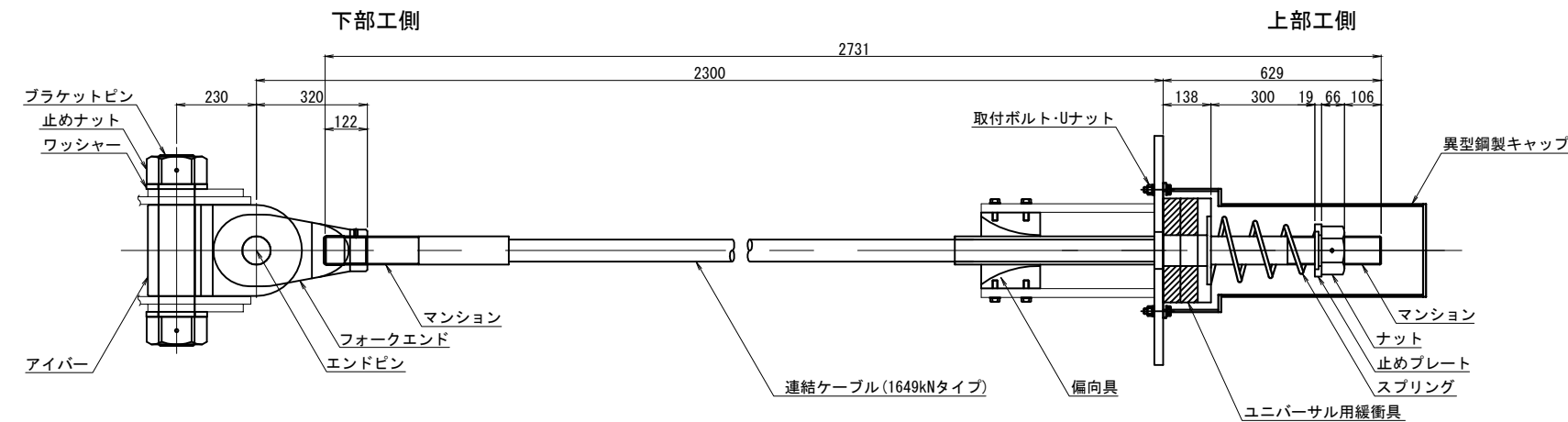
落橋防止構造 1591kNタイプ
n=2組

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	丹尾高架橋 A1橋台 落橋防止構造P3配置図		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

丹尾高架橋 A1橋台 落橋防止構造P3構造図（その1）（参考図） S=1:20
P3-1591 (300)
取付詳細図及び部品図

22 / 47

取付詳細図

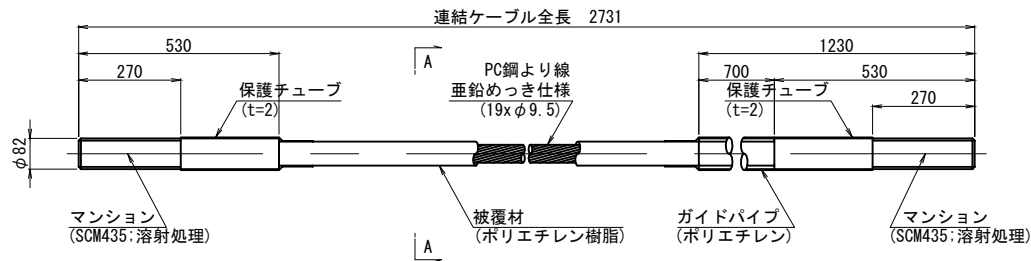


材 料 表（落橋防止構造1組当たり）

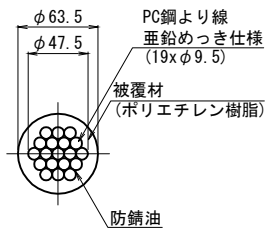
全2組

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
連結ケーブル (マンション) (ガイドパイプ)	1649kN L=2731mm	本	1	PC鋼より線, 亜鉛めっき仕様, ポリエチレン被覆
	1649kN用 標準	個	2	SCM435, 亜鉛アルミ溶射, ねじり標準 <ケーブルに組込>
	1649kN用 700mm	本	1	ポリエチレン <ケーブルに組込>
ナット	1649kN用	個	1	S45C: 亜鉛めっき (HDZT77)
止めプレート	1649kN用	個	1	SS400相当品: 亜鉛めっき (HDZT77)
スプリング	1649kN用 L=450	個	1	SW-C: 亜鉛めっき, クロメート処理
ユニバーサル用緩衝具	1649kN用	個	1	SS400相当品: 亜鉛めっき (HDZT77) + 合成ゴム
偏向具 (取付ボルト)	1649kN用 M16x55 1W付	個 本	1 16	ポリエチレン SS400相当品: 亜鉛めっき (HDZT49) 接着剤付
鋼製キャップ	1649kN用 L=800	個	1	SS400, STK400: 亜鉛めっき (HDZT77, t=6未満HDZT70)
取付ボルト・Uナット	M16x65 2W付	本	4	SS400相当品: 亜鉛めっき (HDZT49)
ブラケットピン	1649kN用	本	1	SCM435, ダクロダイズ処理, DMコート
止めナット	1649kN用	個	2	S45C: 亜鉛めっき (HDZT77)
ワッシャー	1649kN用	個	2	SS400相当品, 亜鉛めっき (HDZT77)
アイバー	1649kN用	個	1	S45C: 亜鉛めっき (HDZT77)
フォークエンド	1649kN用	個	1	S45C: 亜鉛めっき (HDZT77)
エンドピン (ピン)	1649kN用	本	1	SCM435, ダクロダイズ処理, DMコート
止めプレート (止めプレート)	1649kN用	個	1	SS400相当品, 亜鉛めっき (HDZT77)

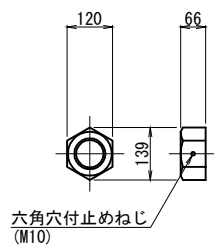
連結ケーブル



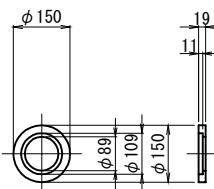
A-A断面図 S=1:6



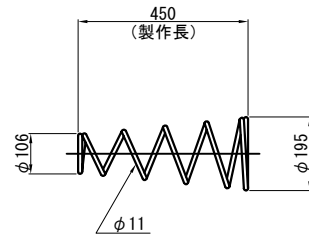
ナット
(S45C: 亜鉛めっき)



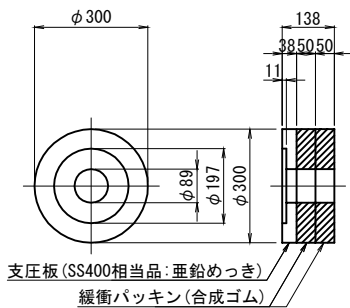
止めプレート
(SS400相当品: 亜鉛めっき)



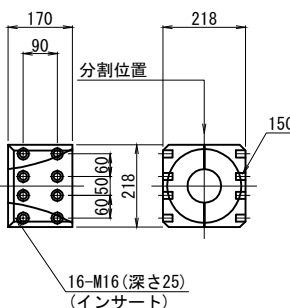
スプリング
(SW-C: 亜鉛めっき, クロメート処理)



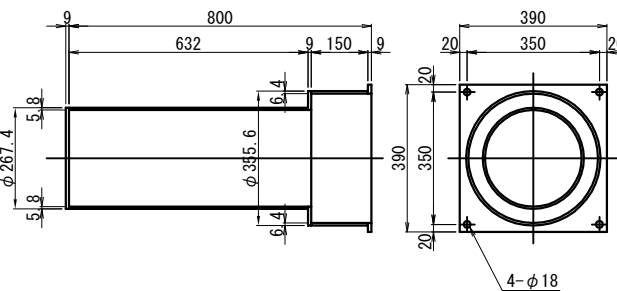
ユニバーサル用緩衝具
(支圧板+緩衝パッキン)



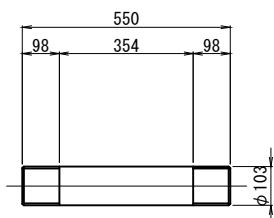
偏 向 具
(ポリエチレン)



異型鋼製キャップ
(SS400, STK400: 亜鉛めっき)



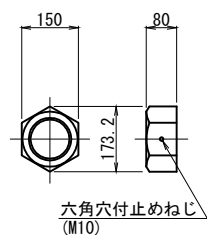
ブラケットピン
(SCM435: DMコート)



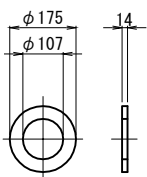
設計条件

1本あたりの設計反力(P)	1591kN
設計移動量	300mm

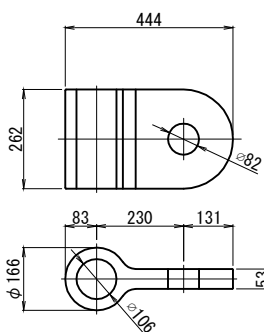
止めナット
(S45C: 亜鉛めっき)



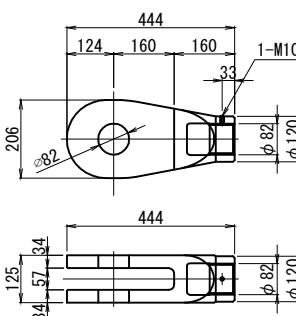
ワッシャー
(SS400相当品: 亜鉛めっき)



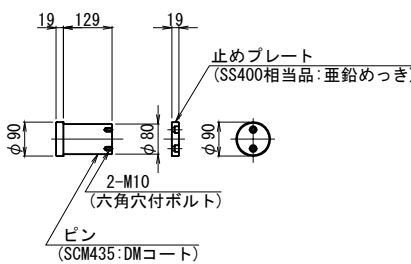
アイバー
(S45C: 亜鉛めっき)



フォークエンド
(S45C: 亜鉛めっき)



エンドピン
(ピン+止めプレート)



注記

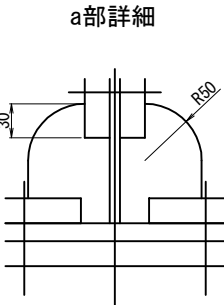
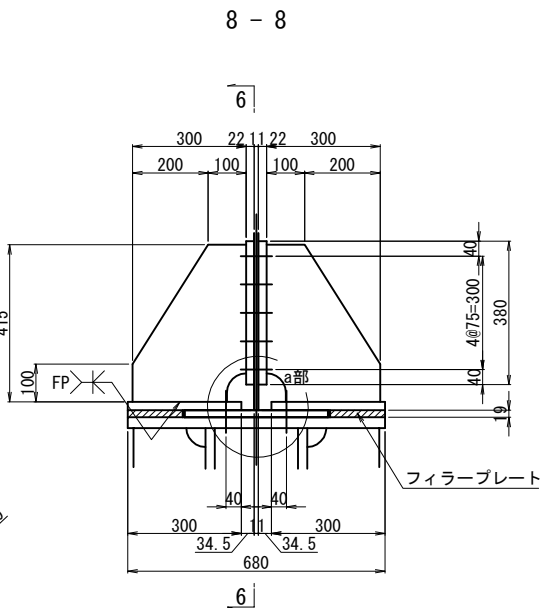
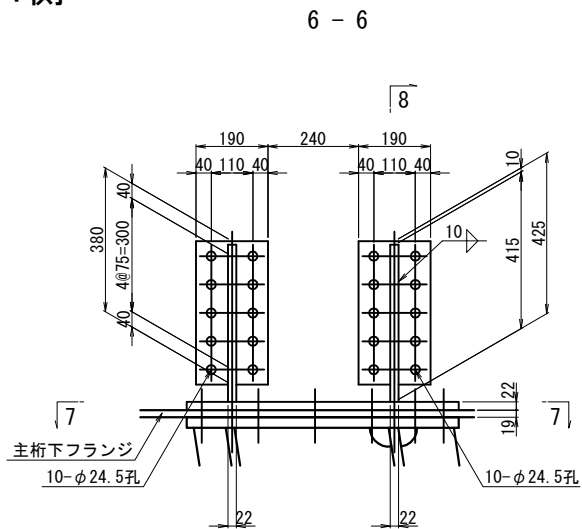
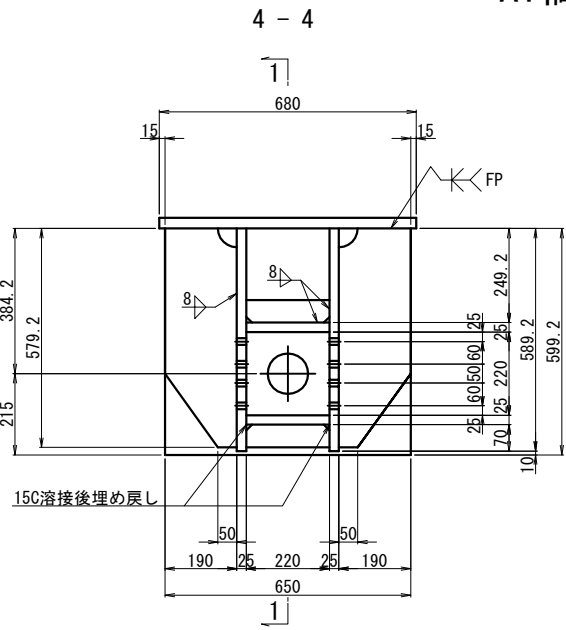
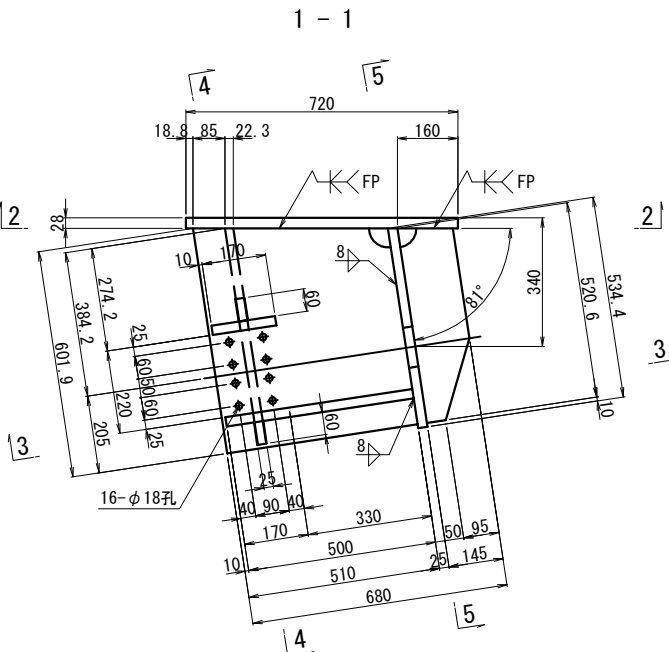
1. 連結ケーブルの製作は、現場にて取付間距離を確認のうえ、おこなうこと。

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	丹尾高架橋 A1橋台 落橋防止構造P3構造図（その1）（参考図）	図面番号	／
縮 尺		設計会社名	日本工営株式会社
設計会社名		施工会社名	
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

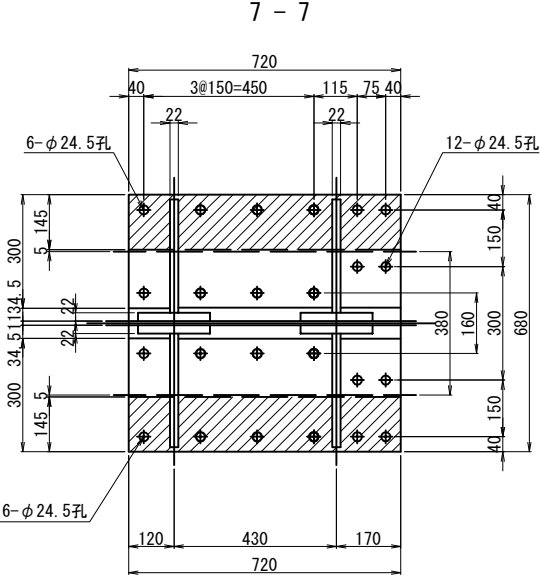
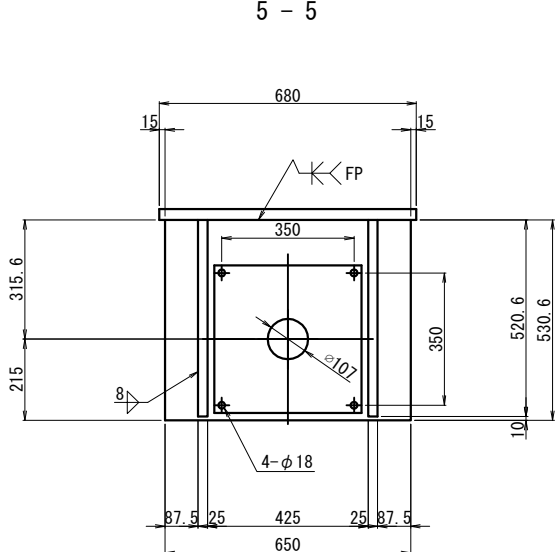
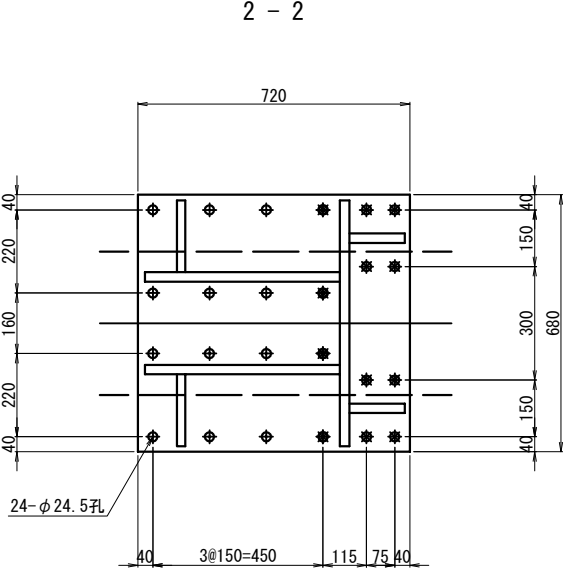
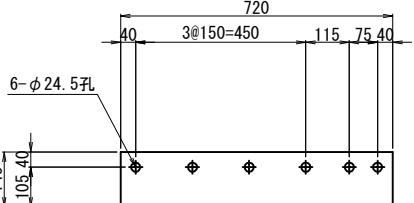
ブラケット詳細図

P3-1591 (300)
上部エブラケット詳細図
A1橋台 P1側

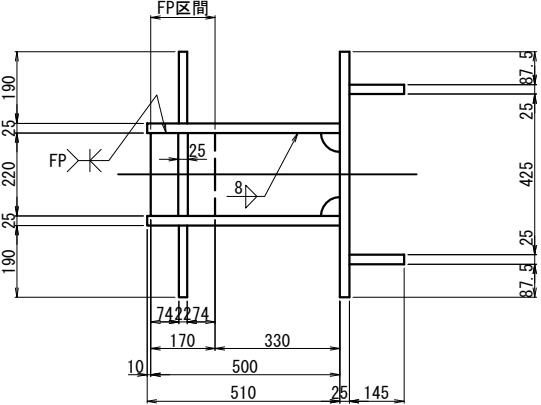
桁補強詳細図



フィラープレート詳細図



3-3



ブラケット1基当り (製作数: 2基)

- 2-PL 145x25x521
- 2-PL 510x25x602
- 2-PL 190x22x580
- 2-PL 60x25x220
- 1-PL 220x25x500
- 1-PL 170x25x220
- 1-PL 535x25x650
- 1-PL 720x28x680 (SM570)
- 12-TCB M22x110 (S10T) [+1W]
- 12-TCB M22x105 (S10T)

ブラケット1基当り (製作数: 2基)

- 2-PL 300x22x720 (SM400A)
- 4-PL 300x22x415 (SM400A)
- 4-PL 190x22x380 (SM400A)
- 20-TCB M22x90 (S10T)
- 2-Fill PL 145x19x720 (SS400)

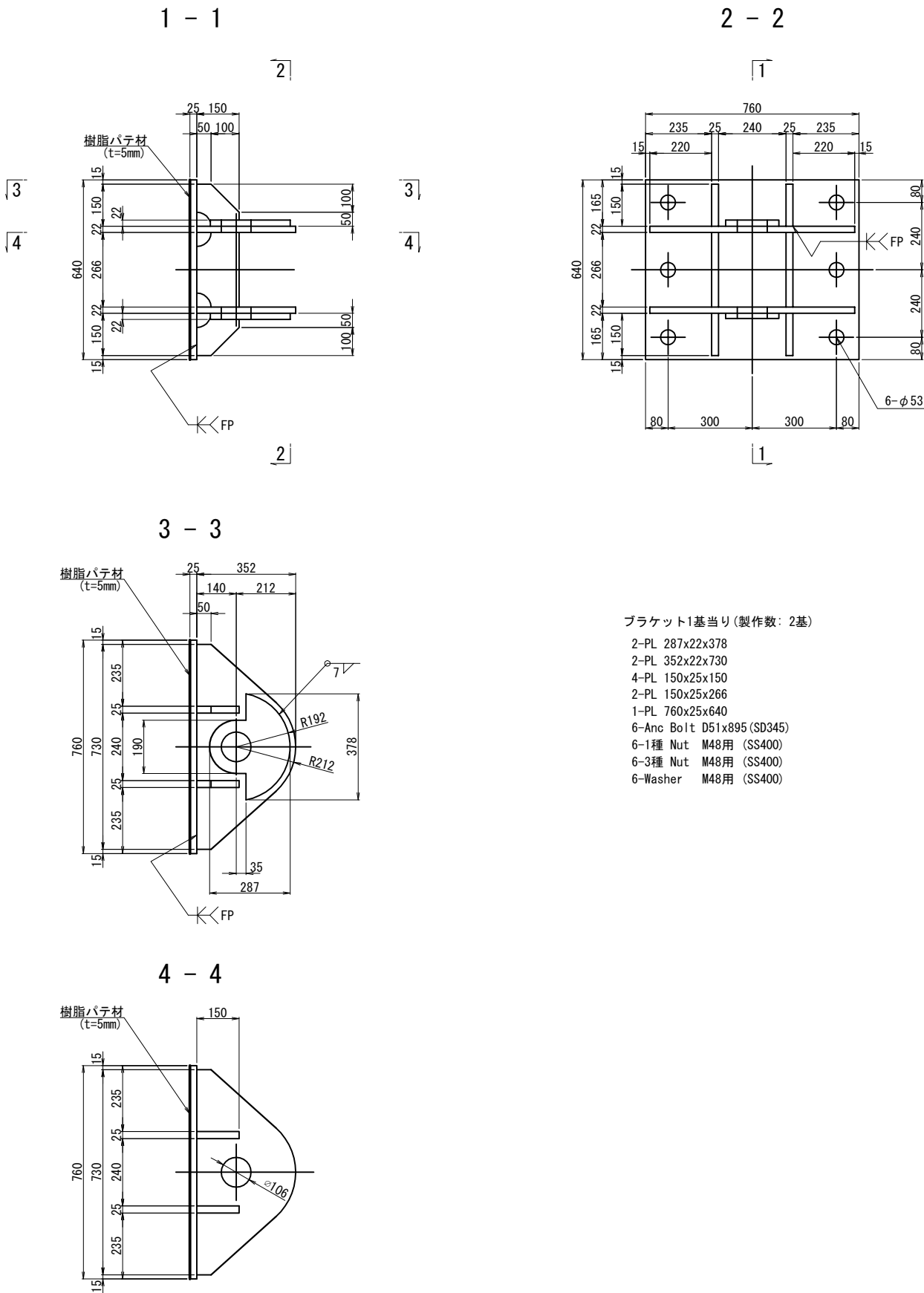
- 注記)
- 1. 特記なき材質は全てSM490YBとする。
 - 2. 特記なきスカーラップは全て50Rとする。
 - 3. 工場製作は現場実測確認のうえ行うものとする。
 - 4. 上部エブラケット及び、桁補強は主桁と同等以上の防錆塗装を施すものとする。
 - 5. ★の高力ボルトは頭部側にも座金を用いるものとする。
 - 6. 「FP」の表記がある箇所は完全溶け込み溶接を用いること。

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
丹尾高架橋 A1橋台			
落橋防止構造P3構造図（その2）			
図面の種類			
縮 尺	図面番号	／	
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

丹尾高架橋 A1橋台 落橋防止構造P3構造図（その3） S=1:20
P3-1591 (300)
下部エブラケット詳細図
A1橋台P1側

下部エブラケット詳細図

アンカーボルト詳細図 S=1:10



- 注記)
- 特記なき材質は全てSM490YBとする。
 - 特記なきスカーラップは全て50Rとする。
 - 部材は、全て溶融亜鉛めっき仕上げとする。
付着量は、JIS H 8641 HDZT77とする。
但し、ボルト・ナット類はHDZT49とする。
 - ブラケットは、現場実測確認のうえ、製作をおこなうこと。
 - 「FP」の表記がある箇所は
完全溶け込み溶接を用いること。
 - 鋼製部材とコンクリートの接触面は、
チッピングによる表面処理を行うこと。

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	丹尾高架橋 A1橋台		
	落橋防止構造P3構造図（その3）		
縮 尺		図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

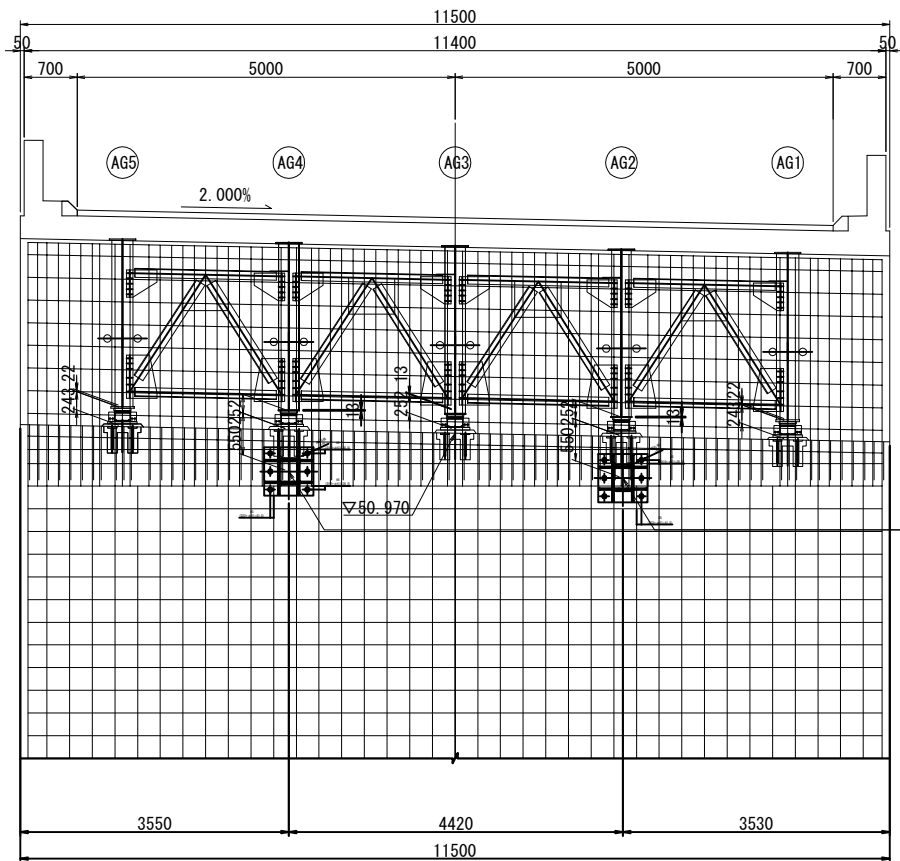
丹尾高架橋 A2橋台 落橋防止構造P3配置図
P3-1600 (300)

S=1:100

設計条件

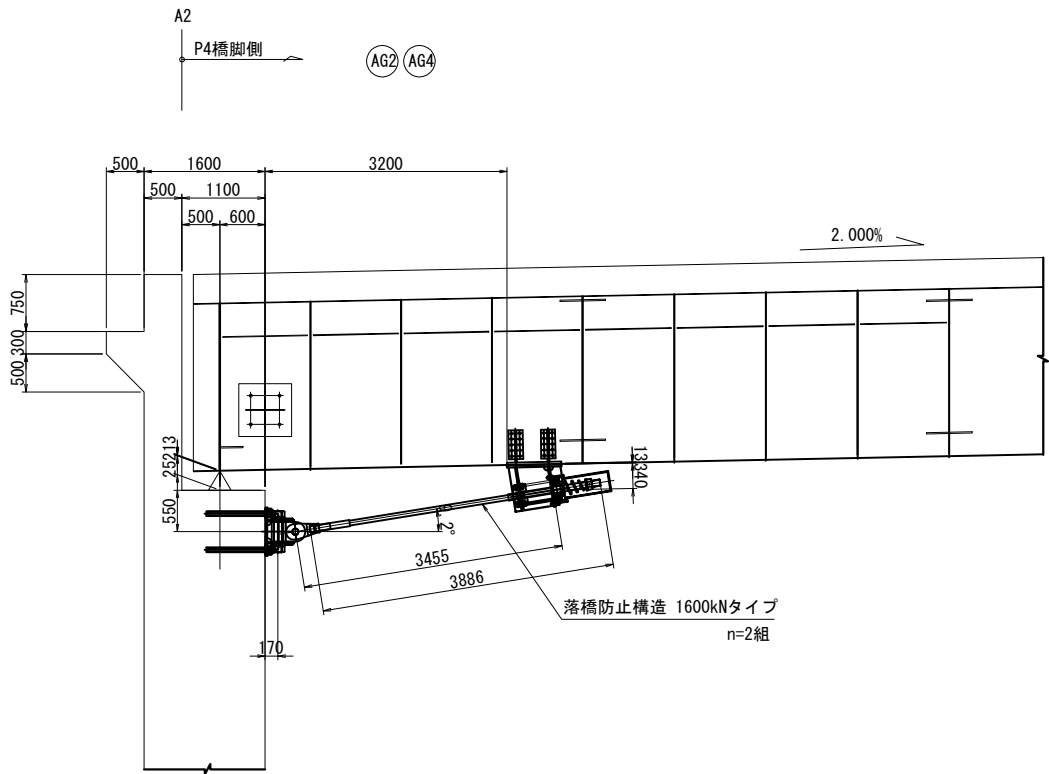
死荷重反力 (R _d)	2100kN
設計反力 (H _f)	3150kN
1本あたりの設計反力 (P)	1600kN
設計移動量	300mm

正面図



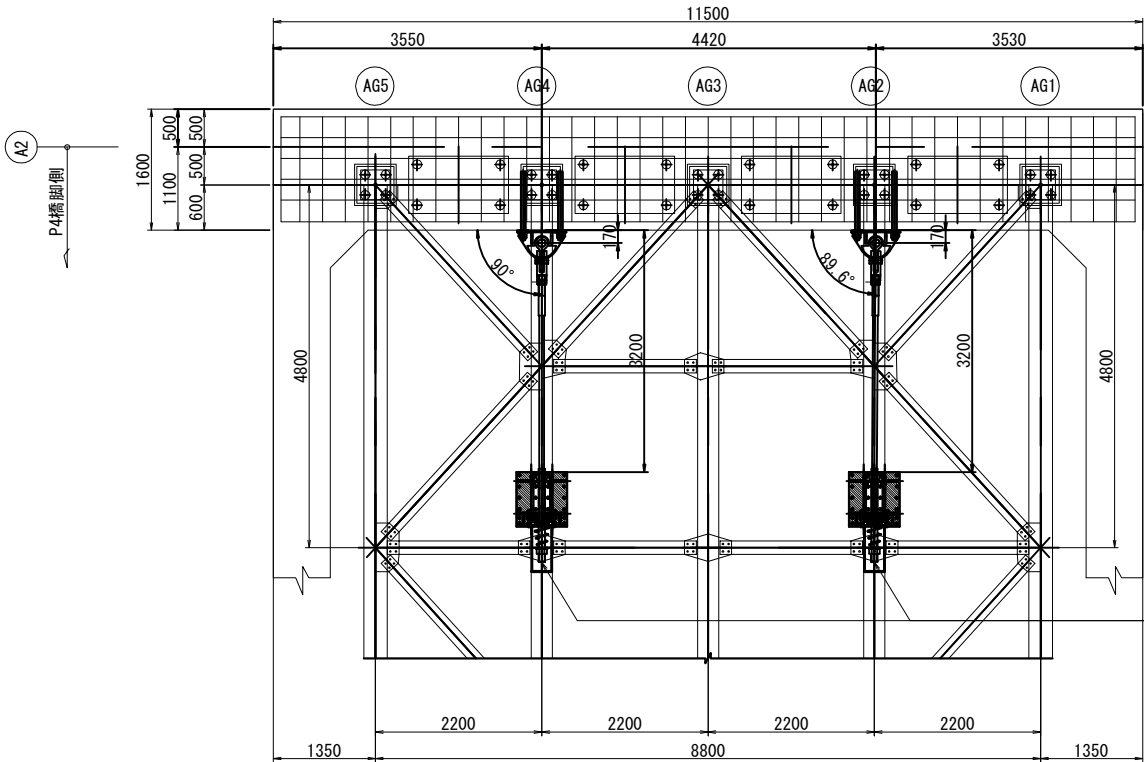
落橋防止構造 1600kNタイプ
n=2組 (下部エブラケット)

側面図



落橋防止構造 1600kNタイプ
n=2組

平面図

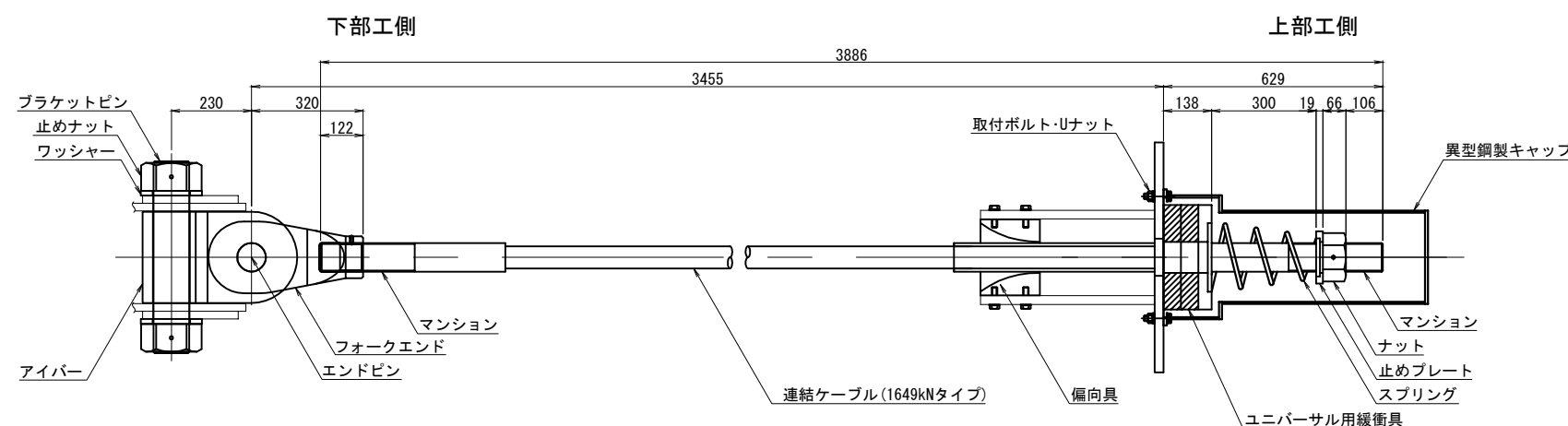


落橋防止構造 1600kNタイプ
n=2組

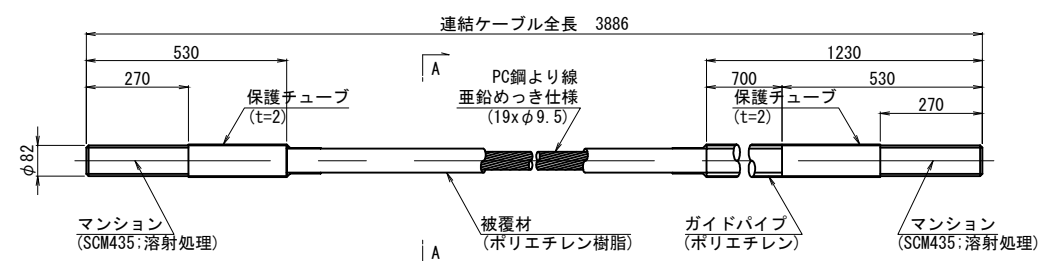
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	丹尾高架橋 A2橋台 落橋防止構造P3配置図		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

取付詳細図及び部品図

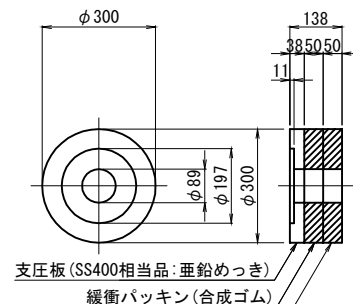
取付詳細図



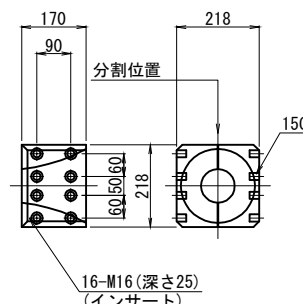
連結ケーブル



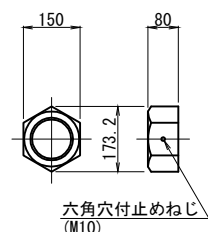
ユニバーサル用緩衝具
(支圧板+緩衝パッキン)



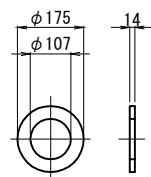
偏 向 具
(ポリエチレン)



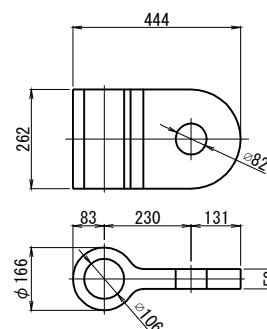
止めナット
(S45C:亜鉛めっき)



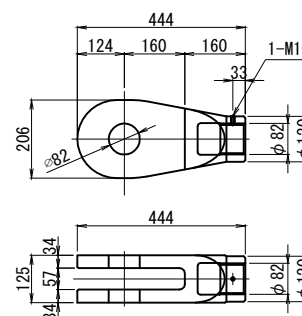
ワッシャー
(SS400相当品:亜鉛めっき)



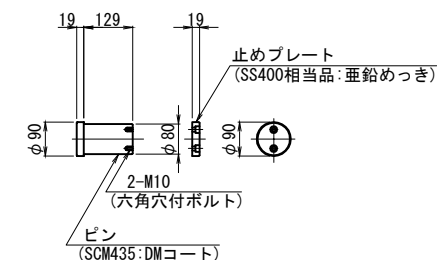
アイバー
(S45C:亜鉛めっき)



フォークエンド
(S45C:亜鉛めっき)



エンドピン
(ピン+止めプレート)



設計条件

1本あたりの設計反力(P)	1600kN
設計移動量	300mm

注記)

1. 連結ケーブルの製作は、現場にて取付間距離を確認のうえ、おこなうこと。

	首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事		
図面の種類	丹尾高架橋 A2橋台		
	落橋防止構造P3構造図 (その1) (参考)		
縮 尺		図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

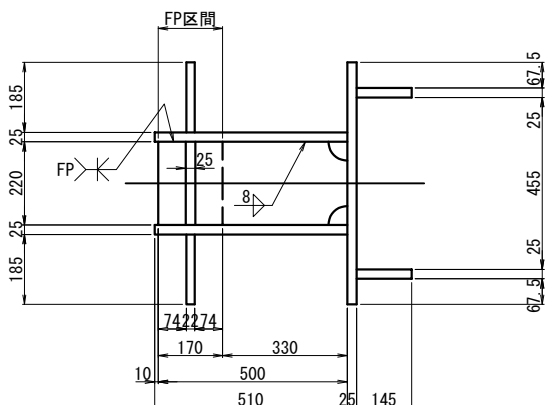
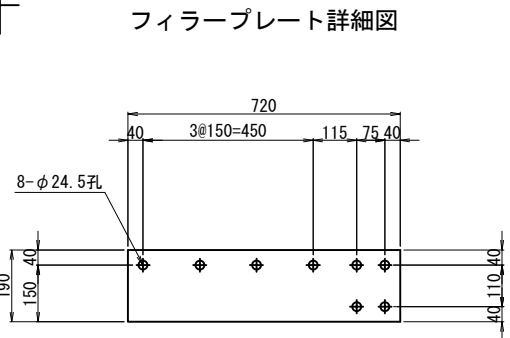
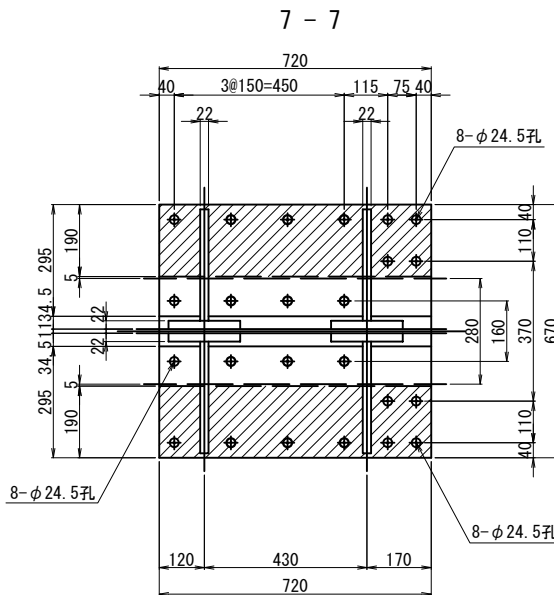
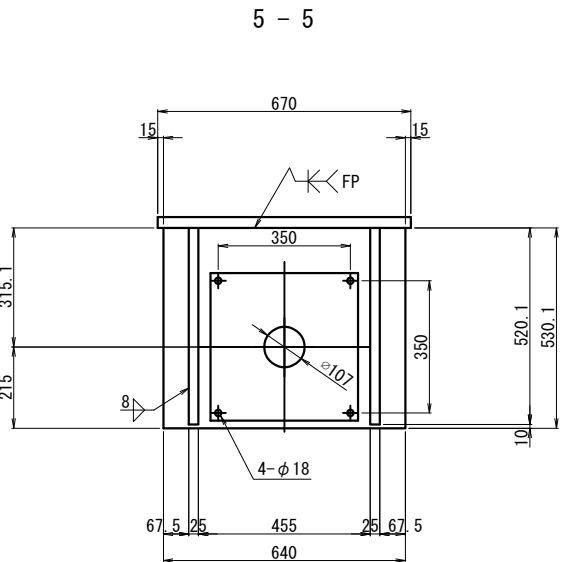
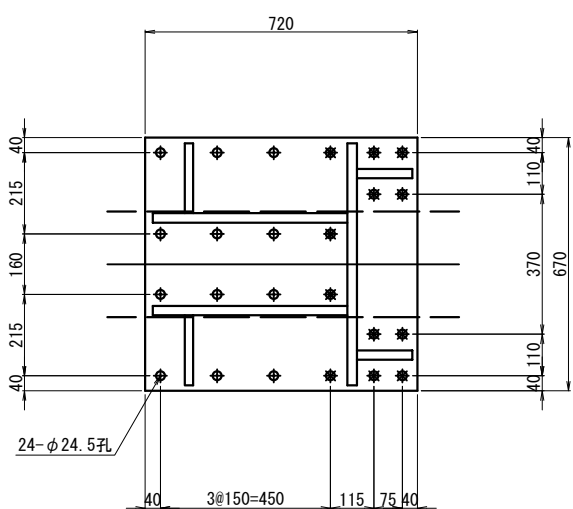
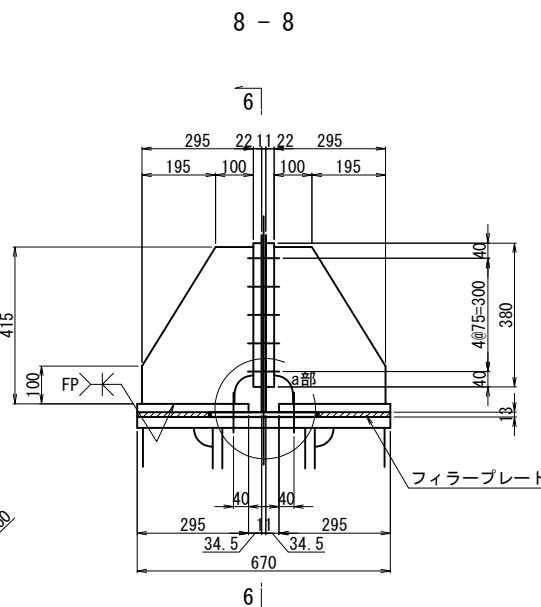
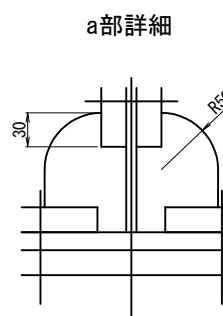
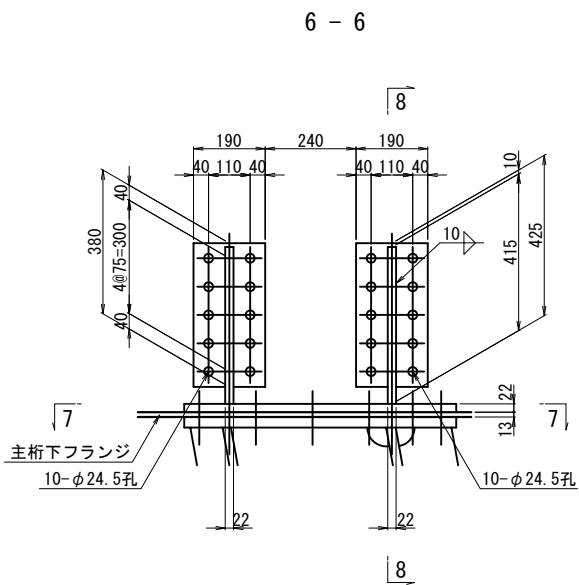
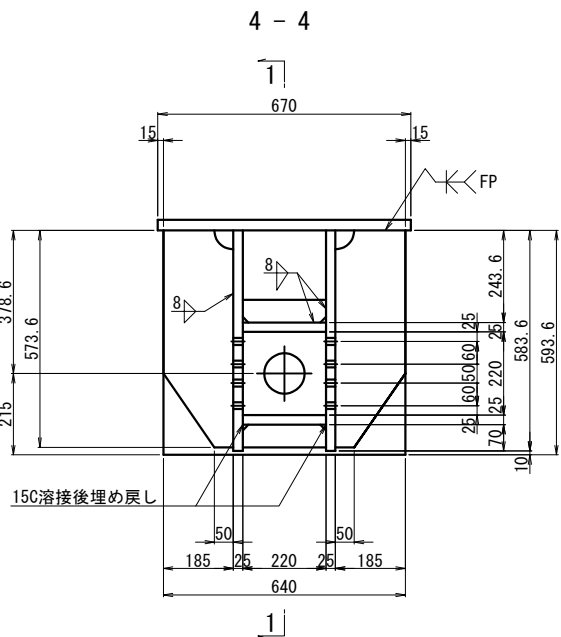
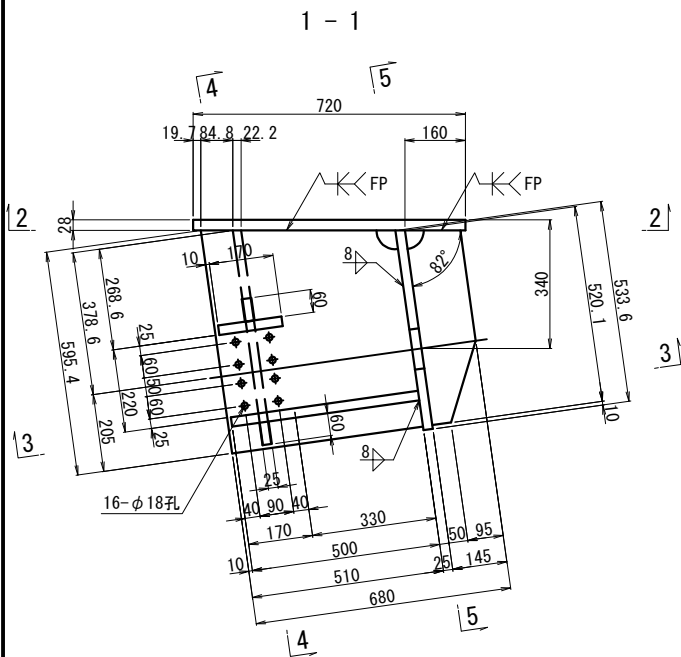
丹尾高架橋 A2橋台 落橋防止構造P3構造図（その2）

S=1:20

ブラケット詳細図

P3-1600 (300)
上部エブラケット詳細図
A2橋台P4側

桁補強詳細図



ブラケット1基当り (製作数: 2基)

- 2-PL 145x25x521
- 2-PL 510x25x596
- 2-PL 185x22x574
- 2-PL 60x25x220
- 1-PL 220x25x500
- 1-PL 170x25x220
- 1-PL 534x25x640
- 1-PL 720x28x670
- 12-TCB M22x105 (S10T) [+1W]
- 12-TCB M22x100 (S10T)

ブラケット1基当り (製作数: 2基)

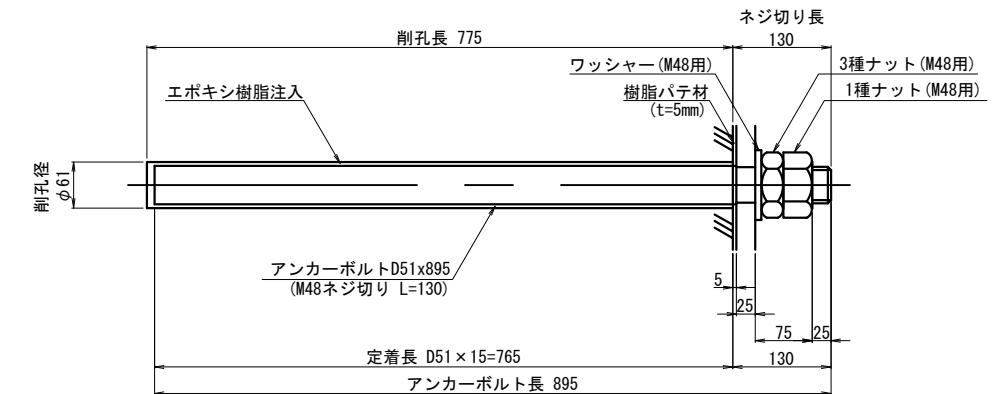
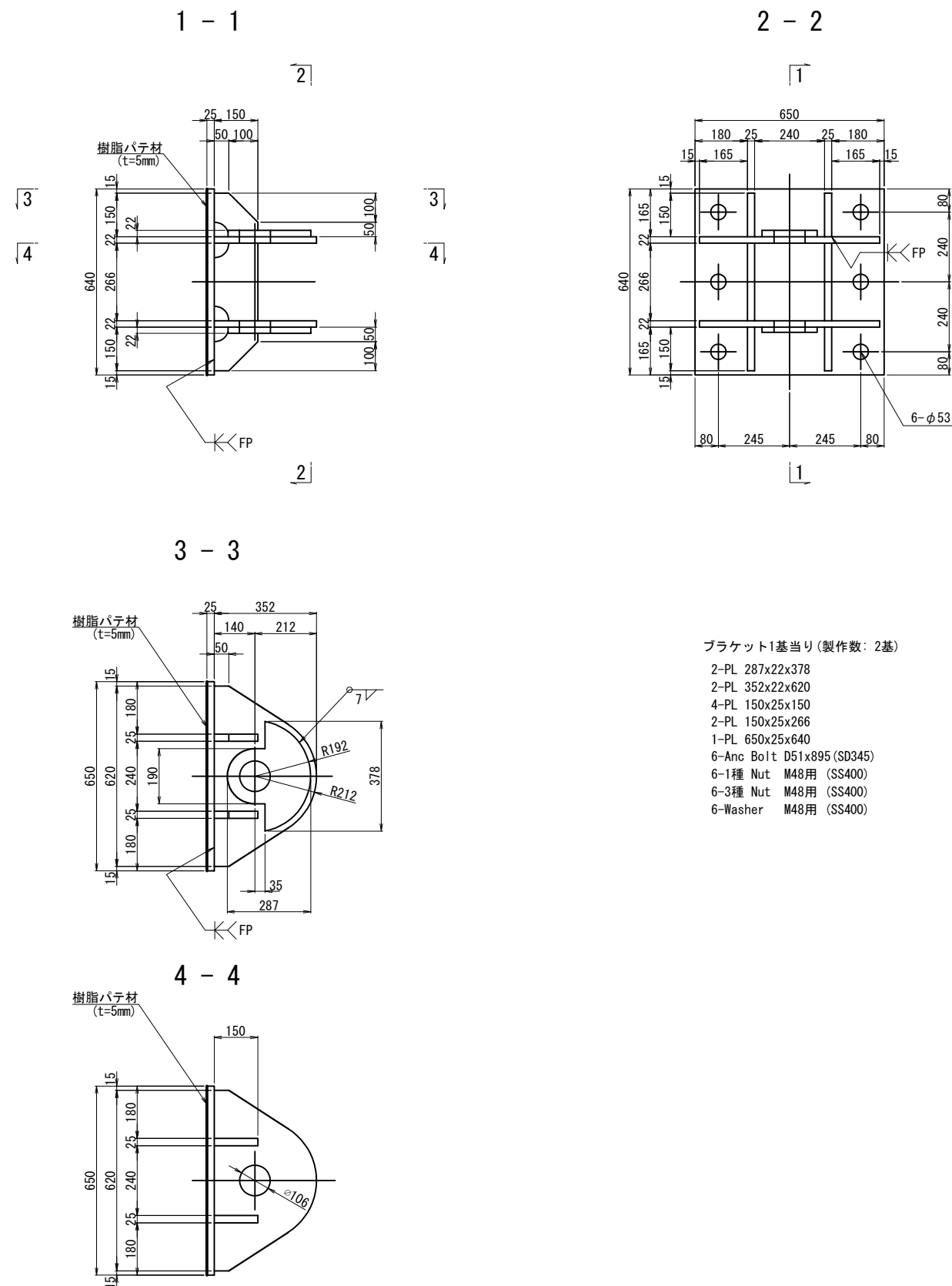
- 2-PL 295x22x720 (SM400A)
- 4-PL 295x22x415 (SM400A)
- 4-PL 190x22x380 (SM400A)
- 20-TCB M22x90 (S10T)
- 2-Fill PL 190x13x720 (SS400)

注記)

- 1. 特記なき材質は全てSM490YBとする。
- 2. 特記なきスカーラップは全て50Rとする。
- 3. 工場製作は現場実測確認のうえ行うものとする。
- 4. 上部エブラケット及び、桁補強は主桁と同等以上の防錆塗装を施すものとする。
- 5. ★の高力ボルトは頭部側にも座金を用いるものとする。
- 6. 「FP」の表記がある箇所は完全溶け込み溶接を用いること。

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類		丹尾高架橋 A2橋台 落橋防止構造P3構造図（その2）	
縮 尺		図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

アンカーボルト詳細図 S=1:10



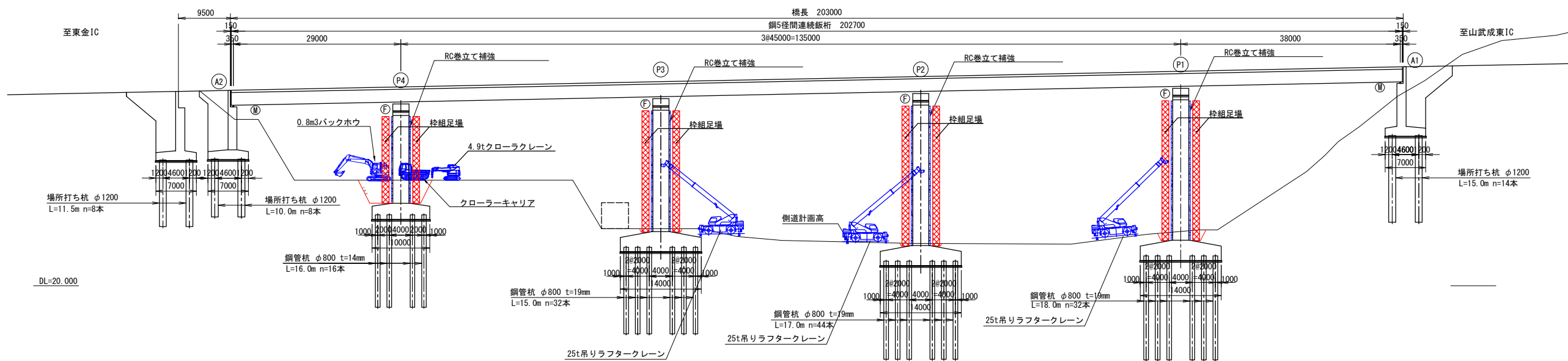
※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融亜鉛めっきを施すものとする。

- 注記)
1. 特記なき材質は全てSM490YBとする。
 2. 特記なきスカーラップは全て50Rとする。
 3. 部材は、全て溶融亜鉛めっき仕上げとする。
付着量は、JIS H 8641 HDZT77とする。
但し、ボルト・ナット類はHDZT49とする。
 4. ブラケットは、現場実測確認のうえ、製作をおこなうこと。
 5. 「FP」の表記がある箇所は
完全溶け込み溶接を用いること。
 6. 鋼製部材とコンクリートの接触面は、
チッピングによる表面処理を行うこと。

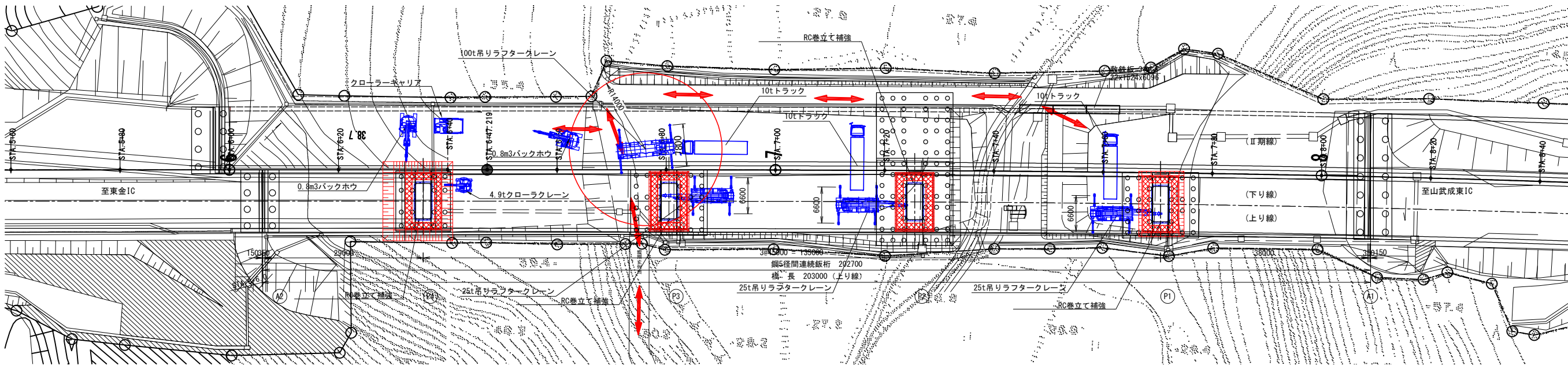
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類		丹尾高架橋 A2橋台 落橋防止構造P3構造図 (その3)	
縮	尺	図面番号	／
設計会社名		日本工営株式会社	
施工会社名			
事務所名		東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所	

丹尾高架橋 下部工施工要領図(参考図)

側面図 S=1:800



平面図 S=1:800



P4橋脚

- ①下部補強施工 :RC巻立て
- ②補強材設置方法:下から施工(枠組足場設置)、オープン掘削
- ③搬入方法 :100tラフタークレーンにてバックホウを搬入し掘削を行い、枠組足場を設置し、ミニクレーンにて補強材を搬入する。
- ④搬入～設置まで:補強材を設置位置まで搬入し、設置する。

P1～P3橋脚

- ①下部補強施工 :RC巻立て
- ②補強材設置方法:下から施工(枠組足場設置)、オープン掘削
- ③搬入方法 :バックホウにて掘削を行い、枠組足場を設置し、クレーンにて補強材を搬入する。
- ④搬入～設置まで:補強材を設置位置まで搬入し、設置する。

■進入路
拡幅した法定外道路から下り線地内へ進入する。

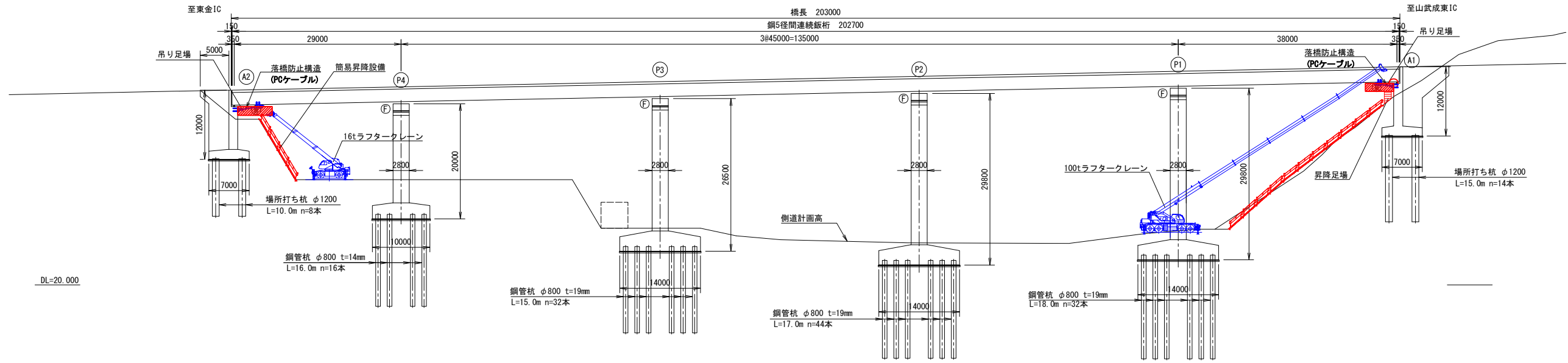
注記
1) 施工時に必要に応じ現地盤を確認し、地盤の状況、支障物等がある場合は適宜修正を行うこと

凡例			
—	施工中		
—	重機、補強		
■	足場工		

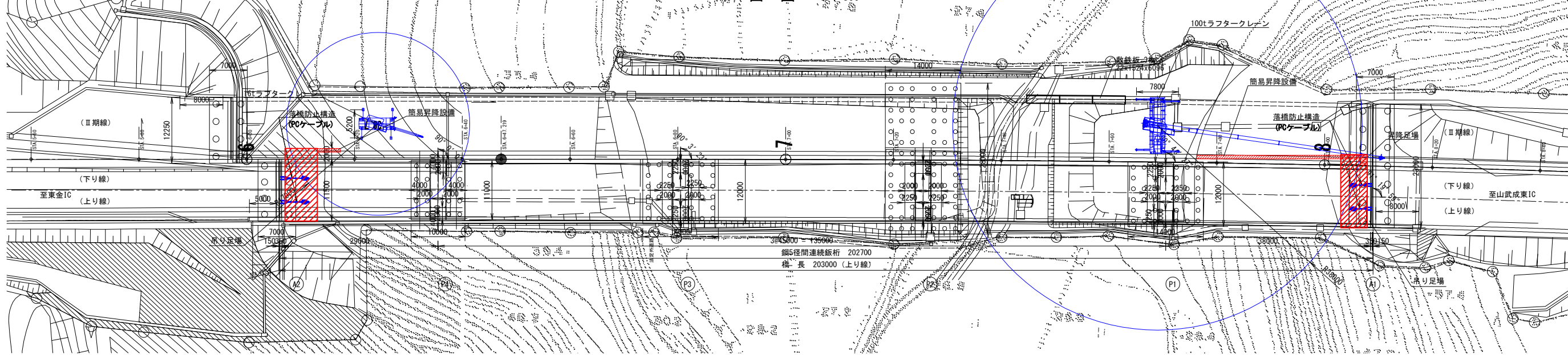
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	丹尾高架橋 下部工施工要領図(参考図)		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

丹尾高架橋 上部工施工要領図（参考図）

側面図 S=1:800



平面図 S=1:800



【定格総荷重量表: 16tラフタークレーン】
●主ブーム定格総荷重表(アウトリガー最大張出5.2m)
単位 (t)

ブーム長さ (m)	23.3	27.5
作業半径		
16.0	1.40	1.50
17.0	1.20	1.30
18.0	1.05	1.15

吊り可能重量: ①吊上げ能力 1.30t
②吊り具・フック(主巻) 0.14t
③補強材 0.599t
①-②
1.30-0.14
 $\Sigma=1.16t \times 0.9=1.044t$
0.599t<1.0t...ok

A2橋台

- ①上部補強施工: 落橋防止構造(PCケーブル)
- ②補強材設置方法: 上から施工(枠組足場設置)
- ③補強材最大重量: 0.599t
- ④吊り上げ重機: 16tラフタークレーン(アウトリガー幅5.2m)(最大張り出し)
- ⑤搬入～設置まで: 現道より進入し吊り足場を設置、その後、重機を配置しクレーンにて桁外の足場上に搬入横移動は軌上設備(レール)+チルホールにて横移動、その後、チェーンブロックにて上に吊り上げ補強材設置を行う

A1橋台

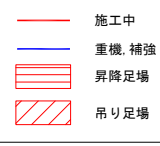
- ①上部補強施工: 落橋防止構造(PCケーブル)
- ②補強材設置方法: 上から施工(枠組足場設置)
- ③補強材最大重量: 0.599t
- ④吊り上げ重機: 100tラフタークレーン(アウトリガー幅7.8m)(最大張り出し)
- ⑤搬入～設置まで: 現道より進入し吊り足場を設置、その後、重機を配置しクレーンにて桁外の足場上に搬入横移動は軌上設備(レール)+チルホールにて横移動、その後、チェーンブロックにて上に吊り上げ補強材設置を行う

【定格総荷重量表: 100tラフタークレーン】
●主ブーム定格総荷重表(アウトリガー最大張出7.8m)
単位 (t)

ブーム長さ (m)	41.7	45.2
作業半径		
36.0	1.85	1.60
38.0	1.60	1.35
40.0		1.10

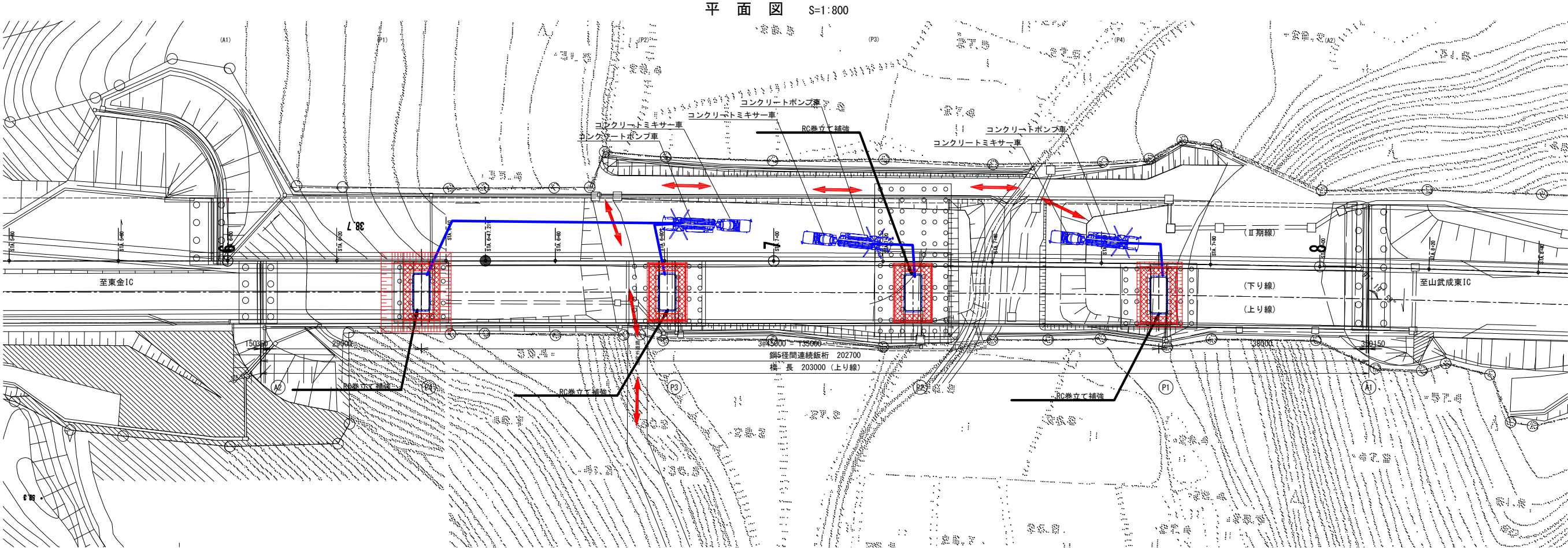
吊り可能重量: ①吊上げ能力 1.60t
②吊り具・フック(主巻) 0.43t
③補強材 0.599t
①-②
1.60-0.43
 $\Sigma=1.17t \times 0.9=1.053t$
0.599t<1.0t...ok

凡例



注記
1) 施工時に必要に応じ現地盤を確認し、地盤の変状、支障物等がある場合は適宜修正を行うこと
2) A1, A2橋台でのクレーンによる施工時は本線と近接するため本線に対する安全管理を徹底すること

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	丹尾高架橋 上部工施工要領図(要領図)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		



注記
1) 施工時に必要に応じ現地盤を確認し、
地盤の変状、支障物等がある場合は適宜修正を行うこと

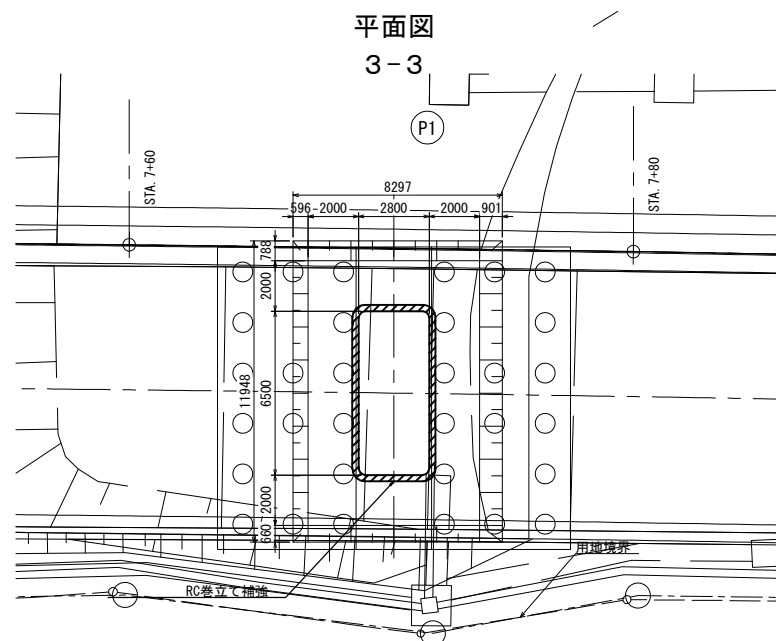
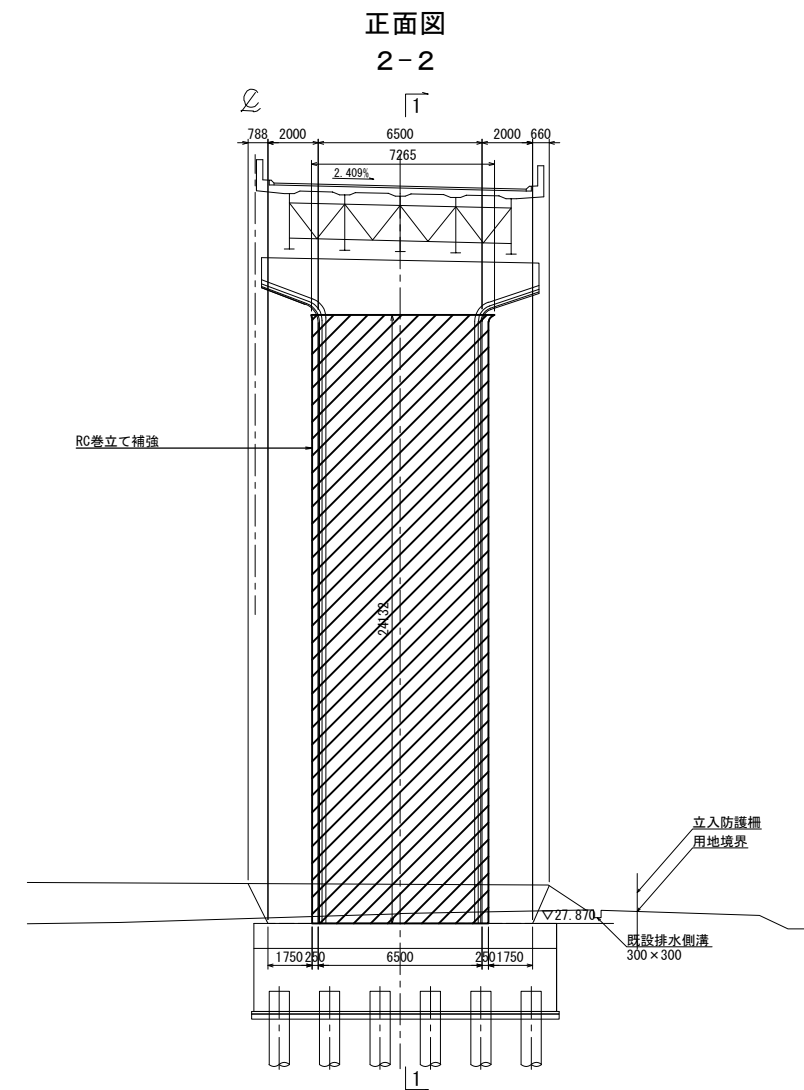
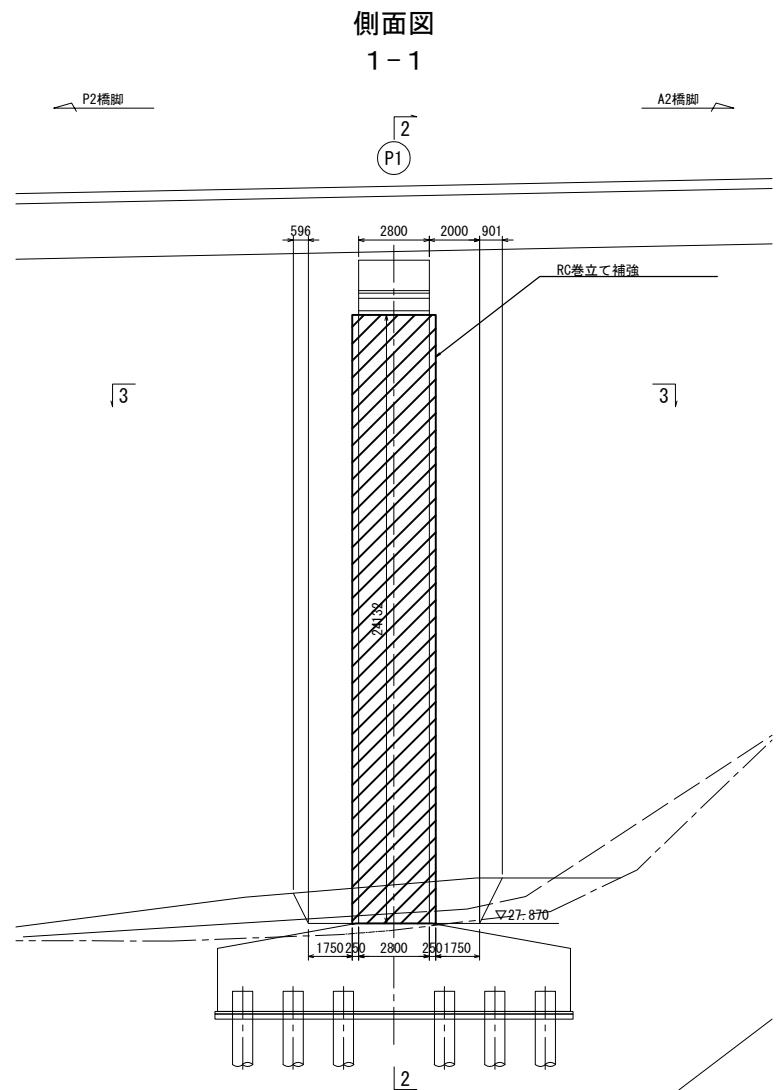
凡例

—	施工中
—	重機、補強
⊗	足場工

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	丹尾高架橋		
	コンクリート打設要領図(参考図)		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

丹尾高架橋 P1橋脚 構造物掘削図

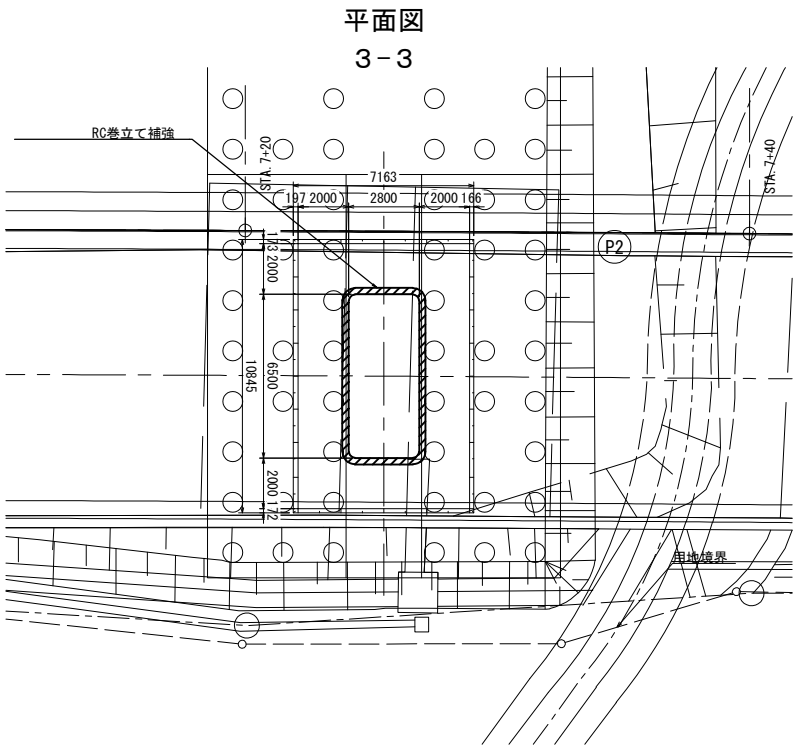
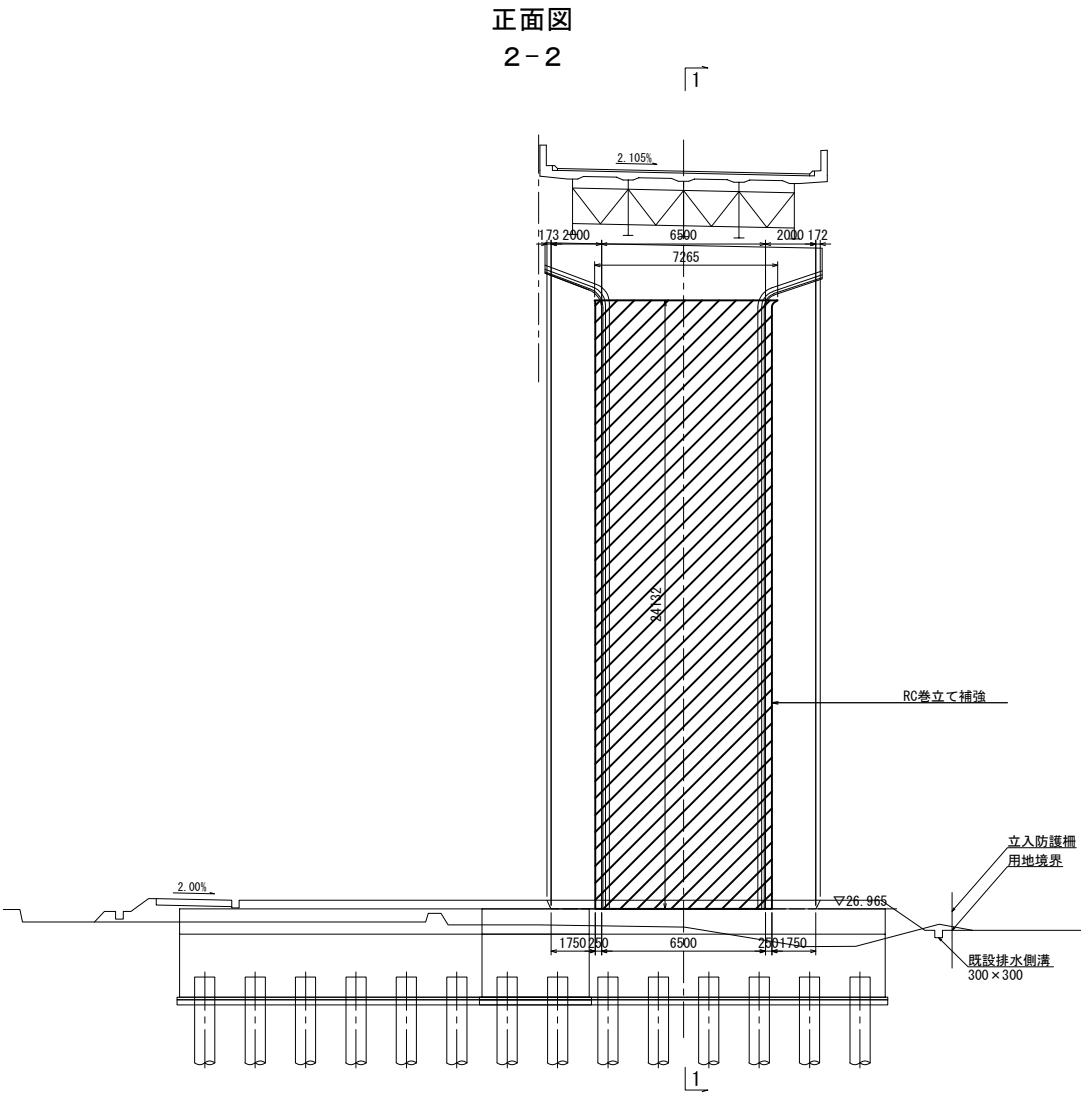
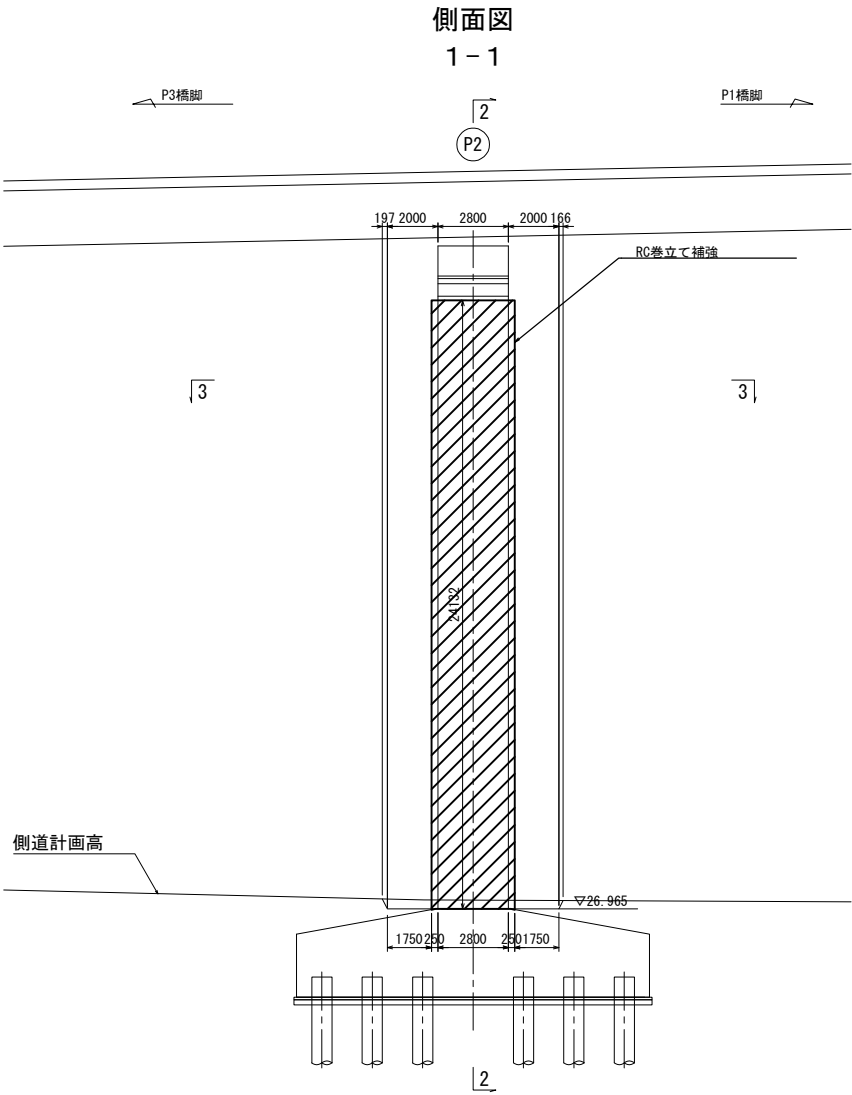
S=1 : 300



首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	丹尾高架橋 P1橋脚 構造物掘削図		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名	東日本高速道路 株式会社		
事務所名	関東支社 市原管理事務所		

丹尾高架橋 P2橋脚 構造物掘削図

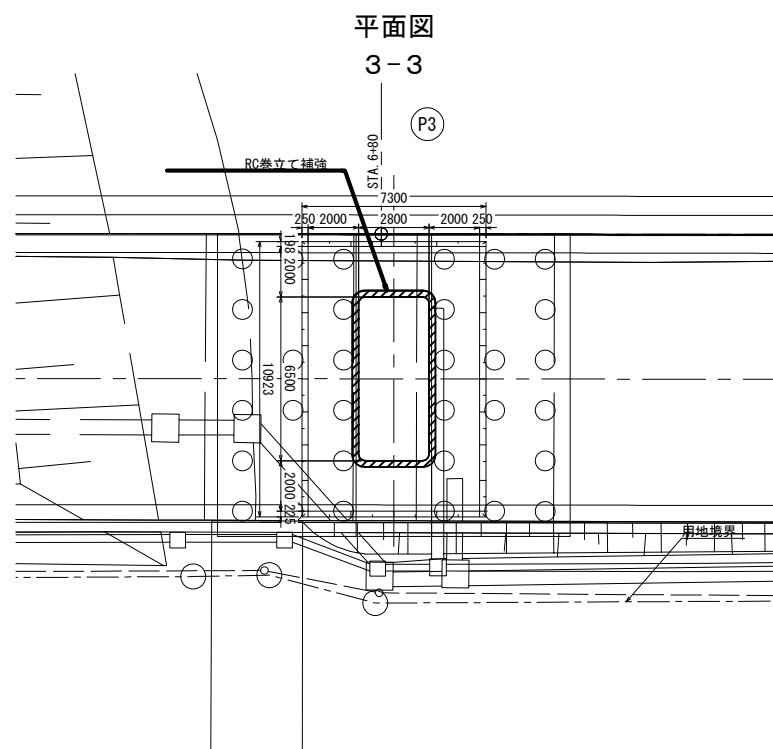
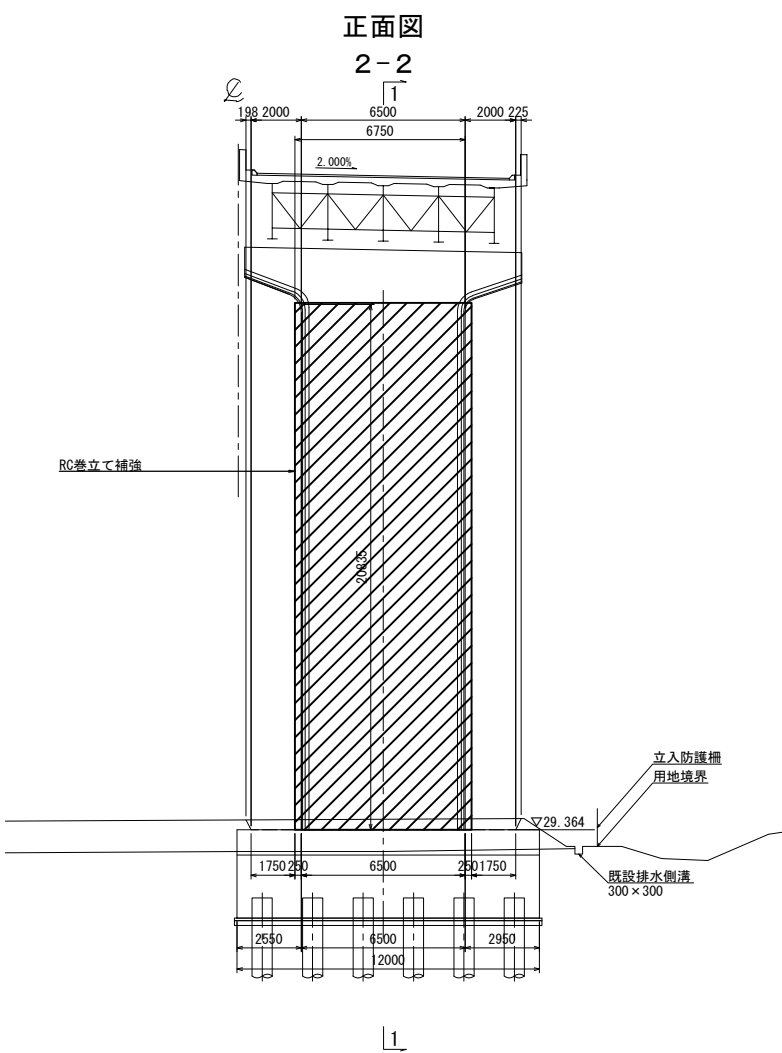
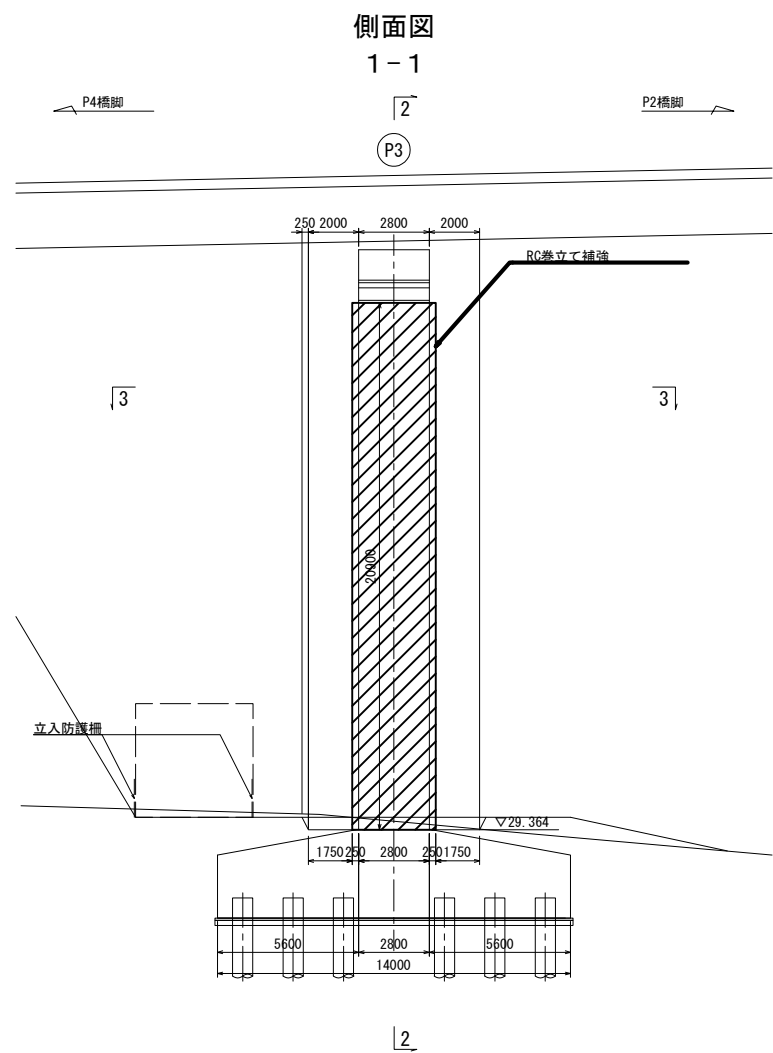
S=1 : 300



首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	丹尾高架橋 P2橋脚 構造物掘削図		
	縮尺	図示	図面番号 /
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名	東日本高速道路 株式会社		
事務所名	関東支社 市原管理事務所		

丹尾高架橋 P3橋脚 構造物掘削図

S=1 : 300

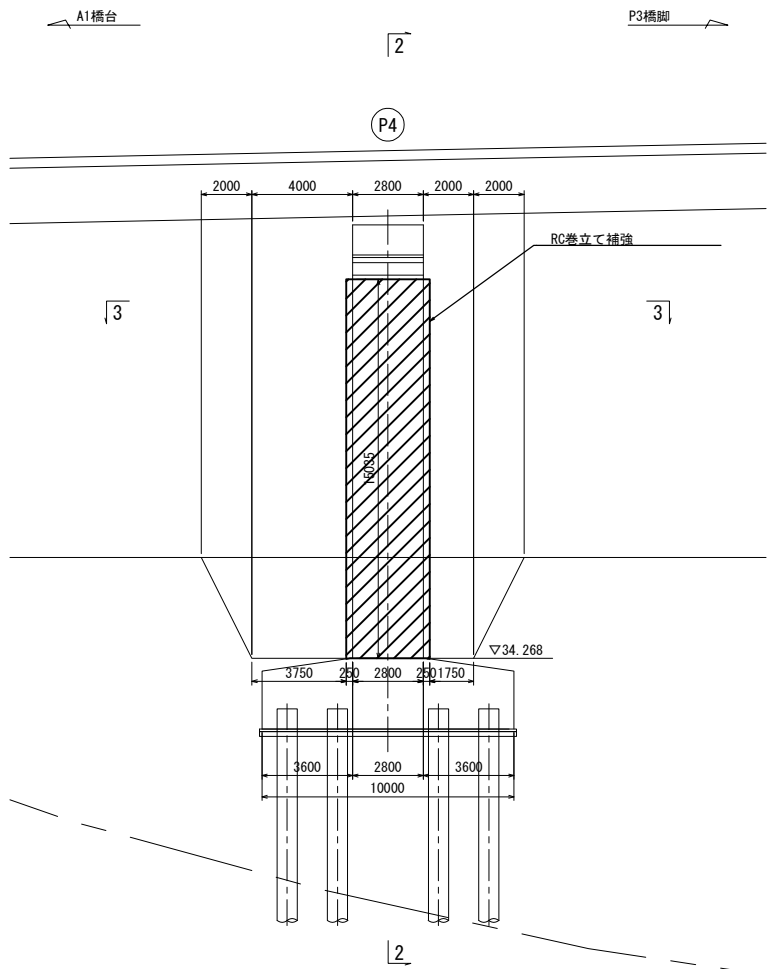


首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	丹尾高架橋 P3橋脚 構造物掘削図		
	縮尺	図示	図面番号 /
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名	東日本高速道路 株式会社		
事務所名	関東支社 市原管理事務所		

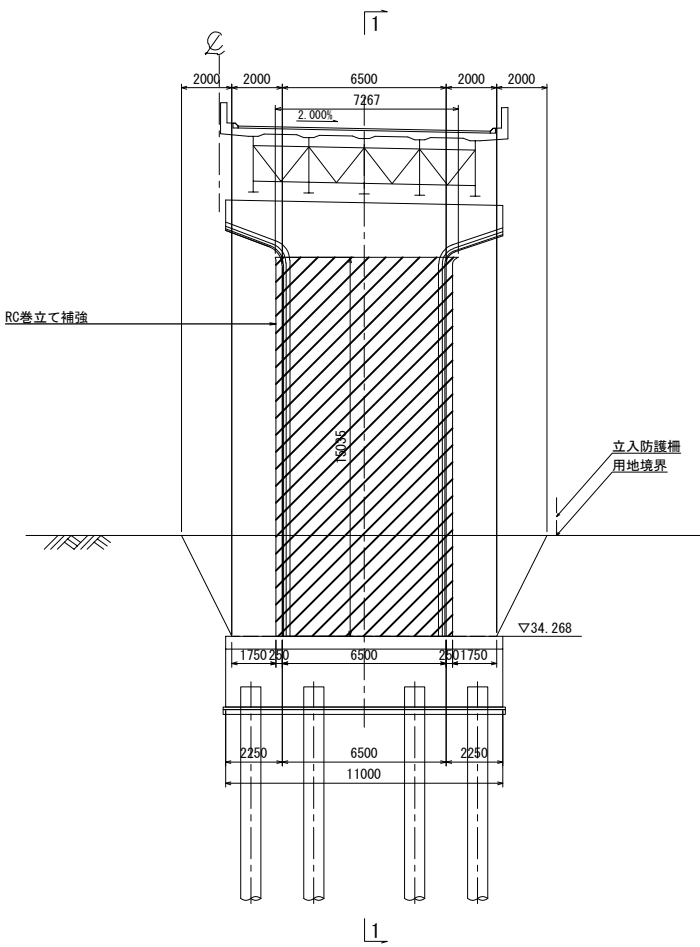
丹尾高架橋 P4橋脚 構造物掘削図

S=1 : 300

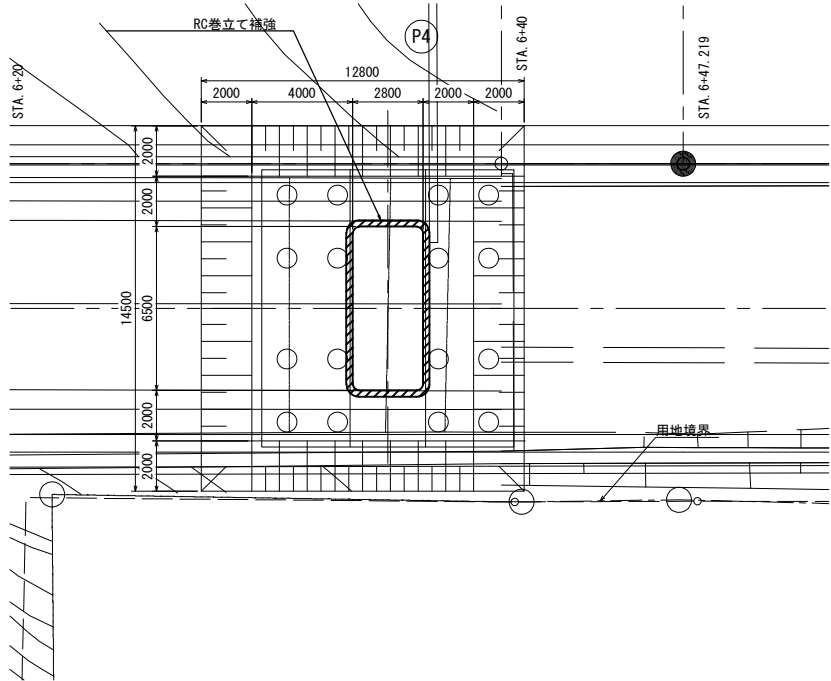
側面図
1-1



正面図
2-2



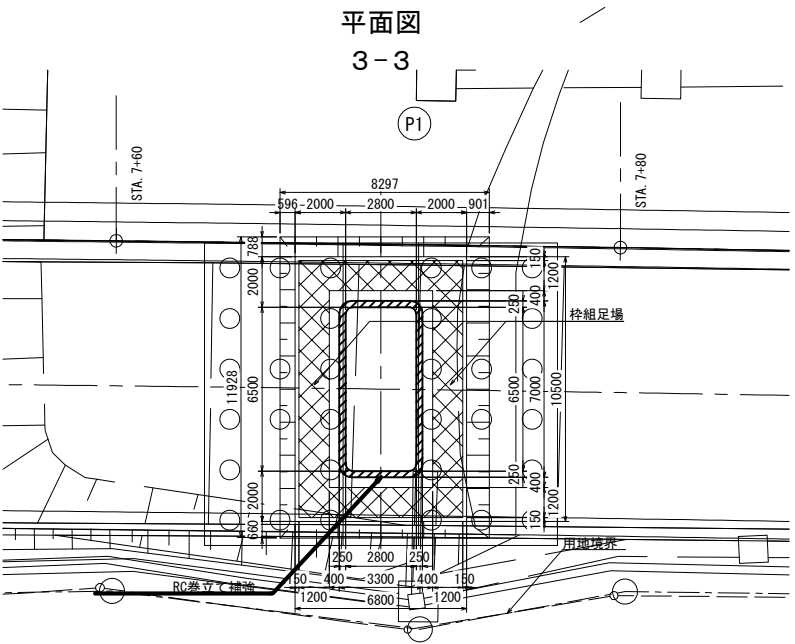
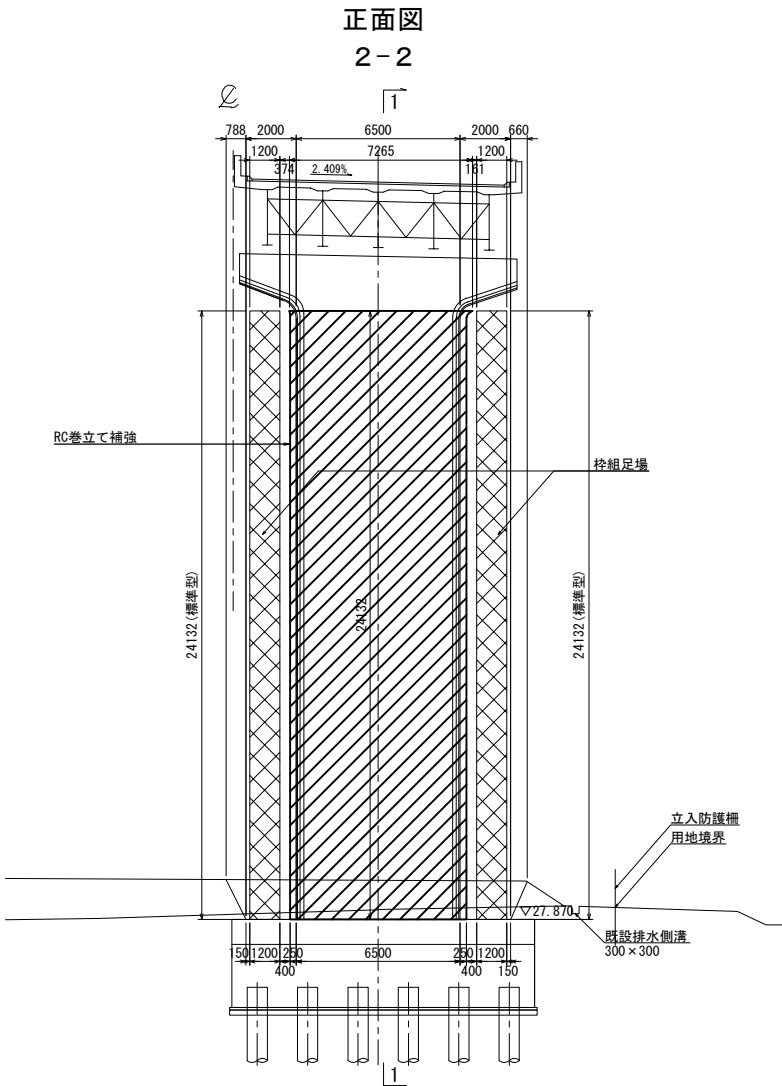
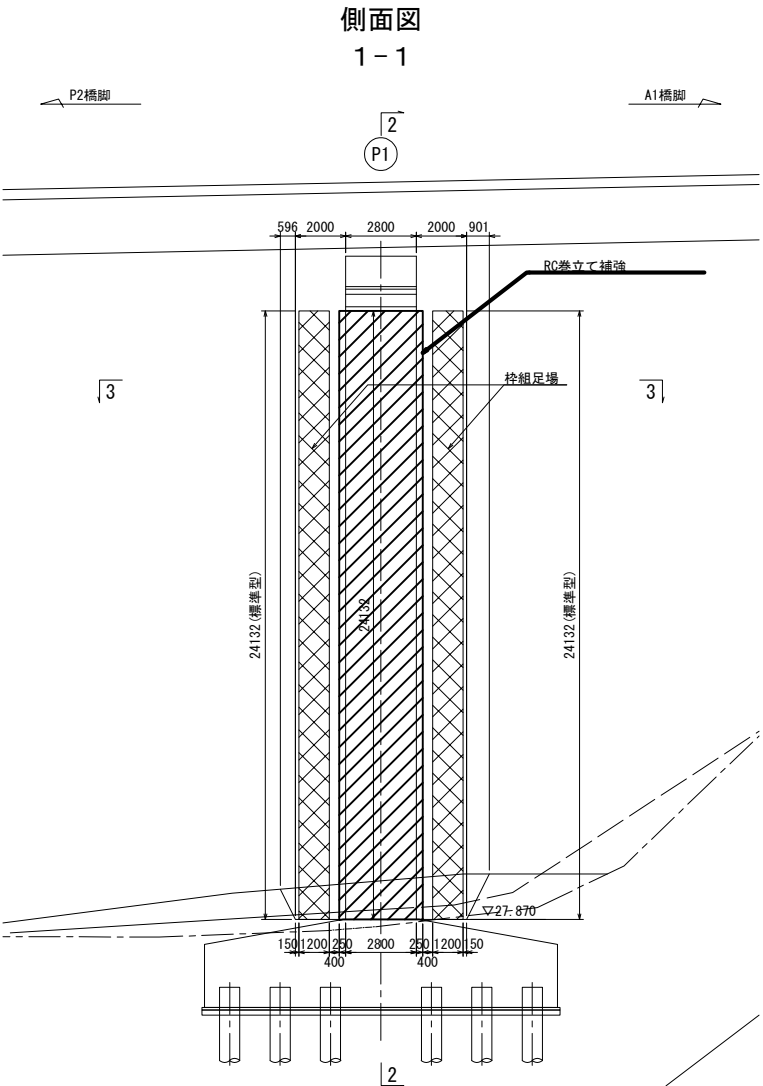
平面図
3-3



首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	丹尾高架橋 P4橋脚 構造物掘削図		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

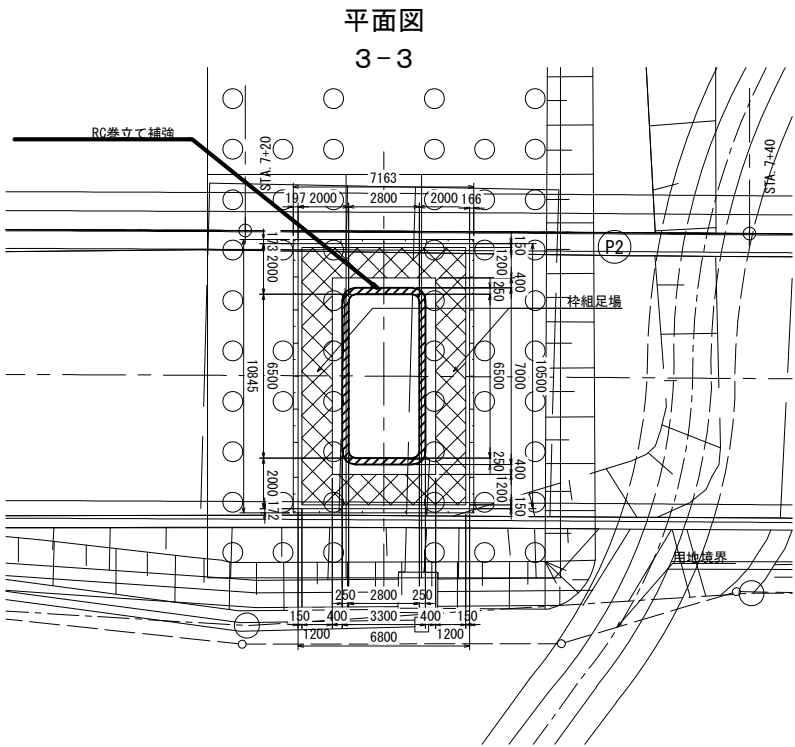
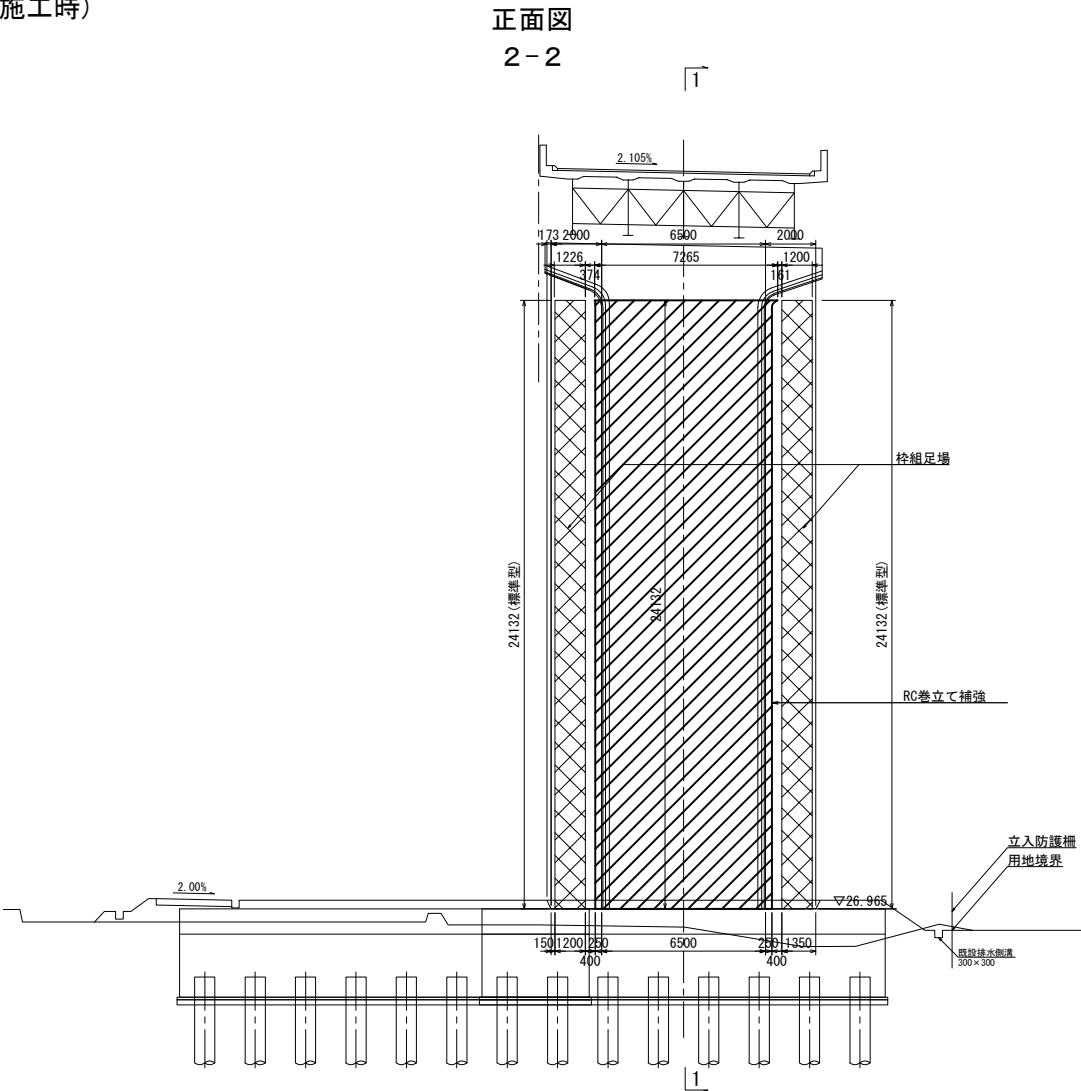
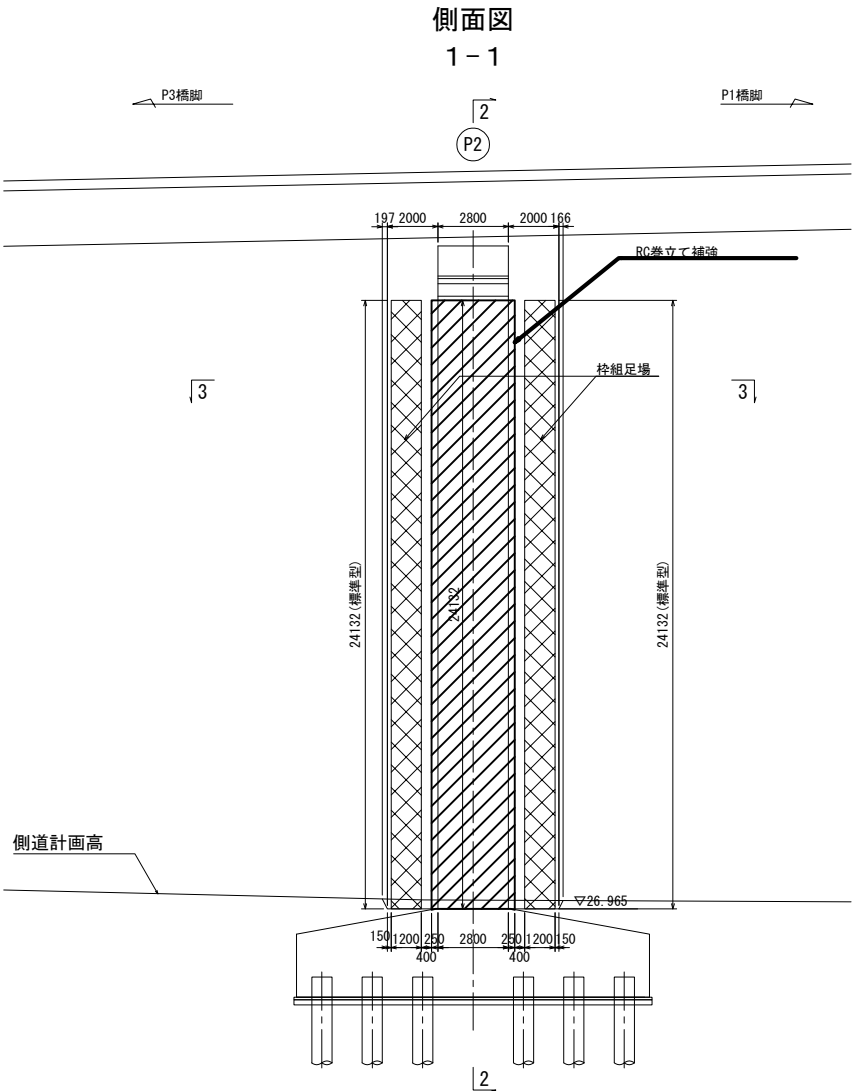
丹尾高架橋 P1橋脚 足場工図（参考図） S=1：300

（下部工耐震施工時）



首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	丹尾高架橋 P1橋脚 足場工図（参考図）		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名	東日本高速道路 株式会社		
事務所名	関東支社 市原管理事務所		

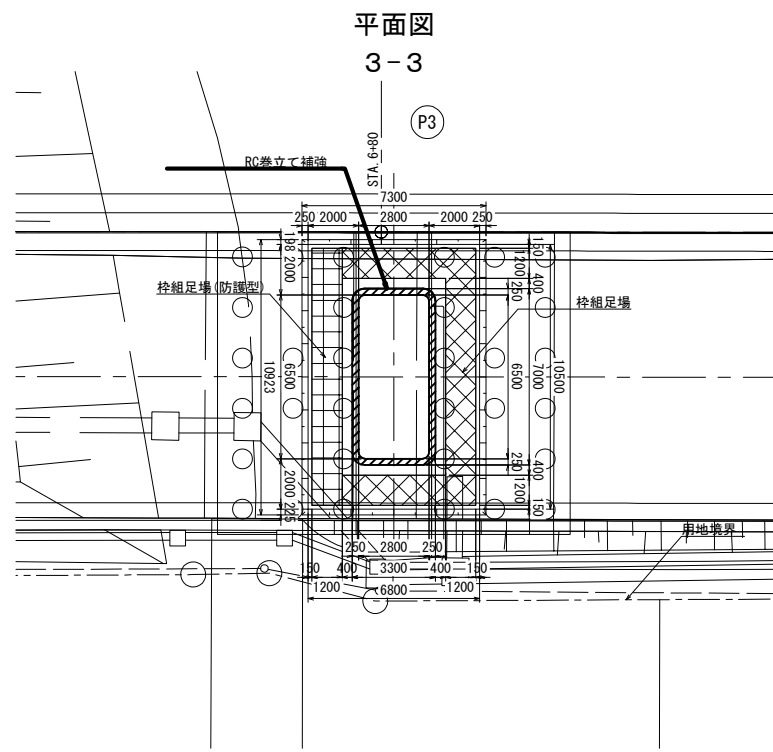
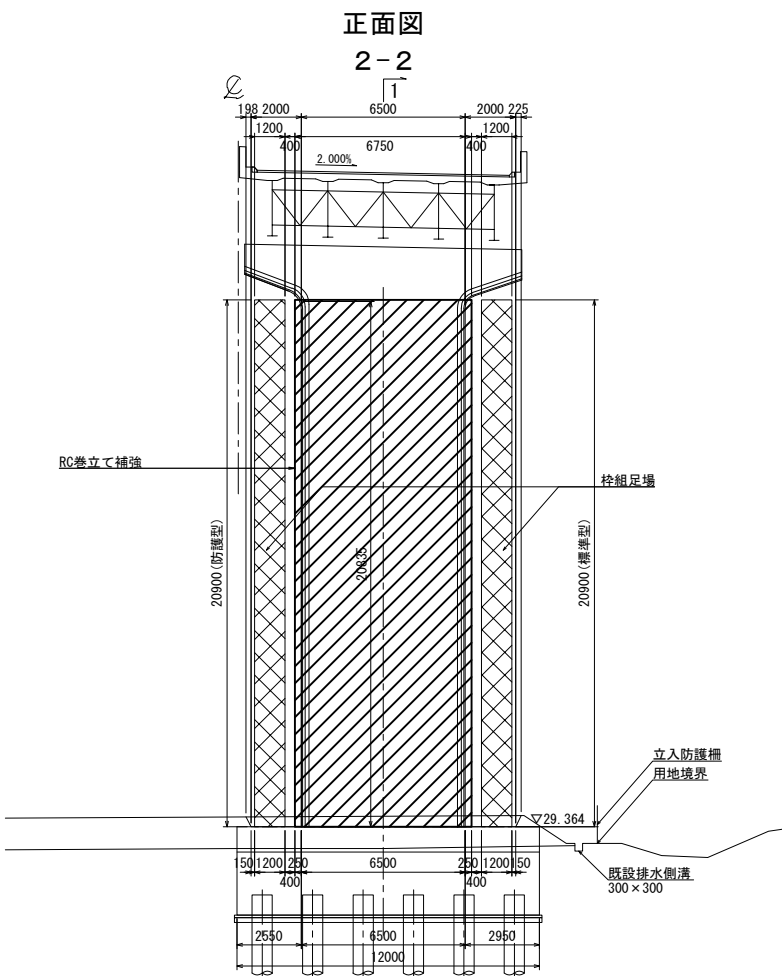
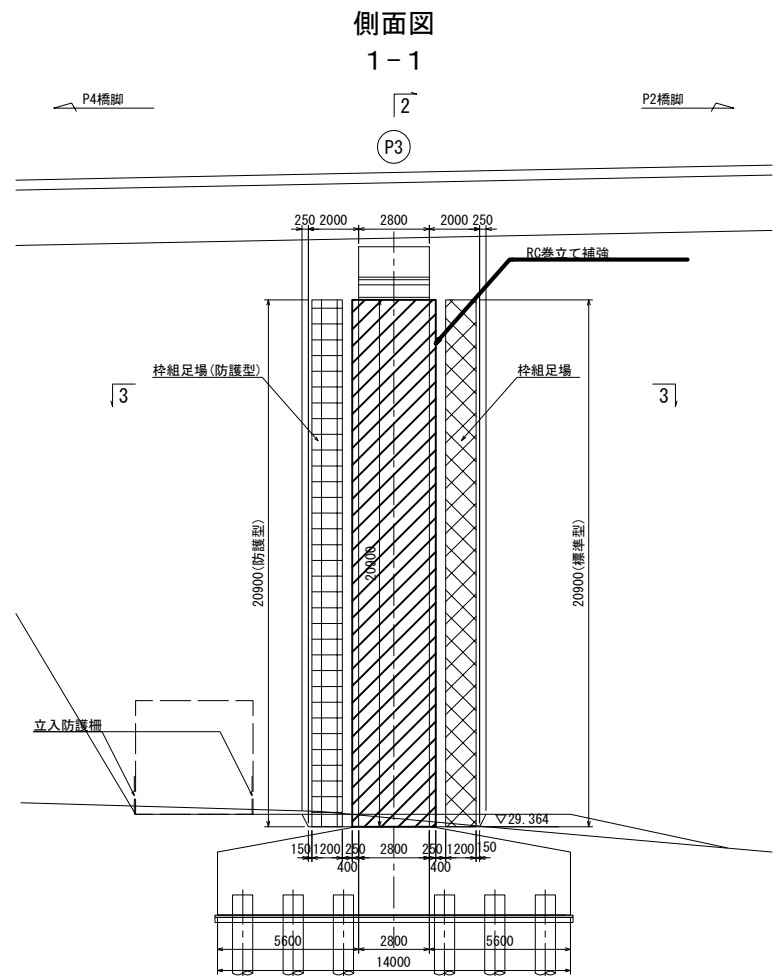
丹尾高架橋 P2橋脚 足場工図（参考図） S=1：300



首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	丹尾高架橋 P2橋脚 足場工図（参考図）		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名	東日本高速道路 株式会社		
事務所名	関東支社 市原管理事務所		

丹尾高架橋 P3橋脚 足場工図（参考図） S=1：300

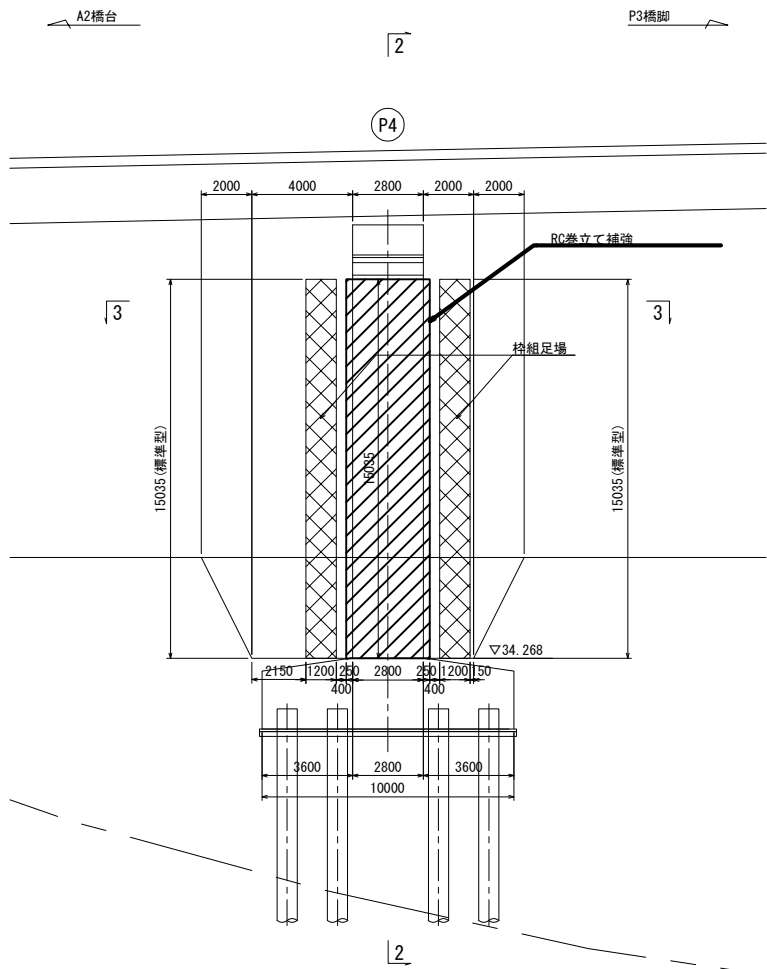
（下部工耐震施工時）



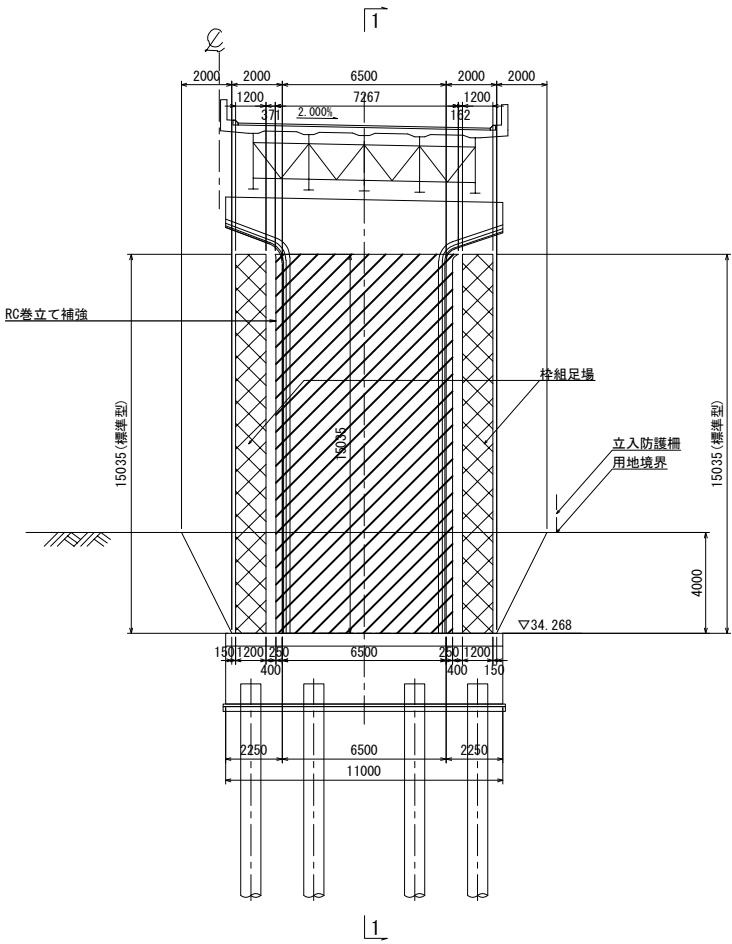
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	丹尾高架橋 P3橋脚 足場工図（参考図）		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

丹尾高架橋 P4橋脚 足場工図（参考図） S=1：300

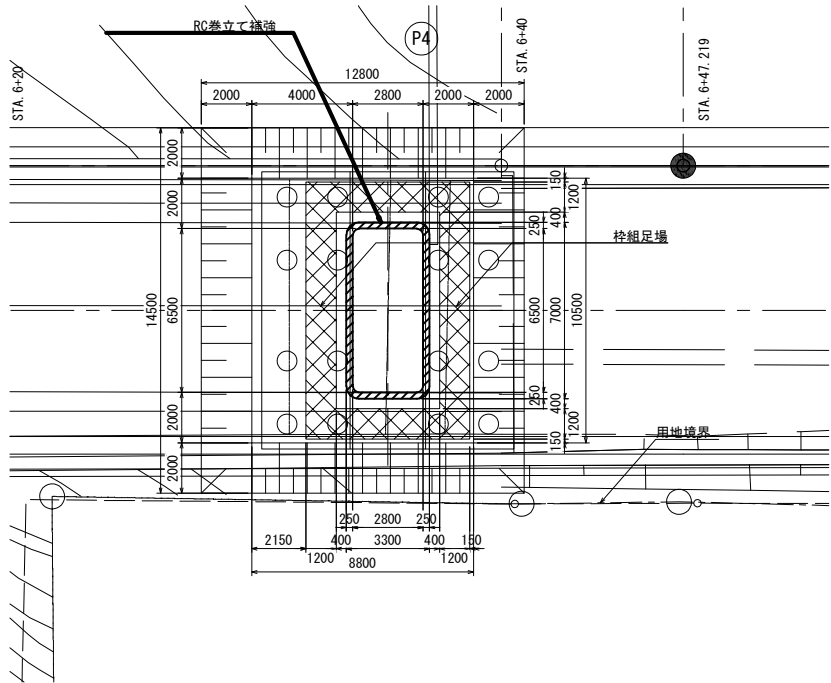
側面図
1-1



正面図
2-2

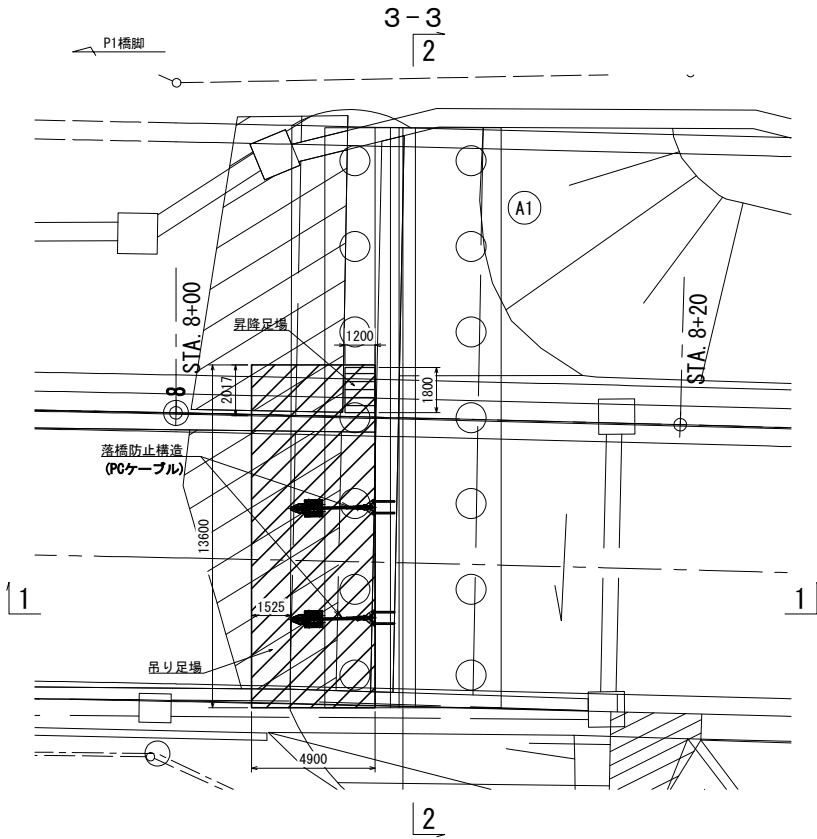
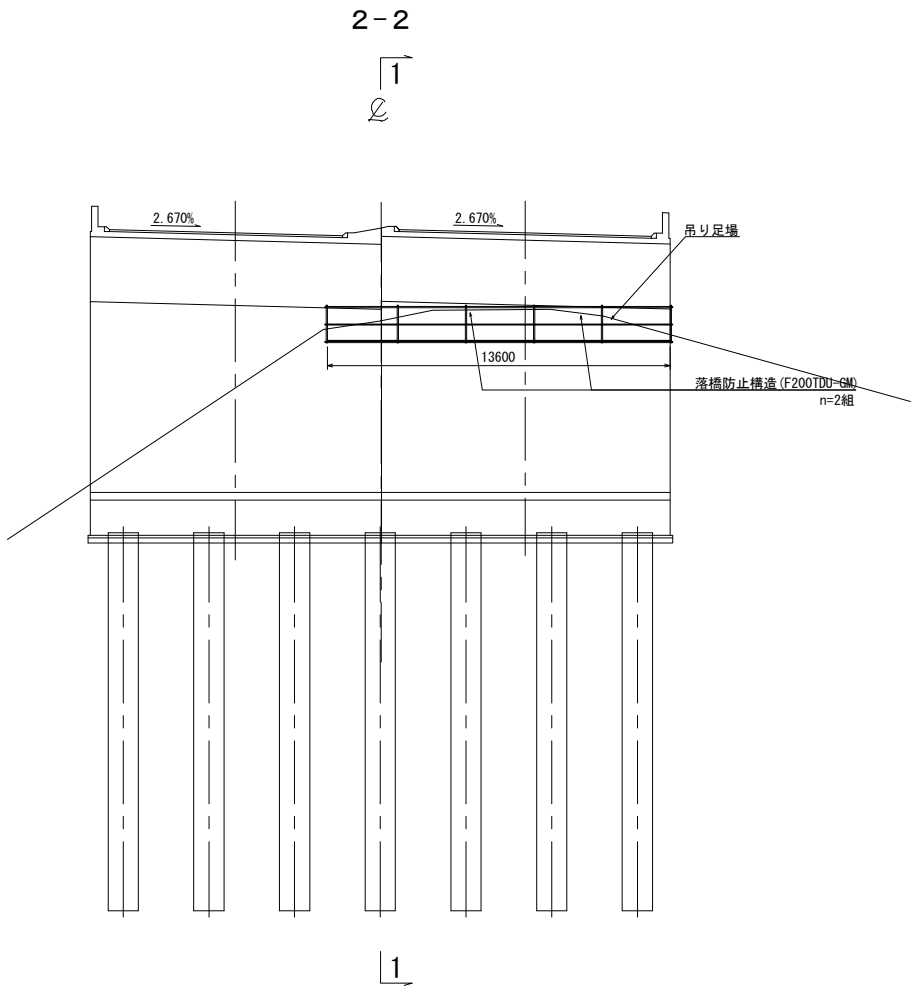
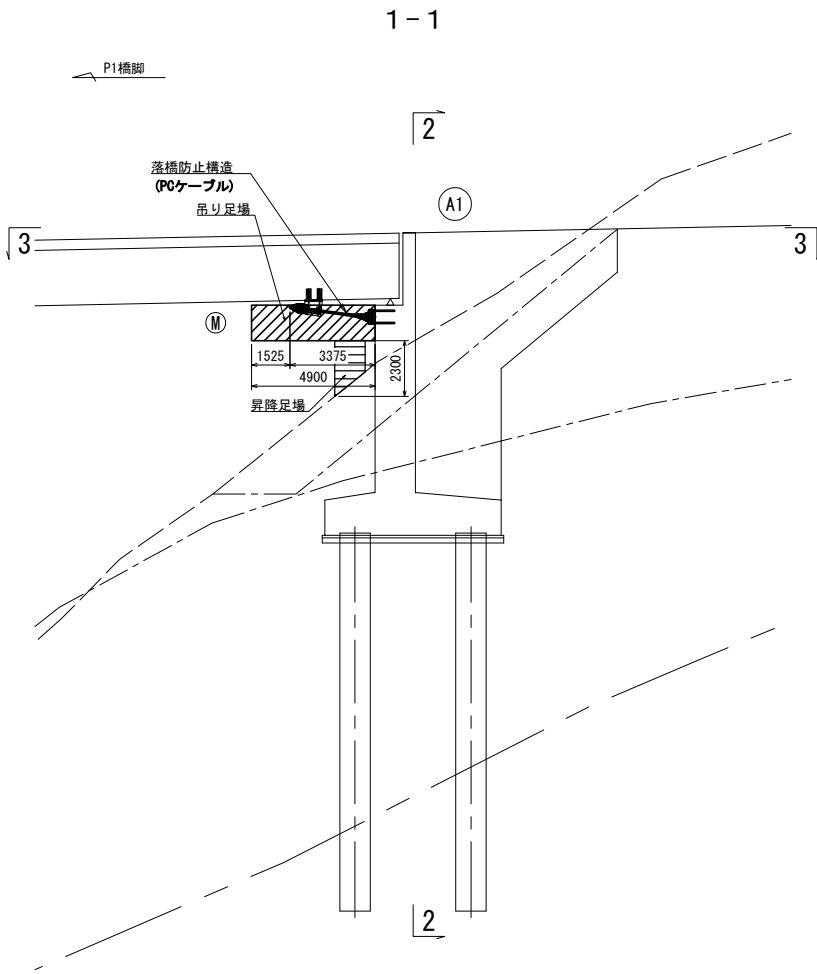


平面図
3-3



首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	丹尾高架橋 P4橋脚 足場工図（参考図）		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

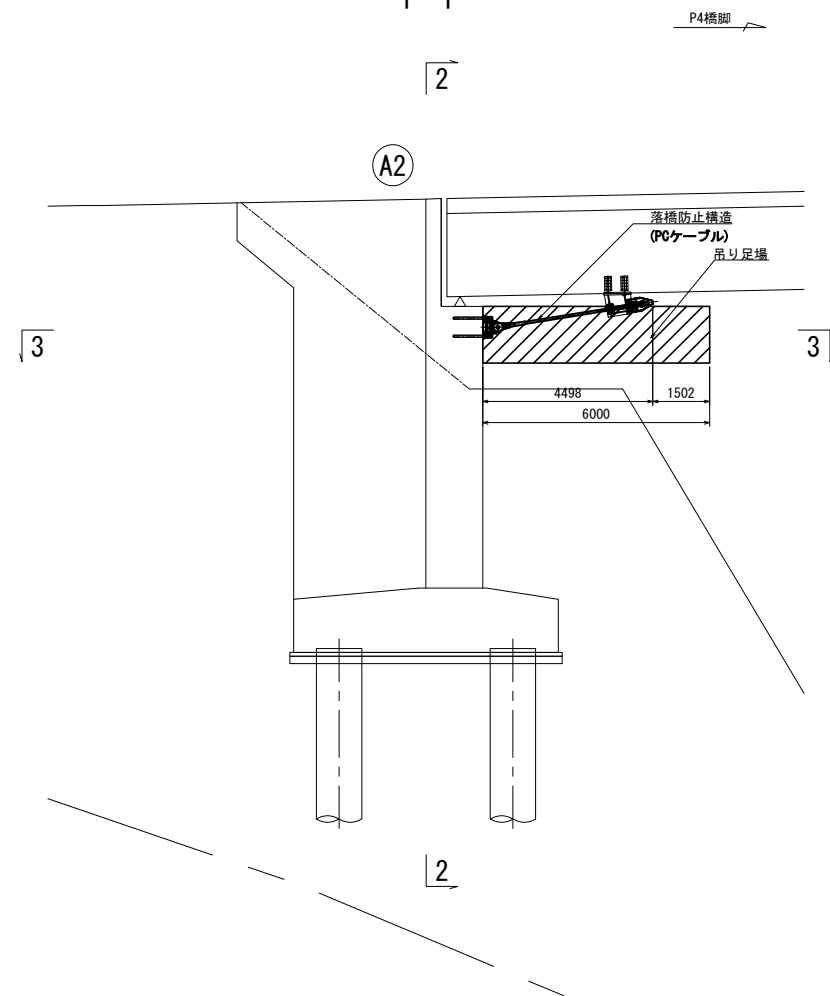
丹尾高架橋 A1橋台 上部工施工用足場工図（参考図） S=1 : 300



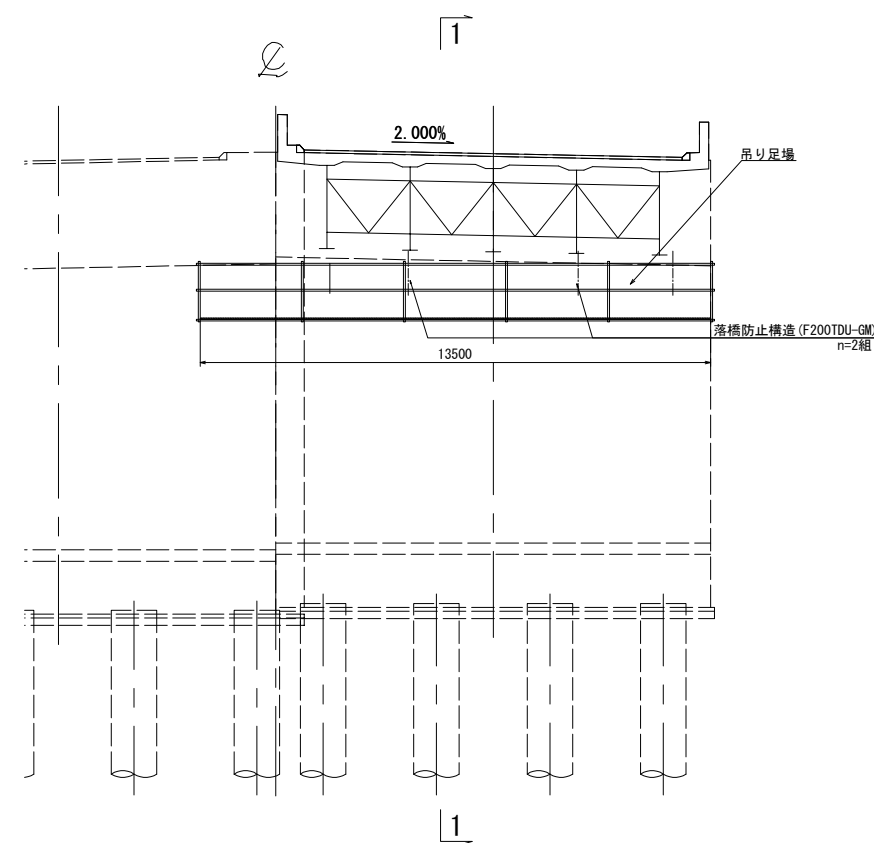
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	丹尾高架橋 A1橋台		
	上部工施工用足場工図（参考図）		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

丹尾高架橋 A2橋台 上部工施工用足場工図（参考図） S=1：200

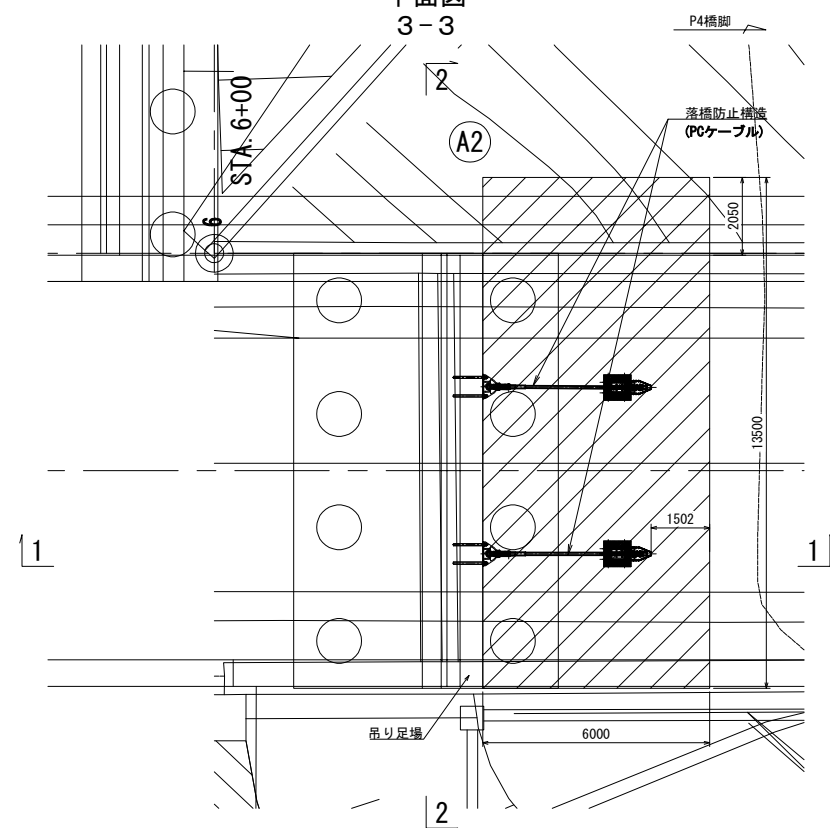
側面図
1-1



正面図
2-2



平面図
3-3



首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	丹尾高架橋 A2橋台		
	上部工施工用足場工図（参考図）		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

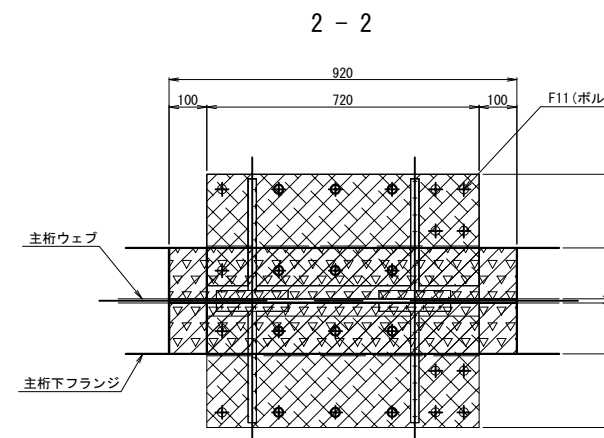
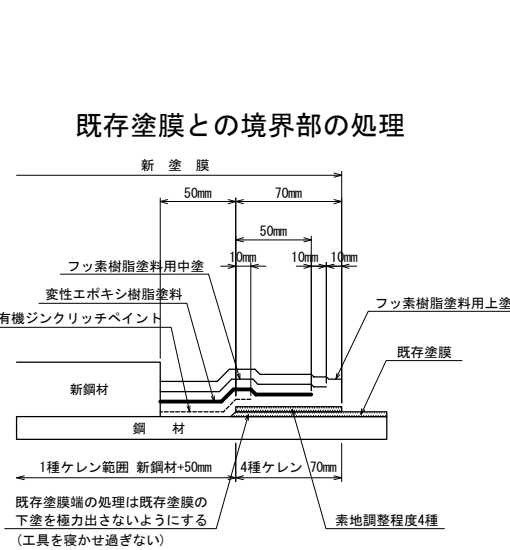
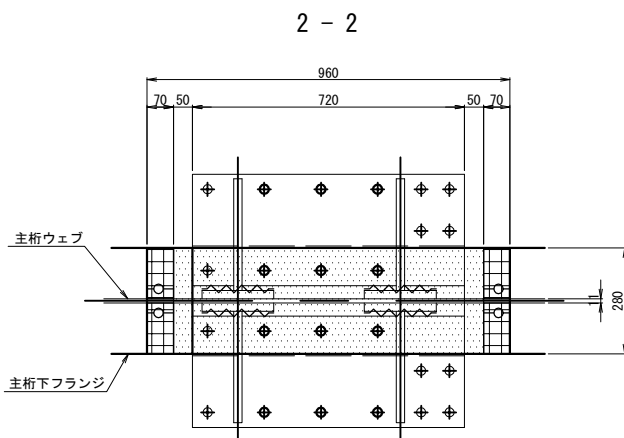
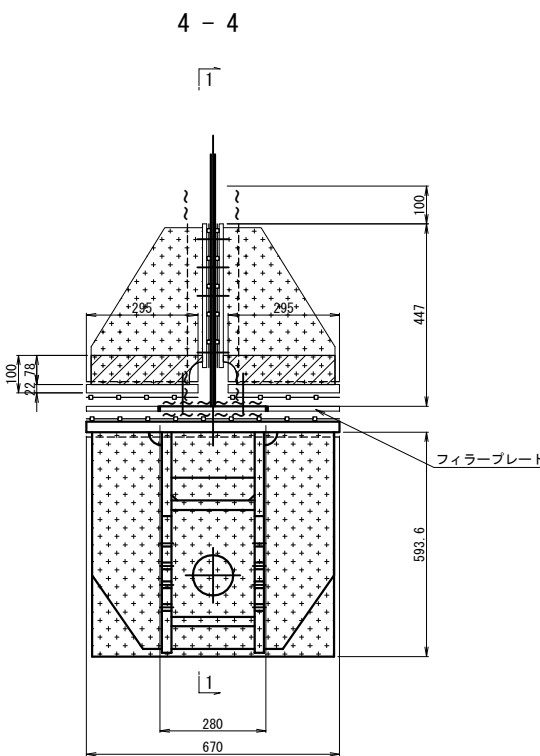
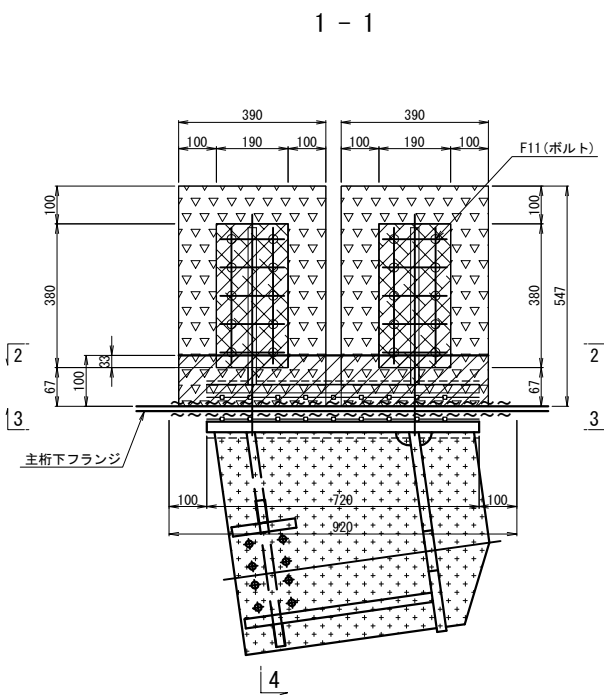
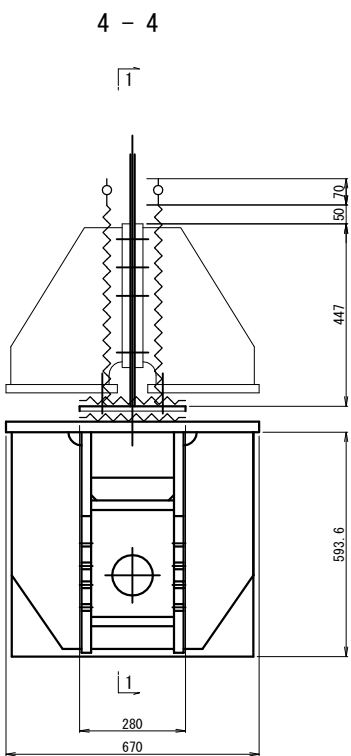
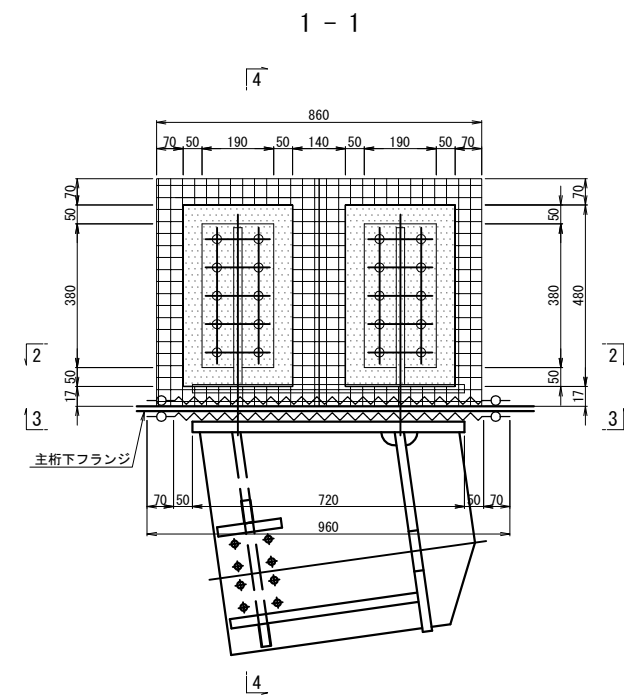
丹尾高架橋 塗装区分図(その1)

S=1:20

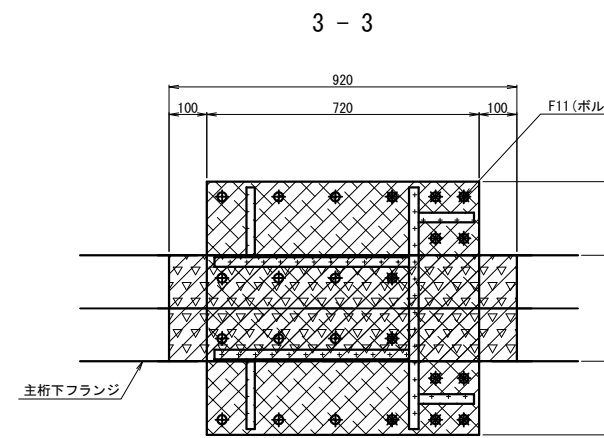
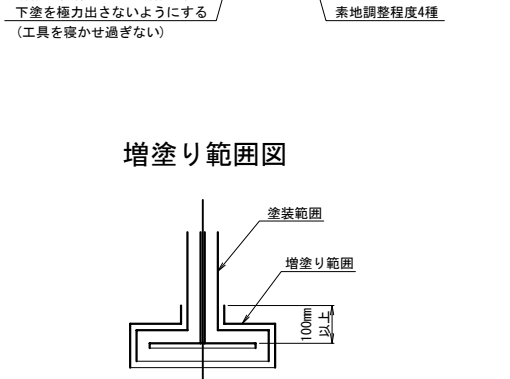
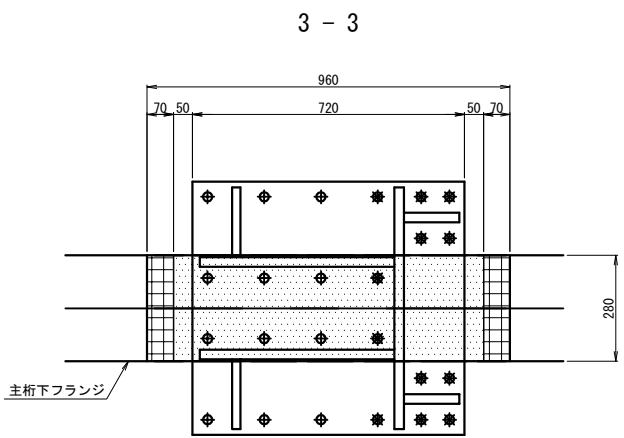
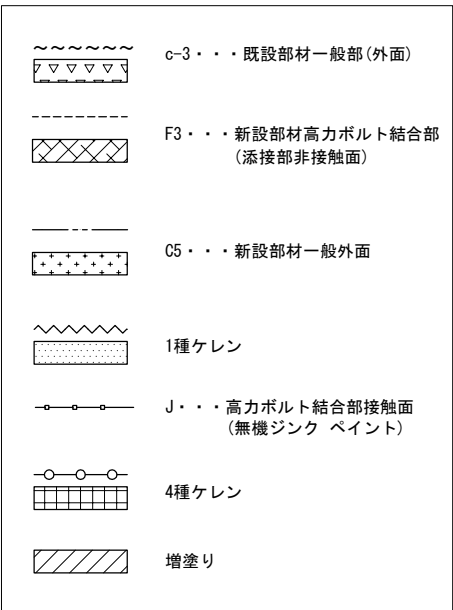
A1橋台：上部エブラケット

素地調整範囲

再塗装範囲



凡例



首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	丹尾高架橋 塗装区分図(その1)		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

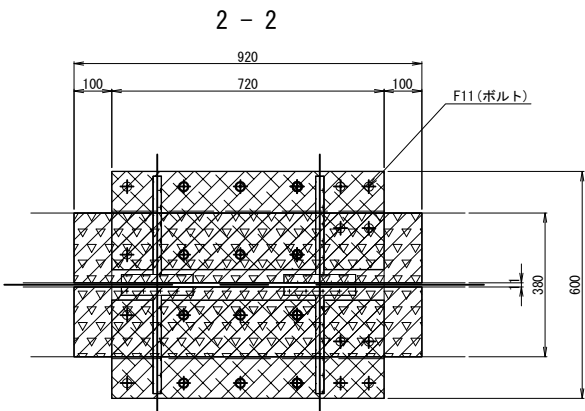
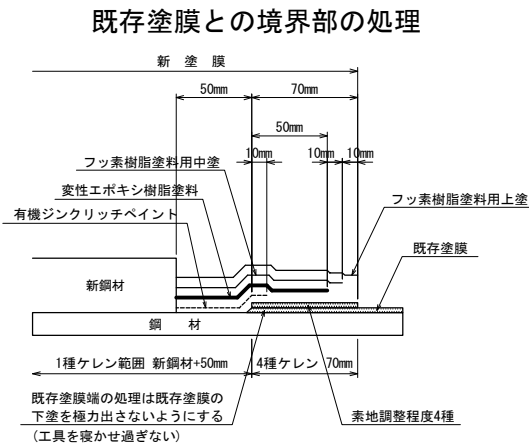
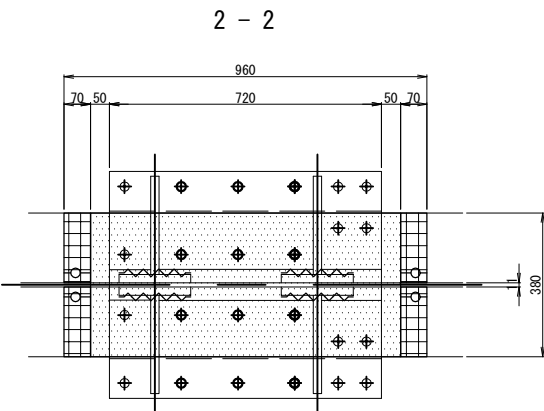
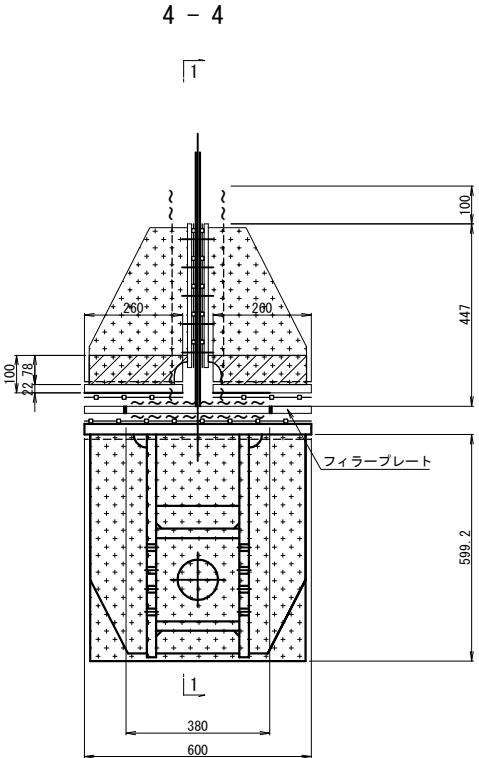
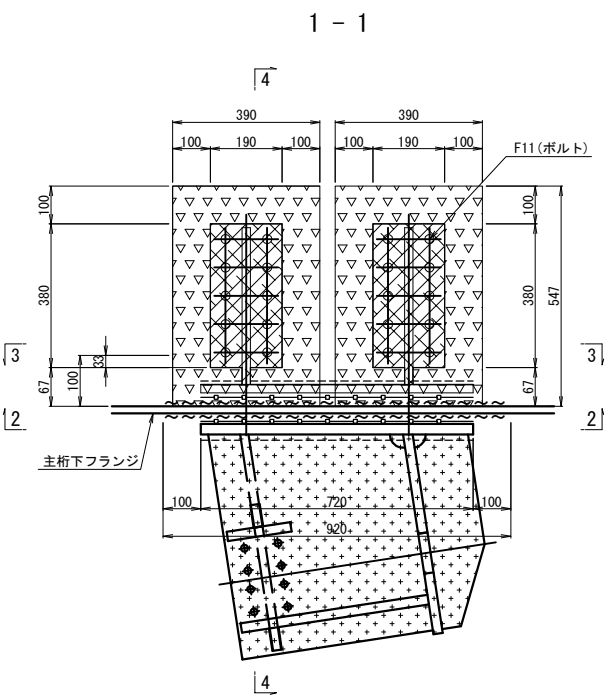
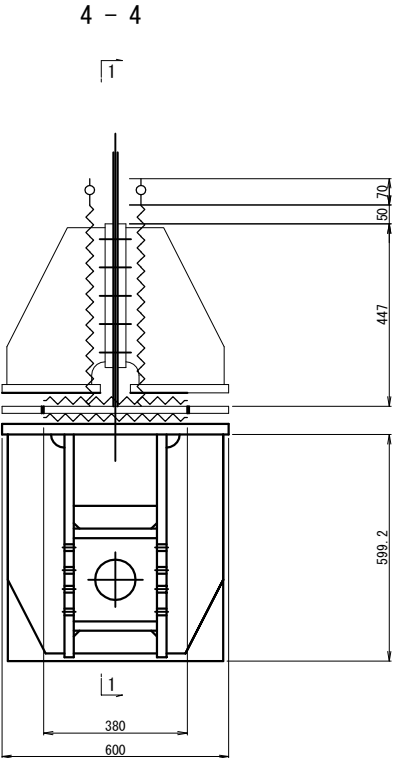
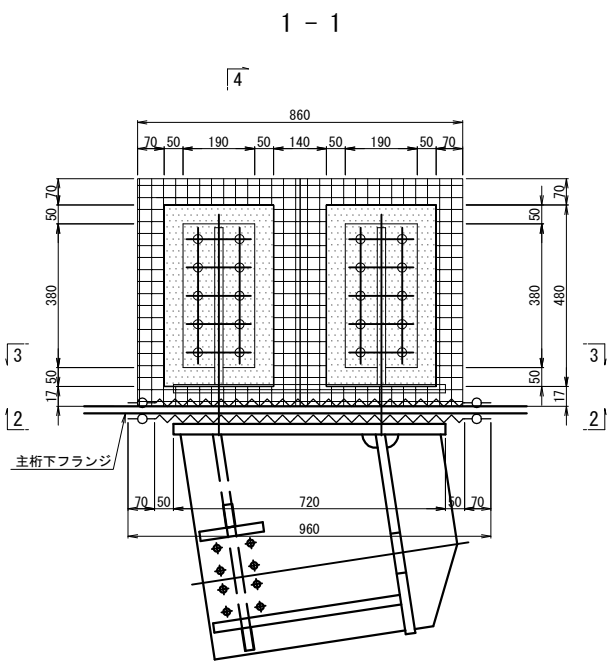
丹尾高架橋 塗装区分図(その2)

S=1:20

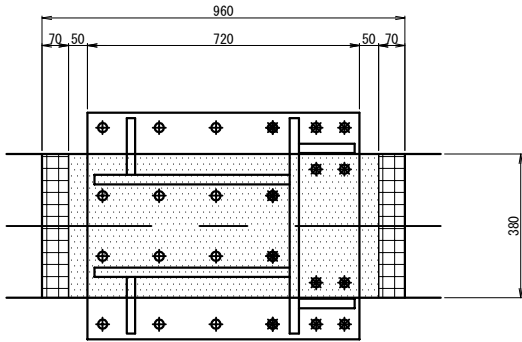
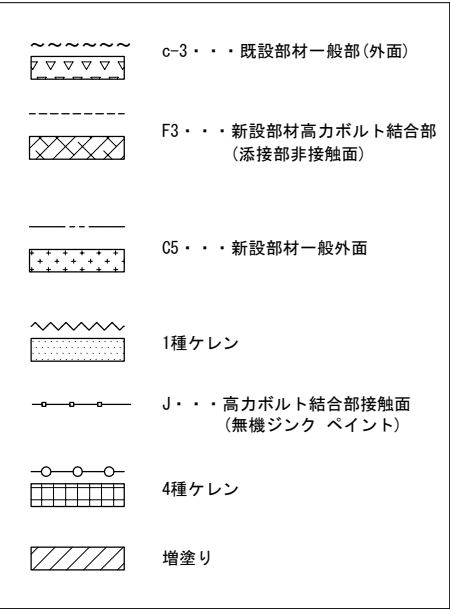
A2橋台：上部エブラケット

素地調整範囲

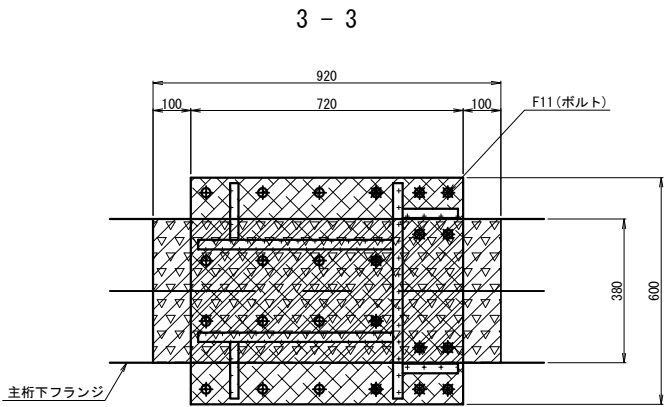
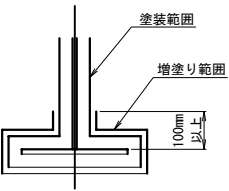
再塗装範囲



凡例



増塗り範囲図



首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	丹尾高架橋 塗装区分図(その2)		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

丹尾高架橋 塗装区分図(その3)

塗装仕様

塗装区分	工 程		塗料または素地調整程度	標準使用量 (g/m ²)	塗装間隔	標準膜厚 (μm)
c-3	現場塗装	素地調整	1種	－	4hr 以内	－
		下 塗 1 層	有機ジンクリッチペイント	ハケ250×2 (スプレー600)	2 ～ 10日	75
		下 塗 2 層	変性エポキシ樹脂塗料下塗 (はく離抑制型変性エポキシ樹脂塗料下塗)	スプレー240	2 ～ 10日	60
		下 塗 3 層	変性エポキシ樹脂塗料下塗 (はく離抑制型変性エポキシ樹脂塗料下塗)	ハケ200 (スプレー240)	1 ～ 10日	60
		中 塗	ふっ素樹脂塗料用中塗	ハケ140 (スプレー170)	1 ～ 10日	30
		上 塗	ふっ素樹脂塗料上塗	ハケ120 (スプレー140)	－	25

塗装仕様

塗装区分	工 程		塗料または素地調整程度	標準使用量 (g/m ²)	塗装間隔	標準膜厚 (μm)
c-3 増塗り	現場塗装	素地調整	1種	－	4hr 以内	－
		下 塗 1 層	有機ジンクリッチペイント	ハケ250×2 (スプレー600)	2 ～ 10日	75
		下 塗 2 層	変性エポキシ樹脂塗料下塗 (はく離抑制型変性エポキシ樹脂塗料下塗)	スプレー240	2 ～ 10日	60
		下 塗 3 層	変性エポキシ樹脂塗料下塗 (はく離抑制型変性エポキシ樹脂塗料下塗)	ハケ200 (スプレー240)	1 ～ 10日	60
		下 塗 3 層 増 塗 り	変性エポキシ樹脂塗料下塗 (はく離抑制型変性エポキシ樹脂塗料下塗)	ハケ200 (スプレー240)	1 ～ 10日	120
		中 塗	ふっ素樹脂塗料用中塗	ハケ140 (スプレー170)	1 ～ 10日	30
		上 塗	ふっ素樹脂塗料上塗	ハケ120 (スプレー140)	－	25

塗装仕様

塗装区分	工 程		塗料または素地調整程度	標準使用量 (g/m ²)	塗装間隔	標準膜厚 (μm)
C5	前処理	素地調整	G - a (プラスト ISO Sa2・1/2)	－	2hr 以内	－
		プライマー	無機ジンクリッチプライマー	スプレー160	～ 6か月	(15)
	工場塗装	2次素地調整	G - a (プラスト ISO Sa2・1/2)	－	2hr 以内	－
		下塗 第1層	無機ジンクリッチペイント	スプレー600	2hr 以内	75
		ミストコート	エポキシ樹脂塗料下塗あるいは 厚膜形エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	スプレー160	2 ～ 10日	－
		下塗 第2層	厚膜形エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	スプレー540	1 ～ 10日	120
		中 塗	ふっ素樹脂塗料用中塗	スプレー170	1 ～ 10日	30
		上 塗	ふっ素樹脂塗料上塗	スプレー140	1 ～ 10日	25

塗装仕様

塗装区分	工 程		塗料または素地調整程度	標準使用量 (g/m ²)	塗装間隔	標準膜厚 (μm)
C5 増塗り	前処理	素地調整	G - a (プラスト ISO Sa2・1/2)	－	2hr 以内	－
		プライマー	無機ジンクリッチプライマー	スプレー160	～ 6か月	(15)
	工場塗装	2次素地調整	G - a (プラスト ISO Sa2・1/2)	－	2hr 以内	－
		下塗 第1層	無機ジンクリッチペイント	スプレー600	2hr 以内	75
		ミストコート	エポキシ樹脂塗料下塗あるいは 厚膜形エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	スプレー160	2 ～ 10日	－
		下塗 増塗り	厚膜形エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	スプレー540	1 ～ 10日	120
		下塗 第2層	厚膜形エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	スプレー540	1 ～ 10日	120
		中 塗	ふっ素樹脂塗料用中塗	スプレー170	1 ～ 10日	30
		上 塗	ふっ素樹脂塗料上塗	スプレー140	1 ～ 10日	25

塗装仕様

塗装区分	工 程		塗料または素地調整程度	標準使用量 (g/m ²)	塗装間隔	標準膜厚 (μm)
F3	前処理	素地調整	G - a (プラスト ISO Sa2・1/2)	－	2hr 以内	－
		プライマー	無機ジンクリッチプライマー	スプレー160	～ 6か月	(15)
	工場塗装	2次素地調整	G - a (プラスト ISO Sa2・1/2)	－	2hr 以内	－
		下塗 第1層	無機ジンクリッチペイント	スプレー600	2日 ～ 12か月	75
	現場塗装	ミストコート	変性エポキシ樹脂塗料下塗あるいは 厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	(スプレー160) ハケ130	1 ～ 10日	－
		下塗 第2層	厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	(スプレー360) ハケ300	1 ～ 10日	90
		下塗 第3層	厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	(スプレー360) ハケ300	1 ～ 10日	90
		中 塗	ふっ素樹脂塗料用中塗	(スプレー170) ハケ140	1 ～ 10日	30
		上 塗	ふっ素樹脂塗料上塗	(スプレー140) ハケ120	1 ～ 10日	25

塗装仕様

塗装区分	工 程		塗料または素地調整程度	標準使用量 (g/m ²)	塗装間隔	標準膜厚 (μm)
F3 増塗り	前処理	素地調整	G - a (プラスト ISO Sa2・1/2)	－	2hr 以内	－
		プライマー	無機ジンクリッチプライマー	スプレー160	～ 6か月	(15)
	工場塗装	2次素地調整	G - a (プラスト ISO Sa2・1/2)	－	2hr 以内	－
		下塗 第1層	無機ジンクリッチペイント	スプレー600	2日 ～ 12か月	75
	現場塗装	ミストコート	変性エポキシ樹脂塗料下塗あるいは 厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	(スプレー160) ハケ130	1 ～ 10日	－
		下塗 増塗り	厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	(スプレー360) ハケ300	1 ～ 10日	90
		下塗 第2層	厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	(スプレー360) ハケ300	1 ～ 10日	90
		下塗 第3層	厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	(スプレー360) ハケ300	1 ～ 10日	90
		中 塗	ふっ素樹脂塗料用中塗	(スプレー170) ハケ140	1 ～ 10日	30
		上 塗	ふっ素樹脂塗料上塗	(スプレー140) ハケ120	1 ～ 10日	25

塗装仕様

塗装区分	工 程		塗料または素地調整程度	標準使用量 (g/m ²)	塗装間隔	標準膜厚 (μm)
J	前処理	素地調整	G - a (プラスト ISO Sa2・1/2)	－	2hr 以内	－
		プライマー	無機ジンクリッチプライマー	スプレー160	～ 6か月	(15)
	工場塗装	2次素地調整	G - a (プラスト ISO Sa2・1/2)	－	2hr 以内	－
		下塗	無機ジンクリッチペイント	スプレー600	－	75

細別	記号	A1	A2	合計	単位
素地調整1種		1. 1	1. 1	2. 2	m2
素地調整4種		0. 8	0. 8	1. 6	m2
既設部材外面	c-3	2. 7	3. 1	5. 8	m2
既設部材外面 (増塗り)	c-3	1. 3	1. 7	3. 0	m2
新設部材高力ボルト結合部	F3	2. 4	2. 2	4. 6	m2
新設部材高力ボルト結合部 (増塗り)	F3	0. 1	0. 1	0. 2	m2
高力ボルト結合部接触面	J	2. 4	2. 2	4. 6	m2
高力ボルト頭部および現場溶接部 (熱影響部) の塗装系	F11	0. 4	0. 4	0. 8	m2
高力ボルト頭部および現場溶接部 (熱影響部) の塗装系 (増塗り)	F11	0. 3	0. 3	0. 6	m2
新設一般部外面	C5	6. 7	6. 2	12. 9	m2
新設一般部外面 (増塗り)	C5	0. 2	0. 2	0. 4	m2

塗装仕様

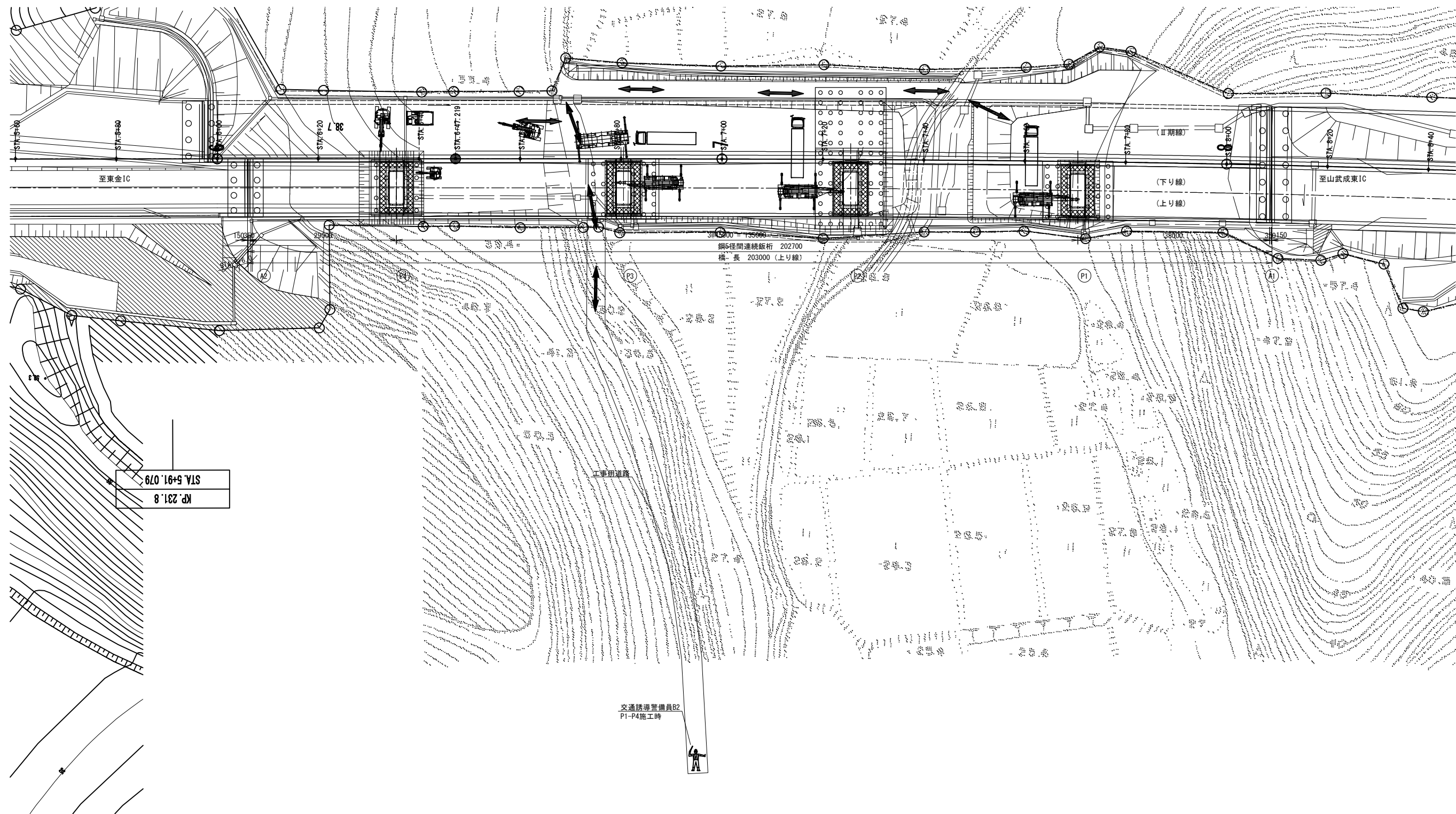
塗装区分	工 程		塗料または素地調整程度	標準使用量 (g/m ²)	塗装間隔	標準膜厚 (μm)
F11	現場塗装	素地調整	G - c (動力工具 ISO St. 3)	－	2hr 以内	－
		下塗 第1層	有機ジンクリッチペイント	ハケ240	1 ～ 10日	30
		下塗 第2層	有機ジンクリッチペイント	ハケ240	1 ～ 10日	30
		下塗 第3層	厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	(スプレー360) ハケ300	1 ～ 10日	90
		下塗 第4層	厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	(スプレー360) ハケ300	1 ～ 10日	90
		中 塗	ふっ素樹脂塗料用中塗	(スプレー170) ハケ140	1 ～ 10日	30
		上 塗	ふっ素樹脂塗料上塗	(スプレー140) ハケ120	1 ～ 10日	25

塗装仕様

塗装区分	工 程		塗料または素地調整程度	標準使用量 (g/m ²)	塗装間隔	標準膜厚 (μm)
F11 増塗り	現場塗装	素地調整	G - c (動力工具 ISO St. 3)	－	2hr 以内	－
		下塗 第1層	有機ジンクリッチペイント	ハケ240	1 ～ 10日	30
		下塗 第2層	有機ジンクリッチペイント	ハケ240	1 ～ 10日	30
		下塗 増塗り	厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	(スプレー360) ハケ300	1 ～ 10日	90
		下塗 第3層	厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	(スプレー360) ハケ300	1 ～ 10日	90
		下塗 第4層	厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	(スプレー360) ハケ300	1 ～ 10日	90
		中 塗	ふっ素樹脂塗料用中塗	(スプレー170) ハケ140	1 ～ 10日	30
		上 塗	ふっ素樹脂塗料上塗	(スプレー140) ハケ120	1 ～ 10日	25

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	丹尾高架橋 塗装区分図 (その3)		
縮 尺	—	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

下部工補強施工時 S=1:800

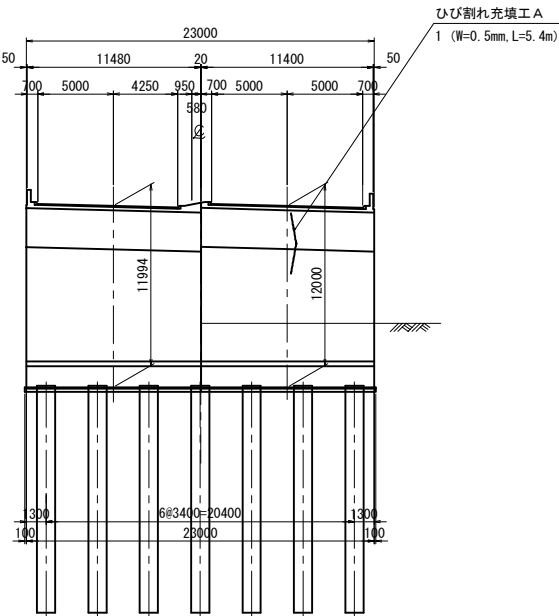


首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	丹尾高架橋		
	交通保安要員配置図(参考図)		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

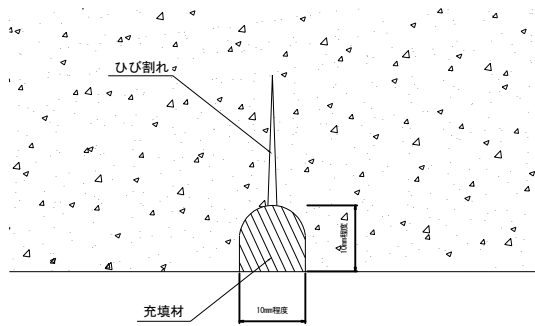
丹尾高架橋 A1橋台 補修図

S=1 : 250

正面図



ひび割れ充填工 詳細図



ひび割れ充填工 A 数量内訳表

損傷 番号	部材名	ひび割れ		箇所	ひび割れ 延長 (m)	備考
		幅 (mm)	長さ (m)			
1	橋台前面	0.5	5.4	1	5.4	
合計				1	5.4	

数量表

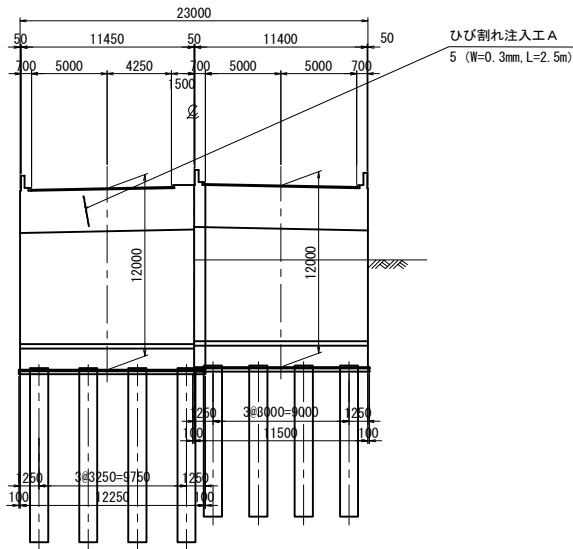
項目	単位	数量
ひび割れ充填工 A	m	5.4

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	丹尾高架橋 A1橋台 補修図		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

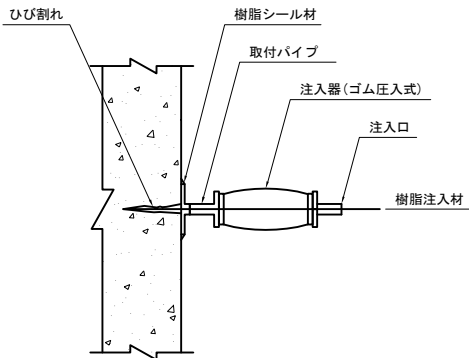
丹尾高架橋 A2橋台 補修図

S=1 : 250

正面図



ひび割れ注入工 詳細図（参考図）



ひび割れ注入工 A 数量内訳表

損傷 番号	部材名	ひび割れ		箇所	ひび割れ 延長 (m)	備考
		幅 (mm)	長さ (m)			
5	橋台前面	0.3	2.5	1	2.5	
合計				1	2.5	

数量表

項目	単位	数量
ひび割れ注入工 A	m	2.5

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	丹尾高架橋 A2橋台 補修図		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		